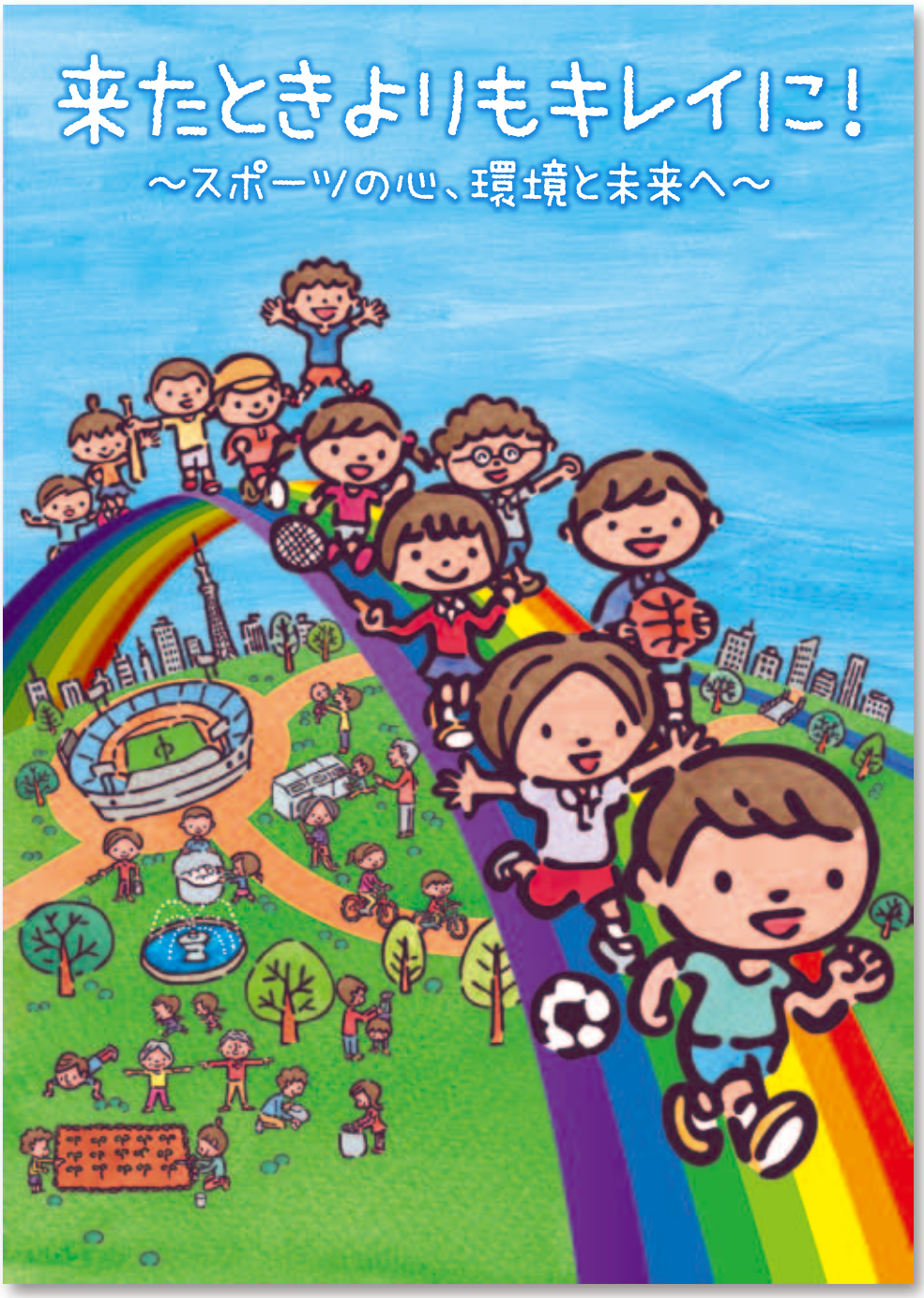
平成 26 年度

JOCスポーツ環境専門部会
活動報告書

JOC SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION REPORT 2014



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION

公益財団法人 日本オリンピック委員会　スポーツ環境専門部会

平成26年度

JOCスポーツ環境専門部会
活動報告書

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE

公益財団法人 日本オリンピック委員会　スポーツ環境専門部会

スポーツと環境についての啓発活動

Japanese Olympic Committee

環境基本理念

公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、オリンピック・ムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC事務所の環境への取り組みを実践し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより地球環境の保全に貢献する。

行動指針

1. JOC事務所において、電力の節減、紙の有効利用などの省資源及び資源リサイクルを推進する。
2. 新たに物品を調達するにあたってはグリーン購入を優先する。
3. 環境に関する法的要求事項及び、その他の要求事項を遵守する。
4. 環境の教育啓発活動の推進によって、全ての職員が環境方針を理解し、その実現に努めるとともに、環境方針を外部にも公表する。

公益財団法人日本オリンピック委員会
会長　竹田 恆和

●第10回JOCスポーツと環境・地域セミナー（秋田市：JOCパートナー都市）

会期：2014年11月5日(水)／会場：秋田市にぎわい交流館AU（あう）／参加人数：170名

藤原庸介 JOC理事

石井周悦 秋田市副市長

大塚眞一郎 JOC理事／スポーツ環境専門部会部会長

左から大林素子氏、宮下純一氏、上田藍氏

三浦 勉 秋田市環境部環境総務課地球温暖化対策担当課長

高畠靖明 秋田プロバスケットボールクラブ株式会社専務取締役

会場風景

前列左から大塚眞一郎部会長、石井周悦副市長、藤原庸介理事
後列左から三浦勉氏、大林素子氏、宮下純一氏、上田藍氏、高畠靖明氏

●第11回JOCスポーツと環境・担当者会議

会期：2015年2月19日（木）／会場：味の素ナショナルトレーニングセンター／参加人数：80名

平岡英介 JOC常務理事／総務委員長

大塚眞一郎 JOC理事／スポーツ環境専門部会部会長

上田康治 環境省 総合環境政策局総務課長

本橋淳 東京2020組織委員会 持続可能性担当課長

玉利聡一 JOCスポーツ環境専門部会員

西山雄二 JOCスポーツ環境専門部会員

参加者からの質問

会場風景

●オリンピックデーラン

会期：平成27年7月6日（日）～ 11月30日（日）／会場：全国7会場／のべ参加人数：13,342名

（士別大会）

（福岡大会）

受付にポスターを掲示（ひたちなか大会）

●オリンピック親子チャレンジ

会期：2014年7月26日（土）27日（日）／会場：国立妙高青少年自然の家／参加人数：50名

講義会場にポスターを掲示

イベントでは、環境に関する講話を行うと共に、スポーツ環境の報告書も配布した

(公財)日本陸上競技連盟

Japan Association of Athletics Federation

●セイコーゴールデングランプリ陸上2014

会期：2014年5月11日(日)／会場：東京都・国立競技場

JAAFグリーンプロジェクトの一環として、サブイベント出場の子どもたちにゴーヤの種を配布

●第45回ジュニアオリンピック陸上競技大会

会期：2014年10月31日(金)～11月2日(日)／会場：神奈川県・日産スタジアム

環境ポスターの前で記念撮影。尾縣専務理事(左端)と福島千里選手(右端)

飯塚翔太選手(左から2人目)

（公財）日本水泳連盟

Japan Swimming Federation

●第6回エココンテスト表彰式（スイムエコポスターデザインコンテスト）

会期：2014年6月19日（木）／会場：東京辰巳国際水泳場（JAPAN OPEN 2014）

表彰式は、JAPAN OPEN 2014の開始式で行われた。
今回のコンテストには346作品の応募があった
後列左から日本スイミングクラブ協会 岡本實副会長、鈴木大地会長、日本マスターズ水泳協会高木忠之専務理事、前列左から準グランプリ小柴雅樹さんの代理で齋藤由紀スポーツ環境委員長、グランプリ山本英雄さん、準グランプリ高松莞吹さん

左から準グランプリ（日本マスターズ水泳協会 会長賞）を受賞した高木忠之専務理事と高松莞吹さん（長野県）

左から鈴木大地 日本水泳連盟会長とグランプリ（日本水泳連盟会長賞）を受賞した山本英雄さん（大阪府）

●日本スポーツマスターズ2014埼玉大会

会期：2014年8月30日（土）～ 31日（日）

会場：埼玉県・川口青木町公園総合運動場プール

環境横断幕を囲んでのフォトセッション

●第90回日本学生選手権水泳競技大会

会期：2014年9月5日（金）～ 7日（日）

会場：神奈川県・横浜国際プール（横浜市）

環境横断幕を囲んでのフォトセッション

●FINA/MASTBANK競泳ワールドカップ2014東京大会

会期：2014年10月28日（火）～ 29日（水）

会場：東京都・東京辰巳国際水泳場（江東区）

環境横断幕を囲んでのフォトセッション

(公財)日本サッカー協会

Japan Football Association

●カマタマーレ讃岐　海ごみ拾ッターレ讃岐

会期：2015年3月22日(土)
会場：香川県・沙弥島海岸、香東川河川敷

2会場、約100名の参加により瀬戸内海の環境美化に貢献

●横浜F・マリノス　第62回ザよこはまパレードへの参加

会期：2014年5月3日(土・祝)
会場：神奈川県・横浜市山下公園前

横浜市と一体になり、清掃活動から各種啓発活動まで総合的に実施

●大宮アルディージャ　大宮クリーン大作戦

会期：2014年5月30日(金)
会場：埼玉県・さいたま市大宮区

10年以上継続する地域一体で行っている清掃活動

●ギラヴァンツ北九州　曽根干潟クリーン作戦

会期：2014年5月12日(木)
会場：福岡県・北九州市小倉南区曽根干潟

クラブマスコットのギランも小学生たちと一緒に干潟の清掃活動を実施

●名古屋グランパス　スーパークールビズ2014への協力

会期：2014年6月4日(水)
会場：愛知県・ジェイアール名古屋タカシマヤ

クラブマスコットのグランパスくん、グランパコちゃんもクールビズを積極PR

●日本サッカー協会　ペーパーレス活動推進中

会場：東京都・本協会

理事会もiPad利用により、紙資源を節約

(公財)全日本スキー連盟

Ski Association of Japan

●「I LOVE SNOW」One's Handsキッズスノーフェスタ2015 in 岩手

会期：2015年3月8日(日)／会場：岩手県・雫石スキー場

雪と触れ合い、楽しい一日となった。また、雪の大切さも実感した

(公財)日本テニス協会

JAPAN TENNIS ASSOCIATION

●第32回全国小学生テニス選手権大会

会期：2014年7月28日(月)～30日(水)

会場：東京都・第一生命保険株式会社　相娯園グラウンドテニスコート

●橋本総業全日本テニス選手権89th

会期：2014年11月2日(日)～11月9日(日)

会場：東京都・有明コロシアム 有明テニスの森公園

●テニスの日

会期：2014年9月23日(火)

会場：東京都・有明テニスの森公園

有明メイン会場にて中古テニスボールとラケットの回収

●Baby Steps環境ポスター

テニス漫画『Baby Steps』の登場人物がモデルの広報用ポスターを啓発活動に利用

(公社)日本ボート協会

Japan Rowing Association

●第92回全日本選手権大会

会期：2014年9月14日(日)／会場：埼玉県・戸田ボートコース

女子舵手つきクオドルプル決勝の様子

●都道府県連絡協議会

会期：2014年10月18日(土)／会場：長崎県

国民体育大会ボート競技第1日目、47都道府県代表者が集まる会場に環境ポスターを掲示

●秋の海の森まつり

会期：2014年11月15日(土)／会場：東京都・海の森

「海の森」公園予定地での植樹には協会関係者●名が参加

ボランティアと参加者全員で記念撮影

●セーフティーアドバイザー講習会

会期：2015年2月1日(日)／会場：埼玉県・戸田公園管理事務所2F会議室

安全、気象、スポーツに関する法律に関する講習会では、環境に関する啓発も実施

（公社）日本ホッケー協会

Japan Hockey Association

●平成26年度ルール研修会

会期：2015年2月14日（土）～ 15日（日）／会場：奈良県・天理大学体育学部講義室

研修会風景

会場内に環境バナーを掲示

（公財）日本自転車競技連盟

JAPAN CYCLING FEDERATION

●第83回全日本自転車競技選手権大会ロードレース
第18回全日本選手権個人タイム・トライアル・ロード・レース大会

会期：2014年6月27日（金）～ 29日（日）

会場：岩手県・岩手山パノラマラインコース

レース会場の様子。競技中におけるゴミ廃棄場所の指定、競技エリアの整理整頓

●第27回全日本マウンテンバイク選手権大会

会期：2014年7月18日（金）～ 20日（日）

会場：静岡県・日本サイクルスポーツセンター

フィニッシュ地点へのバナー掲示

(公財)日本バレーボール協会

Japan Volleyball Association

●平成26年度天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会ファイナルラウンド

会期：2014年12月10日(水)～12月14日(日)／会場：東京体育館

会場内に社会貢献プロジェクト「バレーボールバンク」のブース設置

大会期間中に回収したバレーボールや使用済み用具

●JOCジュニアオリンピックカップ 第28回全国都道府県対抗中学バレーボール大会

会期：2014年12月25日(木)～12月28日(日)／会場：大阪市中央体育館

体育館中央入口にてブース設置

●春の高校バレー第67回全日本 バレーボール高等学校選手権大会

会期：2015年1月5日(月)～1月7日(水)、
1月10日(土)～1月11日(日)
会場：東京体育館

「バレーボールバンク」に寄せられたバレーボール

●ファミリーマートカップ第34回全日本バレーボール小学生大会

会期：2014年8月13日(水)～8月16日(土)
会場：東京体育館

開会式の入場行進時に、各チームから「バレーボールバンク」へボール1個が手渡された

(公財)日本体操協会

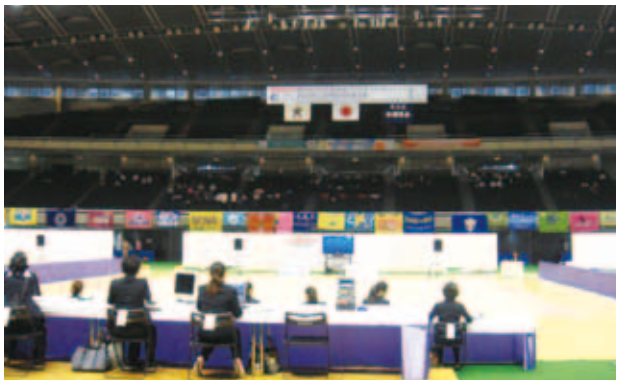
Japan Gymnastics Association

●第68回全日本体操競技選手権大会

会期：2014年5月9日(金)～11日(日)
会場：東京都・代々木第一体育館

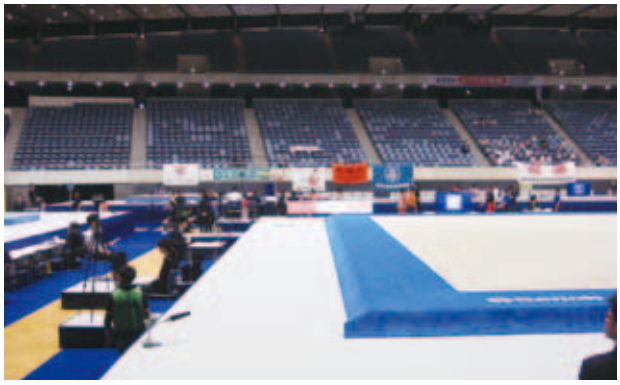
●第12回全日本新体操ユースチャンピオンシップ

会期：2014年5月30日(金)～6月1日(日)
会場：東京都・東京体育館



●第53回NHK杯体操

会期：2014年6月7日(土)～8日(日)
会場：東京都・代々木第一体育館



第68回全日本体操競技種目別選手権大会

会期：2014年7月5日(土)～6日(日)
会場：千葉県・千葉ポートアリーナ

●第68回全日本体操競技団体選手権大会

会期：2014年11月1日(土)～2日(日)
会場：東京都・代々木第一体育館

0

●第8回常務理事会

会期：2015年3月6日(金)
会場：東京都・岸記念体育会館会議室

会議資料を極力ペーパーレス化し、紙資源を節約

(公財)日本バスケットボール協会

JAPAN BASKETBALL ASSOCIATION

●第90回天皇杯・第81回皇后杯　全日本総合バスケットボール選手権大会

会期：2015年1月1日(木・祝)～4日(日)　準決勝・決勝1月10日(土)～12日(月・祝)

会場：東京都・国立代々木競技場第1体育館・第2体育館、駒沢体育館、大田区総合体育館

会場内にて環境バナーとポスターの掲出

男子決勝の日立サンロッカーズ東京対広島ドラゴンフライズ。竹内兄弟対決は弟に軍配が上がった！

●女子日本代表第1次強化合宿(公開練習)

会期：2014年6月5日(木)

会場：東京都・味の素ナショナルトレーニングセンター

会場内にて環境バナーの掲出
(リオオリンピック出場を目指して好スタート!!)

●女子日本代表国際親善試合

会期：2014年7月26日(土)

会場：秋田県・秋田市立体育館

会場内にて環境バナーの掲出
(女子日本代表:対モザンビーク代表戦)

●3×3男子日本代表第4次強化合宿全国

会期：2014年5月17日(土)～19日(月)

会場：東京都・味の素ナショナルトレーニングセンター

2020年正式種目を目指して本格的に始動!世界選手権大会にも出場した

●大会公式プログラムに環境ページを掲載

会期：2014年12月23日(火・祝)～29日(月)

会場：東京都・東京体育館

『第45回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会』に掲載

（公財）日本スケート連盟

Japan Skating Federation

●ISUグランプリ NHK杯国際フィギュアスケート競技大会

会期：2014年11月28日（金）～ 30日（日）／会場：大阪府門真市・なみはやドーム

●第83回全日本フィギュアスケート選手権大会

会期：2014年12月25日（木）～ 28日（日）／会場：長野県長野市・ビッグハット

●2015 ISU世界ジュニアショートトラック選手権大会

会期：2015年2月27日（金）～ 3月1日（日）／会場：大阪府大阪市・八幡屋スポーツパークセンター 大阪プール

(公財)日本アイスホッケー連盟

Japan Ice Hockey Federation

●全日本アイスホッケー選手権大会

会期：2014年12月5日(金)～7日(日)／会場：神奈川県・新横浜アリーナ

会場内での環境バナー掲出

ゴミの分別収集を励行

●IIHF女子世界選手権大会予選

会期：2014年11月8日(土)～11日(火)

会場：神奈川県・新横浜アリーナ

●J-ICEファイナル

会期：2015年3月21日(土)～22日(日)

会場：神奈川県・新横浜アリーナ

●第9回全日本女子アイスホッケー中学高校生大会

会期：2014年12月20日(土)～22日(月)

会場：

リユース食器の使用やノボリの掲出などさまざまな場面で環境活動を行っている

●全日本少年アイスホッケー大会

会期：2015年3月26日(木)～29日(日)

会場：長野県・軽井沢　風越アリーナ

（公財）日本レスリング協会

Japan Wrestling Federation

●特製環境ポスターを作成

JOC環境ポスターを縦2,800×横1,800mmサイズで
2枚作成し、大会会場等に掲示した

●平成26年度ジュニアクイーンズカップ選手権大会

会期：2014年4月6日（日）
会場：東京都世田谷区・駒沢オリンピック公園運動場　体育館
参加：165団体・471名

試合前のウオーミングアップ風景。会場内に環境バナーを掲示

●第31回全国少年少女レスリング選手権大会

会期：2014年7月25日（金）～ 27日（日）
会場：東京都渋谷区・国立代々木競技場第一体育館
参加：204クラブ・1559名

左からオリンピックメダリストの田南部 力さん、松永共広さん

●全国少年少女連盟　東日本ブロック・審判講習会

会期：2014年6月1日（日）
会場：千葉県松戸市・松戸運動公園体育館
参加：61名

審判講習会に協力してくれた子どもたちと審判資格取得者

●第69回国民体育大会「長崎がんばらんば国体」

会期：2014年10月13日（月・祝）～ 16日（土）
会場：長崎県島原市・島原復興アリーナ

試合風景と特製環境ポスター

●第19回全国少年少女選抜レスリング選手権大会

会期：2015年3月14日（土）～ 15日（日）
会場：岐阜県中津川市・東美濃ふれあいセンター
参加：128クラブ・573名

大会スタッフによってペットボトル、カンなどに分別された資源ゴミ

(公財)日本セーリング連盟

JAPAN SAILING FEDERATION

●第13回全日本49erクラス選手権大会

会期：2014年10月／会場：神奈川県・江ノ島

●第42回ホビーキャット16級全日本選手権大会

会期：2014年10月／会場：神奈川県・逗子

●2014年環境コンテスト

「残したいのはきれいな海」をイメージしたアートクラフト教室を保育園で開催

子供たちの作品例

●「ボート天国in小樽」タッチプール

小樽での環境啓発イベント

関東学生ヨット連盟によるビーチクリーン活動

（公社）日本ウエイトリフティング協会

Japan Weightlifting Association

●第69回国民体育大会（ウエイトリフティング競技会）

会期：2014年10月13日（月）～ 17日（金）／会場：長崎県・県立諫早農業高校第1体育館

団体優勝の沖縄県

●レディースカップ　第6回全日本女子選抜ウエイトリフティング選手権大会

会期：2014年11月19日（水）～ 21日（金）／会場：和歌山県・片男波公園

69kg級優勝の柏木麻希選手

団体優勝の関西大学

●第35回全日本ジュニアウエイトリフティング選手権大会

会期：2015年3月13日（金）～ 15日（日）／会場：東京都・大田区大森スポーツセンター

48kg級優勝の安嶋千晶選手

小池百合子会長と最優秀選手

(公財)日本ハンドボール協会

JAPAN HANDBALL ASSOCIATION

●高松宮記念杯第4回全日本社会人ハンドボール選手権大会

会期：2014年7月2日(水)～6日(日)
会場：愛知県・中村スポーツセンター他

●高松宮記念杯第65回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

会期：2014年8月2日(土)～7日(木)
会場：神奈川県・川崎市とどろきアリーナ他

●第69回国民体育大会ハンドボール競技

会期：2014年10月16日(木)～20日(月)
会場：長崎県・佐世保市東部スポーツ広場体育館他

●第66回全日本総合ハンドボール選手権大会

会期：2014年12月24日(水)～28日(日)
会場：愛知県・愛知県体育館他

●ANA CUP第39回日本ハンドボールリーグプレーオフ(男子)

会期：2015年3月21日(土)、22日(日)
会場：東京都・駒沢体育館

●プログラム掲載

第4回全日本社会人ハンドボール選手権、第39回日本ハンドボールリーグ2014-2015オフィシャルプログラム、第19回ヒロシマ国際ハンドボール大会、第10回春の全国中学生ハンドボール選手権大会、第39回日本ハンドボールリーグプレーオフ、第38回全国高等学校ハンドボール選抜大会

（公財）日本ソフトテニス連盟

Japan Soft Tennis Association

●第31回全日本小学生選手権大会

会期：2014年7月31日（木）～ 8月3日（日）

会場：大分県・だいぎんテニスコート他

環境横断幕を背に、左から大分県ソフトテニス連盟の井手一雄理事、同 白水厚一理事長、同 姫野嘉孝副会長、同　外川陽一副会長、（公財）日本ソフトテニス連盟の小原信幸副会長、同 今井史郎審判副委員長、同 柳下秋久常務理事

●第18回全日本シニア選手権大会

会期：2014年10月13日（月）～ 16日（木）

会場：徳島県・大神子テニスセンター他

環境横断幕を前に大会役員と入賞者。写真中央（公財）日本ソフトテニス連盟の表孟宏会長、徳島県ソフトテニス連盟の中山昌作会長

●第42回全日本社会人選手権大会

会期：2014年9月6日（土）～ 7日（日）

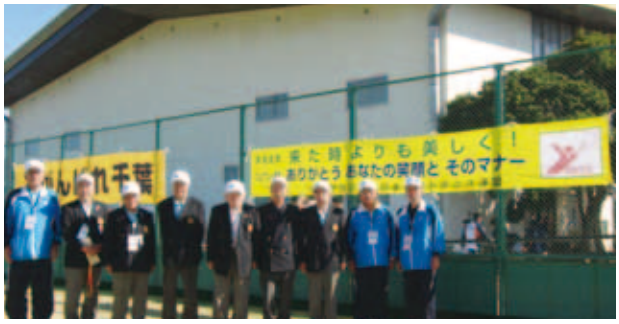
会場：京都府・三段池公園テニスコート他

左から、（公財）日本ソフトテニス連盟の笠井達夫専務理事、京都府ソフトテニス連盟の安道光二会長、（公財）日本ソフトテニス連盟の表孟宏会長、同 柳下秋久常務理事、京都府ソフトテニス連盟の山本毅理事長、（公財）日本ソフトテニス連盟の篠邉保理事

●第69回国民体育大会

会期：2014年10月13日（月）～ 16日（木）

会場：長崎県・佐世保総合グラウンド庭球場



左から、長崎県ソフトテニス連盟の馬場信幸理事長、（公財）日本ソフトテニス連盟の柳下秋久　常務理事、同 小原信幸副会長、同 西村信寛副会長、同表孟宏会長、長崎県ソフトテニス連盟の高谷信会長、（公財）日本ソフトテニス連盟の白水厚一理事、長崎県ソフトテニス連盟の野口達也理事、同 武林維佐男副理事長

●平成26年度臨時評議会

会期：2014年12月7日（日）

会場：東京都・アワーズイン阪急

全国の評議員が一堂に集い連盟の運営について審議

●平成26年度全国小・中・高指導者研修会

会期：2015年2月7日（土）～ 8日（日）

会場：大阪府・大阪アカデミア

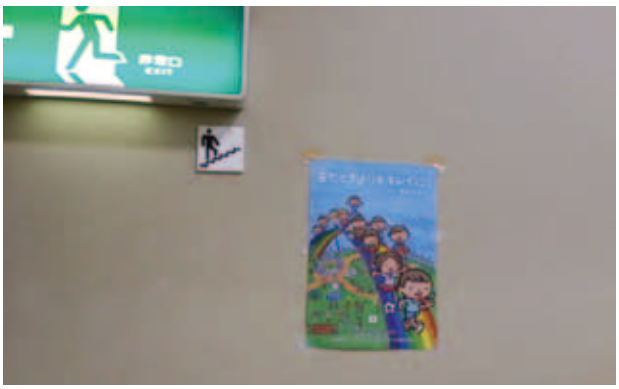
全国の小・中・高の指導者を前に挨拶をする
（公財）日本ソフトテニス連盟の笠井達夫専務理事

(公財)日本卓球協会

Japan Table Tennis Association

●平成26年度全国高等学校総合体育大会卓球大会

会期：2014年8月5日(火)～9日(土)
会場：山梨県・小瀬スポーツ公園体育館



会場が2カ所に分かれ開催されたが、各所に「来たときよりキレイに!」のポスター掲示

●平成26年度全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)

会期：2014年7月3日(木)～6日(日)
会場：東京都・墨田区総合体育館

会場入口に「スポーツでつなぐあした」のポスターを掲示

●天皇杯・皇后杯 平成26年度全日本卓球選手権大会(一般・ジュニアの部)

会期：2015年1月12日(月)～18日(日)
会場：東京都・東京体育館

選手・観客が会場入口より観客席に上がる階段横に、平成27年環境テーマ「Fun to Share」パネル及び「ウォームビズ」パネルを6枚掲示し、環境保全の啓発活動を促す

●平成26年度第42回全国高等学校選抜卓球大会

会期：2015年3月24日(火)～28日(土)
会場：香川県・高松市総合体育館

2つの会場をつなぐ多くの選手・観客が通る通路にポスターを掲示

(公財)全日本軟式野球連盟

JAPAN RUBBER BASEBALL ASSOCIATION

●天皇賜杯第69回全日本軟式野球大会ENEOSトーナメント

会期：2014年9月11日(金)～ 17日(水)
会場：愛媛県・松山中央公園　坊っちゃんスタジアム

閉会式(渡邉一志 愛媛県軟式野球連盟会長と優勝チーム SECカーボン(株)京都府代表)。ベンチ脇に環境バナーを掲出

●文部科学大臣杯第5回全日本少年春季軟式野球大会

会期：2015年3月21日(金)～ 24日(月)
会場：静岡県・草薙総合運動場硬式野球場

開会式

(公社)日本馬術連盟

Japan Equestrian Federation

●第38回全日本ジュニア障害馬術大会2014

会期：2014年7月31日(木)～ 8月3日(日)
会場：静岡県・御殿場市馬術スポーツセンター

●第44回全日本総合馬術大会2014

会期：2014年7月11日(金)～ 13日(日)
会場：兵庫県・三木ホースランドパーク

●機関誌「馬術情報」への環境ポスター掲載

全会員、一般購読者に配布

●大会パンフレットへの環境ポスター掲載

(公社)日本フェンシング協会

FEDERATION JAPONAISE D'ESCRIME

●高円宮牌ワールドカップ東京大会
2014フェンシング男子フルーレ個人戦 グランプリ大会

会期：2014年5月3日(土)～4日(日)／会場：東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館

ポスターを掲示　宮坂武美 東京都フェンシング協会常務理事

環境保全された会場内　決勝風景

(公財)全日本弓道連盟

All Nippon Kyudo Federation

●アジア・オセアニアセミナー(講習会)

会期：2014年4月10日(木)～12日(土)／会場：愛知県・日本ガイシスポーツセンター弓道場

通訳を介して環境に関するスピーチをする岡崎廣志主任講師

宇佐美義光講師を中心に積極的な意見交換がされる

●平成26年度全日本弓道選手権大会(競技会)

会期：2014年9月19日(金)～23日(火・祝)
会場：東京都・全日本弓道連盟中央道場(明治神宮武道場至誠館第二弓道場)

大会会場にポスターの掲示　(公財)全日本弓道連盟 石川武夫会長

(公財)全日本柔道連盟

All Japan Judo Federation

●平成26年度全日本選手権大会

会期：2014年4月29日(火・祝)／会場：東京都・日本武道館

王子谷剛志選手

●平成26年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

会期：2014年9月13日(土)～14日(日)／会場：埼玉県立武道館

●平成26年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

会期：2014年11月8日(土)～9日(日)

会場：千葉県・千葉ポートアリーナ

●全日本柔道連盟　事務局受付

(公財)日本ソフトボール協会

Japan Softball Association

●第47回日本女子ソフトボールリーグ

会期：2014年4月12日(土)～11月16日(日)／会場：全国30会場(開幕節：愛知県・ナゴヤドーム、決勝トーナメント：京都府・わかさスタジアム京都)

開幕節(4/12～13)、ライト側フェンスに設置した環境標語バナー

決勝トーナメント(11/15～16)でもレフト側フェンス環境標語バナーを掲示

●第35回全日本クラブ女子ソフトボール選手権大会

会期：2014年7月25日(金)～27日(日)／会場：福井県・福井市きららパーク多目的グラウンド、福井市スポーツ公園ソフトボール場

主管協会(福井県ソフトボール協会)で作製したうちわに、ソフトボールと環境についての標語を印字

会場ではゴミの分別収集を積極的に実施

●大垣カップ女子ソフトボール大会

会期：2014年8月1日(金)～3日(日)

会場：岐阜県・大垣市北公園野球場

会場正面入口への環境ポスター掲示の他、レフトフェンスにも環境標語バナーを設置

●公益財団法人 日本ソフトボール協会　事務局

クールビズ、ウォームビズ、紙の削減やゴミの分別廃棄、エアコンのこまめな温度調整、ファイルの再利用を心掛けている

（公財）日本バドミントン協会

Nippon Badminton Association

●第64回全日本実業団バドミントン選手権大会

会期：2014年7月2日（水）～ 6日（日）

会場：香川県・高松市総合体育館他／参加人数：1300名

左から秋草直之 日本実業団連盟会長、綿貫民輔会長、稲毛勉 香川県実業団連盟会長

●バドミントン日本リーグ高岡大会開幕戦

会期：2014年9月13日（土）～ 14日（日）

会場：富山県・高岡市民体育館／参加人数：450名

左から木村時彦 高岡副市長、綿貫民輔会長

●第28回世界男子バドミントン選手権（トマス杯）

会期：2014年5月18日（日）～ 25日（日）

会場：インド・Sari Fort Indoor Stadium

男子優勝（芝団長、朴監督、リオニーコーチ、舛田コーチ、大石トレーナー、佐々木選手、田児選手、桃田選手、上田選手、早川選手、遠藤選手、平田選手園田選手、嘉村選手）

●第25回世界女子バドミントン選手権（ユーバー杯）

会期：2014年5月18日（日）～ 25日（日）

会場：インド・Sari Fort Indoor Stadium

女子準優勝（芝団長、朴監督、リオニーコーチ、舛田コーチ、大石トレーナー、三谷選手、廣瀬選手、山口選手、髙橋（沙）選手、髙橋（礼）選手、松友選手、前田選手、垣岩選手、松尾選手、内藤選手）

●トマス杯

優勝戦　日本3対2マレーシア

上田拓馬選手:2勝2敗後の第3単で勝利

トマス杯カップ

(公社)日本ライフル射撃協会

National Rifle Association of Japan

●第69回国民体育大会(ライフル射撃競技)

会期:2014年10月18日(土)～21日(日)／会場:長崎県・小江原射撃場

競技会場(射撃場内)にポスター掲示。三列目右より三人目から長崎県ライフル射撃協会大河内邦昭会長、日本ライフル射撃協会　坂本剛二会長　佐川肇副会長 藤井優副会長

競技会場(射撃場内)に設置された分別ゴミ箱

●平成26年度全日本社会人ライフル射撃競技大会 兼和歌山国体リハーサル大会

会期:2014年10月3日(金)～5日(日)／会場:和歌山県・海南市射撃場

射撃場入口に掲示された環境ポスターと左から日本ライフル射撃協会佐川肇副会長、松田知幸選手、きいちゃん、田村恒彦国体委員長

●ライフル射撃情報誌への環境ポスターの掲載

(公財)日本ラグビーフットボール協会

JAPAN RUGBY FOOTBALL UNION

●第57回網走市植樹祭「TRY for GREENプロジェクト」　トップリーグの森　植樹

会期:2014年6月1日(日)／会場:北海道・大曲湖畔園地オホーツクトップリーグの森

水谷洋一網走市長(右)と稲垣純一理事(左)の植樹

網走市民、関係者200名が参加し、1,000本の苗木を植樹(プロジェクト開始して7年目を迎え植樹の累計本数は6,000本となった)
水谷網走市長(中央右)、稲垣理事(中央左)

(一財)全日本剣道連盟

All Japan Kendo Federation

●第62回全日本剣道選手権大会　決勝戦

会期：2014年11月3日(日)
会場：東京都・日本武道館

●平成26年度全日本少年少女武道(剣道)錬成大会

会期：2014年7月26日(土)～27日(日)
会場：東京都・日本武道館

●環境ポスターの掲示

北の丸事務所の入口

●リサイクルボックスの設置

北の丸事務所のリサイクルボックス

●中古剣道具の活用

武道具製造職人さんによる小手の補修作業

武道具製造職人さんによって補修された胴

(公社)日本近代五種協会

Modern Pentathlon Association of Japan

●第7回近代3種大会 in 木曽

会期：2014年6月22日(金)／会場：長野県・フォレスパ木曽

鉛弾・フロンガスを使わない、環境にやさしいエアースポーツガンを使用

会場内にてゴミの分別を実施

●第2回近代3種大会 in 有田

会期：2014年7月27日(日)／会場：和歌山県・箕島中学校

環境ポスターの掲示

参加選手、スタッフでBB弾を撤去

●第2回近代3種日本選手権大会 in 千葉 兼 JOCジュニアオリンピックカップ

会期：2014年9月7日(日)／会場：千葉県・生命の森リゾート

会場内にてゴミの分別を実施

大会参加者とスタッフの集合写真

(公社)日本山岳協会

Japan Mountaineering Association

●第17回JOCジュニアオリンピックカップ大会

会期：2014年8月2日(土)～4日(月)
会場：富山県・南砺市

●ジュニア登山IN立山

会期：2014年8月17日(水)～20日(日)
会場：富山県・立山

●IFSCワールドカップ印西大会

会期：2014年10月25日(土)～26日(日)
会場：千葉県・印西市松山下公園総合体育館

●なすかし雪遊び隊

会期：2015年3月27日(金)～28日(土)
会場：福島県・国立那須甲子青少年自然の家

●第38回自然保護委員総会

会期：2014年11月22日(土)～24日(月・祝)／会場：広島県・広島市文化交流会館

(公社)日本カヌー連盟

Japan Canoe Federation

●平成26年度B&G杯全国少年少女カヌー大会

会期：2014年7月26日(土)～27日(日)／会場：山梨県・精進湖カヌー競技場

全員で集合写真

表彰式

来年も頑張るぞ！(鹿児島県　末吉カヌークラブ)

来年も頑張るぞ！(秋田県　本荘ジュニアカヌークラブ)

●平成26年度あわらカップカヌーポロ大会

会期：2014年8月23日(土)～24日(日)／会場：福井県・北潟湖カヌーポロ競技場

大会会場にバナーを掲示。絶好の記念撮影スポットに！

(公財)全日本空手道連盟

JAPAN KARATEDO FEDERATION

●日本空手道会館内の廊下の様子

事務室内に環境ポスターを掲示し職員の意識付けを行った(左)。また、日本空手道会館のロビー、廊下の照明を消し、徹底した節電に努めた(右)

●掲示物による呼びかけ

エアコンの設定温度に関する掲示物(左)と講習会時にごみの分別を促す掲示物(右)

講習会でも環境ポスターを掲示し、意識付けを行った

(公社)全日本銃剣道連盟

ALL JAPAN JUKENDO FEDERATION

●平成26年度全日本少年少女武道(銃剣道)錬成大会

会期：2014年8月6日(水)／会場：東京都・日本武道館

監督会議会場に環境ポスターを掲示

●第14回全日本短剣道大会

会期：2015年2月21日(土)／会場：東京都・日本武道館

大会会場に環境バナーを掲示

(公財)日本ゴルフ協会

JAPAN GOLF ASSOCIATION

●第47回日本女子オープンゴルフ選手権

会期：2014年10月2日(木)～5日(日)

会場：滋賀県・琵琶湖カントリー倶楽部

●第79回日本オープンゴルフ選手権

会期：2014年10月15日(水)～19日(日)

会場：千葉県・千葉カントリークラブ 梅郷

ゴミの分別収集を徹底

(公財)全日本ボウリング協会

JAPAN BOWLING CONGRESS

●JOCジュニアオリンピックカップ　第38回全日本高校ボウリング選手権大会

会期：2014年7月29日(火)～30日(水)／会場：東京都・品川プリンスホテルボウリングセンター

左から男子優勝者・工藤陽一郎選手、女子優勝者・石本美来選手、
本協会相澤隆也専務理事

大会プログラムに啓発用広告を掲載

●平成26年度JBC公認第3種審判員認定会

会期：2014年4月19日(土)～20日(祝)／会場：東京都・田町ハイレーン

●平成26年度定時評議員会

会期：2014年6月16日(火)／会場：東京都・田町ハイレーン

(一財)全日本野球協会

Baseball Federation of Japan

●アオダモ植樹キャンペーン2014

会期：2014年7月19日(土)／会場：北海道・苫小牧国有林

埼玉西武･田代選手の植樹風景

苫小牧植樹の参加者

●アオダモ植樹キャンペーン2014

会期：2014年8月4日(土)／会場：北海道・栗山町　栗の樹ファーム

北海道日本ハム栗山監督の挨拶

栗山監督の植樹風景

●アオダモ植樹キャンペーン2014

会期：2014年9月28日(日)／会場：北海道・由仁町有林

由仁町植林の参加者

栗山町植林の参加者

（公社）日本カーリング協会

JAPAN CURLING ASSOCIATION

●第32回全農日本カーリング選手権大会

会期：2015年2月8日（日）～ 15日（日）
会場：北海道：アドヴィックス常呂カーリングホール

軽井沢アイスパークにて左から日本代表の船山選手、小笠原選手

軽井沢アイスパークにて日本車椅子カーリング選手権時に市川選手

●JA全農 世界女子カーリング選手権札幌大会

会期：2015年3月14日（土）～ 22日（日）
会場：北海道：札幌市月寒体育館

スコットランド戦

左から本橋選手、鈴木選手、吉田選手、馬渕選手

(公社)日本トライアスロン連合

Japan Triathlon Union

●第5回横浜シーサイドトライアスロン大会

会期：2014年9月28日(日)／会場：神奈川県・横浜八景島周辺

大会の模様(スイム)

カーボンオフセット参加者へのサンクスポスター

地球温暖化対策ブースでのわかめの試食

●グリーントライアスロン in 横浜

会期：2014年4月19（土)／会場：神奈川県・山下公園

スタッフ・スポンサー・一般来場者の協力で海に投棄されたゴミを回収。人々の関心を集めた

山下公園前全面海域に生息する海の生物紹介とタッチプール

●トライアスロン大会を通じた水質PRの事例紹介

（手賀沼トライアスロン大会の例）

手賀沼(千葉県)の水質改善を記念しトライアスロン大会を開催。平成26年までに9回にわたり開催され、大会時にはゴミ拾い活動も実施している

（公社）日本スカッシュ協会

Japan Squash Association

●第43回全日本スカッシュ選手権大会

会期：2014年11月21日（金）～24日（月・祝）
会場：神奈川県・ヨコハマスカッシュスタジアムSQ-CUBE

関東圏での開催でもしっかりエコをアピール

●第7回静岡県スカッシュ選手権大会&オープンフレンドシップ大会

会期：2014年4月12日（土）～13日（日）
会場：静岡県・フィットネスプラザ スプラッシュ

地方大会でもエコをアピール。全国へ活動の輪を広げる

（公社）日本ボディビル・フィットネス連盟

Japan Bodybuilding & Fitness Federation

●第25回ジャパンオープンボディビル選手権大会

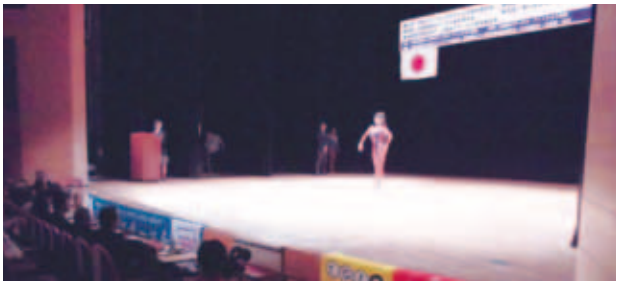
会期：2014年7月6日（日）
会場：埼玉県・志木市民文化ホール

●第26回日本マスターズボディビル選手権大会

会期：2014年8月24日（日）
会場：宮崎県・太白区文化センター楽楽楽ホール

●第6回日本クラシックボディビル選手権大会
第19回オールジャパンミスフィットネス選手権大会
第8回オールジャパンミスボディフィットネス選手権大会

会期：2014年8月17日（日）
会場：三重県・津リージョンプラザお城ホール



●フィットネス講習会

会期：2014年6月1日（日）
会場：東京都・北区　北とぴあ

(一社)全日本テコンドー協会

All Japan Taekwondo Association

●第8回全日本テコンドー選手権大会

会期：2015年3月22日(日)／会場：東京スポーツ文化館メインアリーナ

競技会場内でのゴミの分別収集

(公社)日本ダンススポーツ連盟

Japan Dance Sport Federation

●2014ダンススポーツグランプリin大阪

会期：2014年4月13日(日)
会場：大阪府・五月山体育館1Fアリーナ

会場内に環境バナーを掲示

●2014ダンススポーツグランプリin大分

会期：2014年5月11日(日)
会場：大分県・別府市総合体育館 べっぷアリーナ

会場内に環境バナーを掲示

●全国指導員講師養成講習会

会期：2014年6月7日(土)、8日(日)／会場：東京都・東京スポーツ文化館

机上講義の後、メインアリーナでのダンススポーツ実技指導講義会場内に掲示した環境バナー

（一社）日本バイアスロン連盟

Japan Biathlon Federation

●第51回バイアスロン日本選手権大会

会期：2015年2月28日（土）～ 3月4日（水）／会場：北海道・札幌市豊平区西岡

大会実行委員会事務局にポスターを添付、環境に対する意識の高揚を図るとともに、事務局内でのゴミの分別を行っている。左から北海道バイアスロン連盟の大会庶務係の新井さん、坂さん、欠畑さん

会場周辺の競技開始前後の清掃作業。ゴミを収集し分別している北海道バイアスロン連盟の競技審判・庶務係の皆さん

（特非）日本クリケット協会

Japan Cricket Association

●日本クリケット協会事務局

事務局入口にポスターを掲示

事務局にてクールビズを実施

(一社)日本カバディ協会

JAPAN KABADDI ASSOCIATION

●第4回インドアカバディ選手権大会

会期：2015年1月24日(土)～1月25日(日)／会場：東京都・瀧野川女子学園中学・高等学校

男子試合

女子試合

●第25回全日本カバディ選手権大会

会期：2014年10月25日(土)～10月26日(日)／会場：東京都・国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室

男子試合2

女子優勝チーム「MAYURI」

(公社)日本オリエンテーリング協会

Japan Orienteering Association

●第19回京大・京女オリエンテーリング大会

会期：2015年3月21日(土)

会場：滋賀県日野町「グリム冒険の森」

大会会場受付風景

●パークオリエンテーリングツアー in関西2014滋賀大会

会期：2015年3月22日(日)

会場：滋賀県守山市「びわこ地球市民の森」

会場入口

（公社）日本アメリカンフットボール協会

JAPAN AMERICAN FOOTBALL ASSOCIATION

●パナソニック杯第69回毎日甲子園ボウル　地域美化推進活動“Clean Up Action”

会期：2014年12月14日（日）午前8時～午前11時／会場：兵庫県・選手権会場「阪神甲子園球場」周辺8駅／参加者：約2,000名

地域美化推進活動参加者の京都大学学生

JR甲子園口駅商店街でゴミ拾い・清掃活動

ゴミ拾い・清掃活動中の同志社大学学生

最終地点。阪神甲子園球場でゴミを集積し処分した

(公社)日本チアリーディング協会

Foundation of Japan Cheerleading Association

●JAPAN CUP 2014チアリーディング日本選手権大会

会期：2014年8月22日(金)～24日(日)／会場：東京都・国立代々木競技場　第一体育館

大学部門優勝チーム

中学校部門優勝チーム

●サマーキャンプin東京

会期：2014年7月25日(金)～27日(日)

会場：東京都・国立オリンピック青少年総合センター

練習会場にポスターを掲示

●第8回チアリーディング アジア インターナショナル オープン チャンピオンシップ

会期：2014年5月17日(土)～18日(日)

会場：東京都・国立代々木競技場　第一体育館

競技会場に環境バナーを掲示

●大会プログラムへ掲載

JAPAN CUP 2014チアリーディング日本選手権大会

●事務局内での環境ポスター掲示

(公社)日本パワーリフティング協会

Japan Powerlifting Association

●第43回全日本男子・第38回全日本女子パワーリフティング選手権大会

会期：2014年6月21日(土)～22日(日)／会場：富山県総合体育センター

開催要項に「ゴミの持ち帰り」を記載するとともに、試合会場内に環境ポスターを掲示

選手宣誓

●第26回全日本ベンチプレス選手権大会

会期：2014年4月11日(金)

会場：東京都・国立市立第二小学校体育館

小学生にベンチプレスを手ほどきするパラリンピアン・三浦浩選手

●第29回世田谷区ベンチプレス選手権大会

会期：2014年7月11日(金)

会場：東京都・東京農業大学常盤松会館

大会会場に環境ポスターを掲示

●第15回全日本障がい者パワーリフティング選手権大会

会期：2015年1月11日(日)／会場：日本体育大学体育館

(一社)日本フライングディスク協会

JAPAN FLYING DISC ASSOCIATION

●ビーチアルティメットフレンドシップ湘南2014　第15回EBASAHI−CUP

会期：2014年5月10日(土)～11日(日)／会場：神奈川県藤沢市　湘南鵠沼海岸(片瀬西浜)特設コート

開会式風景

ビーチクリーン風景

分別表の工夫

ごみ集積場所と分別

エコフラッグ掲示

競技風景

（公財）日本体育協会

Japan Sports Association

●（公財）日本体育協会事務局

場所：岸記念体育会館2階

事務局内コピー機周辺及び事務局出口にポスターを掲示し、日常排出されるごみの抑制や紙の無駄をなくすよう啓発

●日本スポーツマスターズ2014

会期：2014年9月19日（金）～ 9月23日（火）
水泳競技／ 8月30日（土）～ 8月31日（日）
ゴルフ競技／ 9月17日（水）～ 9月19日（金）
会場：埼玉県内各地

大会期間中の大会本部に掲出。排出されるごみの分別を喚起

●第37回全国スポーツ少年団剣道交流大会

会期：2015年3月27日（金）～ 3月29日（日）／会場：埼玉県立武道館

会場内各所に掲出。参加者及び来場者に対し、環境保全を喚起

●第12回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会

会期：〈男子〉2015年3月27日（金）～ 3月29日（日）
〈女子〉2015年3月30日（月）
会場：福島県・あづま総合体育館　他

会場入口付近に掲出。参加者及び来場者に対し、環境保全を喚起

●平成26年度公認上級コーチ・上級教師養成講習会共通科目Ⅳ集合講習会

会期：2014年11月14日（金）～ 11月16日（日）
会場：東京都・KFC Room 115

講習会場内に掲出。参加者に対し、環境保全を喚起

(特非)日本オリンピック・アカデミー

Japan Olympic Academy(JOA)

●2014年度JOAセミナー&オリンピック・レクチャー 020

会期:2014年6月8日(日)／会場:東京都・明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン

(JOAセミナー;和田浩一「クーベルタンの教育学とオリンピズム」／舛本直文「オリンピックバリューと平和」／真田 久「嘉納治五郎と国立競技場」、オリンピック・レクチャー020;和田浩一「21世紀に生きるピエール・ド・クーベルタンのオリンピズム」)

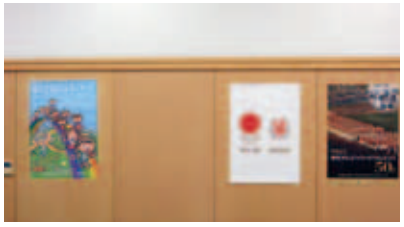
スクリーンに環境ポスターのスライドを掲出。荒井啓子(JOA専務理事)、猪谷千春(IOC名誉委員)、笠原一也(JOA会長)、真田 久(筑波大学教授)、舛本直文(首都大学東京教授)、望月敏夫(元駐ギリシャ大使・JOA理事)、和田浩一(フェリス女学院大学教授)、ほか(以上50音順)

●東京オリンピック50周年記念 第37回JOAセッション

会期:2014年11月30日(日)／会場:東京都・学習院女子大学

(キーノート・トーク;猪谷千春「IOCによるオリンピズム普及の取り組みと成果」／シンポジウム「オリンピズムの普及と浸透～1964東京からの歩みと2020TOKYOを見据えて～」／クロージング・レクチャー;関根正美「オリンピズムの普新たな価値と可能性」)

荒井啓子(JOA専務理事)、猪谷千春(IOC名誉委員)、笠原一也(JOA会長)、嵯峨寿(筑波大学准教授)、真田 久(筑波大学教授)、佐野慎輔(産経新聞社)、関根正美(日本体育大学教授)、松丸喜一郎(JOC理事)、ほか(50音順)



会場内に環境ポスターを掲示

平成 26 年度　JOC スポーツ環境専門部会活動報告書

JOC Sport and EnvironmentCommission Report 2014

■写真によるスポーツ環境の啓発活動報告…… 2
Photographic Report of Activities on Sport and Environment

本文目次
Contents

1 .JOC スポーツ環境専門部会員の意義について…… 51
Objective of the JOC Sport and Environment Commission

2 . 第 10 回 JOC スポーツと環境・地域セミナー　開催報告…… 52
Report of the 9th JOC Regional Seminar on Sport and Environment

3 . 第 11 回スポーツと環境担当者会議　開催報告…… 56
Report of the 11th JOC National Sport Federations Conference on Sport and Environment

4 . スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について …… 59
Issues Regarding Awareness and Inplementation Activities

（1）各競技団体等の活動…… 60
Activities of the JOC affiliated NFs and organizations

（2）JOC スポーツ環境専門部会員の活動…… 110
Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission

（3）スポーツと環境に関するアンケート集計結果について…… 113
Results of the Questionnaire Regarding Environmental Avtivities of NFs

5 .IOC スポーツと環境委員会について…… 116
IOC Sport and Environment Commission

6 . スポーツと環境についてのレクチャー原稿…… 117
Lecture draft on Sport and Environment

7. 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた取組み……124
Activity for TOKYO 2020 Olympic/Paralympic Games

8. 関連資料……128
References

（1）JOC スポーツ環境活動者一覧……128
Activities Person of Sport and Environment

JOC スポーツ環境専門部会……128
Member of Sport and Environment Commission

本会加盟団体スポーツ環境担当者一覧……129
National Federation

（2）IOC スポーツと環境委員会……132
IOC Sport and Environment Commission

（3）OCA 環境委員会……132
OCA Environment Committee

（4）IOC スポーツ環境委員会小史……133
Brief History of the IOC Sport and Environment Commission

（5）JOC スポーツ環境専門部会小史……134
Brief History of the JOC Sport and Environment Commission

（6）IOC オリンピックアジェンダ 2020（抜粋）……135
IOC Olympic Agenda2020

1 JOCスポーツ環境専門部会活動の意義について

Objective of the JOC Sport and Environment Commission

2014 年度（平成 26 年度）の公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）におけるスポーツと環境専門部会の活動への御理解と御協力を賜り、心から御礼を申し上げます。

また本報告書の発行をもって JOC 及び JOC 加盟団体の一年間のスポーツと環境に関する活動リポートと致します。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決まり、組織委員会（TOCOG）の活動が始まった 2014 年度でしたが、国際オリンピック委員会（IOC）の活動指針の一つである「環境」についても「持続可能な環境保全」を地球全体の問題として、日本から力強く発信していくことが求められます。JOC は、TOCOG と連携を図りながら、スポーツ界における環境保全の具体的事例を作り上げていかなくてはなりません。また 2020 年に向け、環境省はもちろん日本国民全体を巻き込んだオリンピック・ムーブメントに仕上げていくことが、我々スポーツ界の使命だと認識しています。

環境保全の道のりは、出口のない日々の活動とそれぞれにかかわる人の価値観の形成と言われています。

2014 年度も JOC パートナー都市である秋田市でのフォーラムや、加盟競技団体一同が参集した担当者会議の開催を実現し、さらに各加盟競技団体の日々の活動を推進してきました。

また国際オリンピック委員会（IOC）からは、12 月にオリンピック・アジェンダ 2020 が発表され、将来のスポーツのロードマップというべき新しい指針が打ち出されました。この中にも環境に関しての留意されるべき内容が記載されました。

スポーツを永続的に行うことができる地球環境の保全は、世界平和のショーケースとして全人類が認めることになるよう願っています。

2014 年度の JOC スポーツ環境専門部会の活動にご尽力いただいた皆様に重ねて感謝申し上げるとともに 2015 年度以降の活動への御協力を心からお願い申し上げます。

公益財団法人日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門部会
部会長　大塚 眞一郎

2 第10回JOCスポーツと環境・地域セミナー　開催報告

Report of the 10th JOC Regional Seminar on Sport and Environment

■開催概要

1. 趣　　旨： 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）は、平成 13 年度からスポーツ環境専門部会を設置し、環境に係わる啓発・実践活動を推進してきた。この度、その活動のひとつとして、第 10 回の環境地域セミナーを JOC パートナー都市の秋田県及び秋田市で開催。このセミナーでは、秋田県及び秋田市を中心としたスポーツ関係者の皆様とともに、スポーツ界における地球環境保全の必要性について改めて考え、その活動をどのように実践に移していくか、スポーツ団体の具体的な実践例を交え一緒に学ぶことを目的に実施した。

2. 主　　催： 公益財団法人 日本オリンピック委員会

3. 共　　催： 秋田県、秋田市

4. 後　　援： 文部科学省、環境省、公益財団法人 日本体育協会、公益財団法人 秋田県体育協会、一般財団法人 秋田市体育協会

5. 日　　時： 平成 26 年 11 月 5 日 (水)　13：30 ～ 16：30

6. 場　　所： 秋田市　にぎわい交流館 AU（あう）　多目的ホール　秋田市中通一丁目 4 番 1 号

7. 参 加 者： JOC、秋田県、秋田市、秋田県体育協会、秋田市体育協会の関係者及び加盟団体、スポーツ関係団体、JOC パートナー都市関係者 他　170 名

8. プログラム：

13:30　開会

主催者挨拶

藤原庸介　日本オリンピック委員会　理事

石井周悦　秋田市副市長

13:50　基調対談「アスリートから見た環境問題」

大林素子　JOC スポーツ環境アンバサダー（バレーボール女子）

宮下純一　JOC スポーツ環境アンバサダー（水泳／競泳）

上田　藍　オリンピアン（トライアスロン）

コーディネーター：大塚眞一郎 JOC スポーツ環境専門部会部会長／理事

15:00　休憩

15:15　プレゼンテーション「スポーツを通した環境保全の啓発・実践活動」

「秋田市の地球温暖化対策の取り組みについて」

三浦 勉 秋田市環境部環境総務課地球温暖化対策担当課長

「秋田ノーザンハピネッツの活動について」

高畠靖明 秋田プロバスケットボールクラブ株式会社 専務取締役

16:20　閉会の挨拶

大塚眞一郎 JOC スポーツ環境専門部会部会長／理事

16:30　閉会

■セミナー概要

JOC パートナー都市である秋田県、秋田市のにぎわい交流館 AU で「第 10 回 JOC スポーツと環境・地域セミナー」を開催。本セミナーはスポーツ界における地球環境保全の必要性について考え、その活動をどのように実践に移していくかを学ぶことを目的に平成 17 年度から JOC パートナー都市で行われ、今年度は地元のスポーツ関係者ら 170 名が参加した。

●開会挨拶

はじめに、藤原庸介理事があいさつに立ち、スポーツと環境の関わりを考えるきっかけとなったのが 1972 年の札幌オリンピックであったことや、オリンピック冬季大会に立候補できる環境を持つ都市が減っている現状を説明。「秋田市は環境について非常に面白い試みをいろいろとやっておられ、日本では環境における先進都市ではないかと思います。本日ご参加いただいた皆様にとって、有意義な意見交換の場となりますことを願っております」と参加者に呼びかけた。

続いて、秋田市の石井周悦副市長が登壇。「秋田市では平成 20 年に『はずむスポーツ都市宣言』を行い、市民の誰もがいつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しむことができるよう、様々な環境整備に取り組んでいます。本市にはプロスポーツチームが 3 つあり、多くの市民が応援していますが、チームの皆様には地域貢献活動、環境活動のみならず多大なお力添えをいただいております。スポーツを通じた環境に対するメッセージが非常に大きなものとなるよう期待しています」と述べられた。

●基調対談「アスリートから見た環境問題」

第 1 部は、JOC スポーツ環境アンバサダーの大林素子さん（バレーボール）と宮下純一さん（競泳）そして仁川アジア大会金メダリストの上田藍選手（トライアスロン）が登場。JOC スポーツ環境専門部会長を務める大塚眞一郎理事のコーディネートで、「アスリートから見た環境問題」というテーマで基調対談が行われた。

まず、それぞれの競技団体で実施している環境啓発活動をゲストの 3 名が説明。大林さんは、日本国内で不要となったボールやネットなどの用具を集めてそれを必要とする海外の団体などに寄付をしたり、バッグや財布などの素材として再利用する「バレーボールバンク」を紹介。宮下さんは日本水泳連盟の取り組みとして、エコ活動に関するポスターデザインを公募する「エココンテスト」の事例を挙げるとともに、「生きていく中で必要な水を使うスポーツとして、水の大切さを小さいころから教育することが必要」と述べました。現役アスリートの上田さんは、日本選手権が行われる東京・お台場で「グリーントライアスロン」と銘打ったビーチの清掃活動をはじめ、海や湖の水質改善に向けた活動をお客さんに知らせていく必要性を訴えた。

大林さんは、地球温暖化がスポーツに及ぼす影響について「温暖化で海面が上昇すると、ビーチバレーができる会場が無くなってしまうのではないかという危機感もありますし、現在では砂浜が熱すぎて、選手は靴下を 2 枚重ね履きして練習しています」と屋外スポーツであるビーチバレーの現状を明らかにした。また、エコに関する取り組みの例として、オリンピックの応援グッズを空き缶で手作りした経験を披露。「そういうところからリサイクルを考えるのもありではないでしょうか」と述べ、「リサイクルグッズは地域から提案していただいて東京で採用するのもありなので、秋田からもぜひご提案いただければと思います」とアピールした。

宮下さんは、「選手村の食堂は選手がいつ大勢来てもいいように、24 時間体制で食事が並んでいますが、結構な量が残っていたのが気になりました。また、ゴミ箱もひとつしかなくて分別されていないことが多かった」と現役時代の体験を振り返り、「入村時にルールを徹底することや、表示の多言語対応も必要。スタッフがオリンピアンに対して注意できないと困るので、気兼ねなく言える環境作りも大切です」と語った。環境問題に取り組む各自治体や団体に対しては「皆さんから『私たちはこんなことをしてこんな成果が出ました』と良い点をアピールされることが多いのですが、『ここができなくて困っ

ているのですが、どうしたらいいですか？』と相談していただいたほうがアドバイスしやすいので、ぜひ改善が必要な点などを聞かせてください」とメッセージを送った。

競技をする上でさまざまな自然条件に左右されることが多い上田さんは、自身が現在拠点にしている千葉県の手賀沼がトライアスロンの大会を誘致するために水質改善を行ってきた事例を紹介。「手賀沼は1970年代全国でもワースト1位と言われるくらい汚かったのですが、町の人たちがトライアスロンに興味を持って努力したことで、2006年に大会を開けるまでの水質になりました。1つ1つの積み重ねでこうしたことも実現できるので、行動に移す人やそれに理解を示す人がつながっていければ」と、今後の展開に期待を寄せた。また、現役アスリートによるコメントの影響力の高さに触れ、「東京は海外と比較してすごく街がきれいなので、オリンピックはそこをPRする絶好のチャンスだと思います。なぜきれいなのかを1人1人説明できるようにしたいですね」と語った。

大塚理事は地球温暖化対策の一環である「カーボン・オフセット」について説明。カーボン・オフセットとは、事業活動や日常生活で排出される温室効果ガスについて削減努力を行った上で、どうしても削減できなかった温室効果ガス排出量を、他の場所で行われた温室効果ガスの排出削減・吸収量等（クレジット）でオフセット（埋め合わせ）し、自らの排出に責任を持つ取り組みのこと。「このシステムを分かりやすくできればもっと認知が広がるかもしれません。今後、環境庁がさらに推進していくと思うので、皆様も意識していただきたいと思います」と述べ、「今回のセミナーや配布資料を、スポーツと環境について子どもたちに話す機会に利用してください」と総括した。

●プレゼンテーション「スポーツを通した環境保全の啓発・実践活動」

「秋田市の地球温暖化対策の取り組みについて」

第2部では、秋田市における「スポーツを通した環境保全の啓発・実践活動」に関してプレゼンテーションが行われた。まず、秋田市環境部環境総務課地球温暖化対策担当の三浦勉課長が登壇。「環境立市秋田の実現」を成長戦略の1つとして掲げ、「秋田市地球温暖化対策実行計画」と合わせて策定した基本方針に沿って同市が取り組む環境活動を紹介された。

基本方針は、(1) 環境にやさしいライフスタイル・ワークスタイルの推進、(2) 低炭素型まちづくりの推進、(3) 循環型社会の構築、(4) 再生可能エネルギーの普及および利用推進、(5) 環境と経済が好循環する社会システムの構築、の5つ。三浦課長は、自動車を使わず徒歩や路線バス、自転車での通勤を奨励する「エコ通勤」や、市民のエコ活動に応じてポイントを付与し、取得ポイントに応じてエコ関連賞品と交換できる「e-市民認証システム」といった暮らしに直結する取り組みから、市有施設の省エネルギー化を進める「あきたスマートシティ・プロジェクト」、住宅用太陽光発電や木質バイオマス（木材から作る燃料）の利用促進に関する補助、メガソーラー発電所の稼動など大規模な事業まで、さまざまな事例を説明。

「秋田ノーザンハピネッツの活動について」

続いて、バスケットボールbjリーグの秋田ノーザンハピネッツを運営する秋田プロバスケットボールクラブ株式会社の高畠靖明専務取締役が、チームが行っている環境活動を紹介。はじめにチームが掲げる3つの理念と7つのビジョンについて説明し、「秋田から全国へ、世界への情報発信源に」「地元密着主義で誇れる秋田を未来へつなぐ」という2つのビジョンが環境保全に当てはまると述べた。

高畠専務は試合会場における例として、ホーム会場に設置したゴミ箱に地元企業の協力を得て秋田杉の間伐材合板を使用していることや、ホームゲーム8試合でウォームシェア（家庭や近所の人々が一カ所に集まって過ごすことでエネルギー消費を減らす取り組み）を実施し、秋田市全域で達成した約11.6トンのCO_2削減に貢献したと同時に、試合会場がウォームシェアスポットとしてコミュニティの醸成に寄与したことを挙げた。秋田県内での活動事例として、地域の清掃活動や広葉樹の植樹活動に選手が参加しているところを紹介し、今後も「県民球団」という意識を強く持ち、地域の環境保全のために地元企業や住民と一緒になって活動していきたいとの意向を示した。

●閉会挨拶

最後にコーディネート役を務めた大塚理事が閉会あいさつを行い、「オリンピックの目的は世界平和です。世界を平和にすることは、環境問題と切り離せないところにあると認識しておりますので、オリンピックのひとつの柱がこの環境であるということを改めて皆様にご理解いただければと思います」と語り、「秋田市におかれましては、地域の活動をベースにして、ぜひとも環境保全の“リーダー都市”になっていただき、オールジャパンとして2020年、またそれ以降の日本の発展のためにご一緒できればと思います」と述べ、セミナーを締めくくった。

■出席者一覧

所属／団体名	氏名
（公財）日本オリンピック委員会	大塚　眞一郎
	藤原　庸介
	植松　克之
	玉利　聡一
	西山　雄二
（公財）日本スケート連盟	富樫　惣一
（公財）日本セーリング連盟	三浦　多満枝
（公財）日本ソフトテニス連盟	川島　登
（公社）日本カーリング協会	小野　隆一郎
（公社）日本トライアスロン連盟	荒木　茂
	阿部　憲悦
	磯崎　洋一
	吉田　一正
（一社）日本バイアスロン連盟	滝澤　健
（一社）日本セパタクロー協会	菅野　瑞穂
（公社）日本アメリカンフットボール協会	浅田　豊久
（一社）日本フライングディスク協会	佐藤　勇二
（公財）日本ソフトボール協会	鈴木　始
	鎌田　長悦
	滝沢　清一
秋田市	石井　周悦
秋田県スポーツ振興課長	飯坂　尚登
秋田県スポーツ振興課	伊藤　淳一
秋田市教育委員会スポーツ振興課	古仲　環
	藤原　正人
秋田県教育庁保健体育課長	越後谷　真悦
秋田県スポーツ科学センター	佐藤　信英
秋田県中学校体育連盟	三浦　雄太朗
秋田県スケート連盟	森　哲平
秋田県武術太極拳連盟	国枝　あつ子
	朝香　美保子
秋田県ゲートボール協会	柴田　一郎
	宍戸　恒雄
秋田県山岳連盟	佐藤　健
	斉藤　元
秋田県ライフル射撃協会	伊藤　昭
	近藤　貞夫
秋田県ソフトボール協会	鈴木　始
	鎌田　長悦
	滝沢　清一
秋田県トライアスロン協会	吉田　一正
	潮　明良
	高橋　絵里奈
	近藤　憲司
	阿部　髙之
	須貝　正宏
秋田県弓道連盟	渡辺　鐵哉
秋田県ウエイトリフティング協会	榎　齊
秋田県アイスホッケー連盟	千葉　誠二
	目黒　洋
秋田県バドミントン協会	加賀谷　彰
	菅生　哲也
秋田県水泳連盟	伊藤　章
	中村　晴二
秋田県アームレスリング連盟	坂本　英隆
	佐久間　美智子
（一社）秋田県サッカー協会	安井　誠悦
	鈴木　夏絵

所属／団体名	氏名
秋田県空手道連盟	石塚　司
秋田県ボクシング連盟	鎌田　稔千
秋田県ハンドボール協会	菅野　肇
秋田県なぎなた連盟	小田原　制子
	國安　黎子
	淡路　徳子
秋田県綱引連盟	太田　広治
	櫻庭　星治
秋田県自転車競技連盟	伊藤　光雄
	藤田　純
秋田県ダンススポーツ連盟	山岡　光廣
	今　芳昭
秋田県ボート協会	加藤　正己
（公財）秋田県体育協会	新林　美保
	安田　竜
	近藤　恭孝
	松本　宗也
	原　文俊
秋田県スポーツ推進委員協議会	野中　歌子
	荒川　恵子
	松山　順子
	板橋　征男
	髙橋　史晃
（一社）秋田県観光連盟	伊藤　美沙子
	菅原　侑紀
秋田うまいもの販売課	佐藤　徹
	藤原　剛
	吉田　育男
交通政策課	長谷川　雄美
	中山　英貴
観光戦略課	齊藤　ルミ子
	山内　雅人
	伊藤　穣
あきたびじょん室	水澤　里利
	成田　光明
	赤田　有佳
秋田県スポーツ振興課	髙橋　央
	保坂　文明
	門脇　謙明
	佐藤　國寛
	二木　茂希
	佐藤　淳一
	佐藤　朋
	齊藤　由人
	新号　和政
	大山　知巳
	高田屋　馨
	小笠原　幸喜
	江藤　秀人
	俵谷　雅之
	門脇　薫
井川町体育協会	中山　英悦
	森田　和文
	松岡　明
横手市教育委員会山内生涯学習センター	髙橋　正彦
（一財）横手市体育協会	伊藤　靖隆
潟上市教育委員会スポーツ振興課	村山　久尚
	仲山　和法
五城目町体育協会	畑山　卓志

所属／団体名	氏名
潟上市体育協会	渡邊　毅
	三浦　俊也
	武藤　守
北秋田市小猿部スポーツクラブ	宇佐美　慧
秋田市サッカー協会	三浦　憲一
秋田市ゲートボール協会	齊藤　忠男
	上村　弘子
秋田市弓道連盟	和泉　幸夫
秋田市銃剣道連盟	佐藤　昭一
	猪俣　義雄
秋田市武術太極拳連盟	髙橋　アヤ子
秋田市ラジオ体操連盟	髙橋　次男
秋田市グラウンドゴルフ協会	加賀谷　幸雄
	髙橋　郁雄
（一財）秋田市体育協会	川口　房男
	又井　健
	進藤　進
泉学区体育協会	久保市　良悦
	佐々木　茂
	糸田　俊男
	黒崎　義雄
	黒崎　廣子
秋田市スポーツ推進委員	徳原　鉄次
	佐藤　昇悦
	後藤　利恵子
	塚田　敏春
	遠藤　美津子
	荒川　恵子
	武藤　美夜子
	黒木　勝美
	野中　歌子
	舟山　幸彦
	松山　順子
	伊藤　悟
（株）ブラウブリッツ秋田	加藤　芳樹
秋田市環境部環境総務課	三浦　勉
	細井　康広
	竹内　元
	村上　義紀
秋田市環境部環境都市推進課	竹中　智子
	大橋　一仁
	原田　光輝
	加藤　幸人
秋田市教育委員会スポーツ振興課	藤原　義久
	佐藤　一人
	船木　透
	中安　浩二
	猿田　実
	山上　桐子
	八柳　紀子
（公財）日本オリンピック委員会事務局	阿部　幹雄
	尾畑　雄志
	木村　岳史

3 第11回JOCスポーツと環境担当者会議　開催報告

Reports of the 11th JOC National Sport Federations Conference on Sport and Environment

■開催概要

1. 趣　　旨： スポーツを通じた持続可能な社会づくりへの理解を深めると共に、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（東京 2020）に向けた関係者・関係団体との地球環境保全への連携、実践活動の推進を図るために標記会議を開催した。

2. 主　　催： 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）

3. 後　　援： 文部科学省、環境省、公益財団法人 日本体育協会

4. 日　　時： 平成 27 年 2 月 19 日（木）14：00 ～ 17：00

5. 場　　所： 味の素ナショナルトレーニングセンター　1 階　大研修室

6. 出 席 者： 本会役員、本会スポーツ環境専門部会員、本会加盟競技団体環境担当者　　他 80 名

7. プログラム： テーマ『スポーツ界が目指す持続可能な社会づくり』
～東京 2020 に向かって競技団体が実践できる取組み～

14：00　開会挨拶　平岡英介　JOC 常務理事／総務委員長

14：15　基調講演『東京 2020 に向け環境省としてスポーツ界に求めるもの』
上田康治　環境省　総合環境政策局総務課長

15：00　休憩

15：00　『東京 2020 に向けて競技団体として何ができるか？』
上田康治　環境省　総合環境政策局総務課長
本橋淳　（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
大会準備運営部　持続可能性担当課長
玉利聡一　JOC スポーツ環境専門部会員
西山雄二　JOC スポーツ環境専門部会員
コーディネーター：大塚眞一郎 JOC スポーツ環境専門部会部会長

16：50　閉会の挨拶

17：00　閉会

■会議概要

第 11 回 JOC スポーツと環境担当者会議を開催 2020 年に向けた取組みを共有

日本オリンピック委員会（JOC）は 2 月 19 日、味の素ナショナルトレーニングセンターで「第 11 回 JOC スポーツと環境担当者会議」を開催した。この会議は、スポーツを通じた持続可能な社会づくりへの理解を深めると共に、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（東京 2020）に向けた関係者・関係団体との地球環境保全への連携、実践活動の推進を図ることを目的とした。「スポーツ界が目指す持続可能な社会づくり～東京 2020 に向かって競技団体が実践できる取組み～」というテーマが掲げられ、JOC や加盟団体の環境担当者ら 80 名が参加した。

はじめに、平岡英介 JOC 常務理事があいさつに立ち「2020 年のオリンピック・パラリンピック競技大会の立候補ファイルに、スポーツを通じて地球環境、地域環境の大切さを発信する大会にすることがうたわれております。さらに、昨年 12 月に採択された『オリンピック･アジェンダ 2020』の中には、オリンピック・ムーブメントの日常的な業務における持続可能性の導入が盛り込まれています。東京 2020 まで約 5 年間、ホスト国といたしまして、またオリンピック・ムーブメントを推進する組織とし

て、JOC と各競技団体がスポーツと環境に対し、これまで以上に真剣に考えていかなければならないと考えております」と述べた。

環境省がスポーツ界に求める取組みとは

会議の前半は、「東京 2020 に向け環境省としてスポーツ界に求めるもの」と題し、環境省の上田康治総合環境政策局総務課長による基調講演が行われた。上田課長は、はじめに環境問題の変遷を時代ごとに示しながら現状を説明。環境問題について考える際のキーワードとして「持続可能性」を挙げ、持続可能な社会とはどういうことか、それを実現するためには何が必要かを述べた。

また、スポーツと環境の関係については 2 つの側面があるとし、まず「スポーツが環境に与える影響」の例として大規模なスポーツ施設の建設や大会運営、スポーツへの参加を通じた環境問題への関心の高まりなどを挙げた。逆に「環境の変化がスポーツに与える影響」については、大気汚染などの公害問題が屋外競技に、地球温暖化の進行が冬季競技に影響を及ぼすなどの例を示した。

東京 2020 に向けては、2012 年ロンドンオリンピック・パラリンピックでの例を挙げながら、「環境にやさしいオリンピック」と「環境都市東京」の実現に向けた環境省の取組みを紹介。当面やるべきこととして、東京の名所を回るマラソンコースをモデルケースにした多角的なアプローチが検討されていると明かした。

さらに具体的な取組みとしては、施策の一例としてカーボン・オフセットや ESD（持続可能な開発のための教育＝ Education for Sustainable Development）が紹介された。カーボン・オフセットとは、事業活動や日常生活で排出される温室効果ガスについて削減努力を行った上で、どうしても削減できなかった温室効果ガス排出量を、他の場所で行われた温室効果ガスの排出削減・吸収量等（クレジット）でオフセット（埋め合わせ）し、自らの排出に責任を持つ取組みのことで、実行には「知って、減らして、オフセット」という 3 つのステップがある中で、まずは知るところからはじめてほしいと訴えた。

ESD は単に環境だけではなく、貧困、人種、平和、開発といった現代社会の課題を自らの問題としてとらえ、身近なところから取組むことで課題の解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を目指すことが目的であると説明。自身の取組みを 6 つの視点から理解し、7 つの工夫をすることで必要な 能力を身につけられるとし、「ゴミの分別をする」「川をきれいにして魚を放流する」という具体例に落とし込んだ場合の考え方を示した。

東京 2020、サッカー協会、横浜市の事例をもとに意見交換

後半は、「東京 2020 に向けて競技団体として何ができるか」というテーマで、パネルディスカッションが行われた。パネリストは、東京 2020 組織委員会で大会準備運営部に所属する本橋淳持続可能性担当課長、ともに JOC スポーツ環境専門部会の一員でもある日本サッカー協会（JFA）の玉利聡一管理部部長代理と横浜市の西山雄二市民局局長に、環境省の上田課長を加えた 4 名。大塚眞一郎 JOC スポーツ環境専門部会長のコーディネートのもと、実践活動の事例を紹介し、各競技団体が抱える悩みや質問に対してアドバイスが行われた。

本橋課長は、東京 2020 の取組みとして、（1）環境負荷の最小化、（2）自然と共生する都市環境計画、（3）スポーツを通じた持続可能な社会づくり、という 3 つの柱を紹介。ファンクショナルエリア（大会を支える機能）の 1 つに「持続可能性」があり、大会開催基本計画の中で「環境に配慮し、持続可能なオリンピック・パラリンピック競技大会を運営する」というミッションが記載されていると説明した。そして、各競技団体が取組める部分として柱の（1）と（3）を挙げ、「今後温暖化が進んだとき、夏の暑い中で運動ができるのか、冬の競技ができるのか。皆さんの競技が将来にわたって持続可能であるために、何ができるかと考えていただければと思います」と訴えた。

玉利スポーツ環境専門部会員は、最近良く知られるようになったサポーターによる試合後の清掃活動（クリーンサポーター活動）が、もとはサポーター有志の活動からスタートし、J リーグや JFA が追随して定着したという経緯を説明。また、事務業務においてはタブレットを活用した会議資料の ペー

パーレス化を進めているほか、今後強化していきたい点として、競技環境の整備に関するルール作りやアジアサッカー全体で貧困問題などに取組む活動「ONE GOAL」との連携を挙げた。

西山スポーツ環境専門部会員は「横浜シーサイドトライアスロン大会」で実施している「横浜ブルーカーボン事業」によるカーボン・オフセットの社会実験を紹介した。これは大会運営や参加者の会場までの移動により生じる CO_2 排出量を金額に換算し、参加費に上乗せされた任意の寄附金でカーボン・オフセットを行うもので、わかめの栽培・地産地消などを支援することで CO2 削減、海の環境改善に貢献しようという取組み。昨年は 64.9％の参加者から賛同を得られたという 西山スポーツ環境専門部会員は、トップアスリートが参加する国際大会「世界トライアスロンシリーズ横浜大会」においても実施を予定していると明かし、「横浜の歴史の中で環境に対しても目を向ける大会にできればと思っています」と PR を行った。

環境省の上田課長は、パネリスト 3 名のプレゼンテーションを受け、「（こうした取組みは）自分で考えてストーリーを作り、共感を得られないとなかなか取組んでもらうことができません。そういった意味で、皆さんとても工夫をされていると思います」とコメント。東京 2020 組織委員会の本橋課長も「環境のことというのは、事務局ばかり頑張って総論で止まったりしがちですが、いかに自分の組織や市民を巻き込んでいくか、ストーリーを作って自分の活動にどんな意味があるのかということを理解してもらうことが大事ですね」と応えた。

質疑応答、パネリストによる総括に続いて、最後に大塚部会長が閉会あいさつを行い、「2020 年に向けてもうスタートは切られていますので、これからは 本当に重要な 5 年間になります。今日のお話の中でもヒントになったことがたくさんあったのではないでしょうか。スポーツを通じて持続可能な社会づくりをいかにしてできるか、皆さんと共に挑戦していきたいと思います」と呼びかけた。

■出席者一覧

所属先	出席者名
（公財）日本オリンピック委員会	平岡英介
	齋藤泰雄
	大塚眞一郎
	尾崎正則
	平眞
	山口香
	黒川光隆
	板橋一太
	植松克之
	大塚慶二郎
	鎌賀秀夫
	齋藤由紀
	玉利聡一
	西山雄二
（公財）日本水泳連盟	佐野和夫
	丸笹公一郎
	小川知伸
（公財）日本テニス協会	大津克哉
（公社）日本ボート協会	相浦信行
	苅谷裕子
（公社）日本ホッケー協会	瀧上正志
（一社）日本アマチュアボクシング連盟	内海祥子
（公財）日本体操協会	遠藤幸一
	渡邉榮
（公財）日本バスケットボール協会	長谷川洸世
（公財）日本スケート連盟	森村直樹
（公財）日本アイスホッケー連盟	上原健治

所属先	出席者名
（公財）日本レスリング協会	本田原明
	吉澤昌
	関貴史
	真田栄作
	白井正良
（公財）日本セーリング連盟	永井真美
（公社）日本ウエイトリフティング協会	多小田一紀
（公財）日本ハンドボール協会	兼子真
（公財）日本自転車競技連盟	白崎孝紀
（公財）日本ソフトテニス連盟	川島登
	玉木進
（公財）日本卓球協会	鈴木一雄
（公財）全日本軟式野球連盟	清野祐
（公財）日本相撲連盟	吉村登
（公社）日本馬術連盟	長友満則
	田村好伸
（公財）日本ソフトボール協会	竹島正隆
	久下知宏
（公財）日本バドミントン協会	能登則男
（一財）全日本剣道連盟	新美俊太郎
（公社）日本近代五種協会	野上等
	上瀧守
（公財）日本ラグビーフットボール協会	児玉隆一郎
（公社）日本山岳協会	松隈豊
（公財）全日本空手道連盟	石田航
（公社）全日本銃剣道連盟	平本悌子
（一社）日本クレー射撃協会	大江直之

所属先	出席者名
（公財）全日本ボウリング協会	宮内久美子
（一財）全日本野球協会	柴田穣
（特非）日本スポーツ芸術協会	相原茂明
（公社）日本カーリング協会	小川豊和
（公社）日本トライアスロン連合	中山正夫
	酒井信治
	今井健夫
（一社）全日本テコンドー協会	川津博
（公社）日本ダンススポーツ連盟	嶋田洋子
（一社）日本バイアスロン連盟	山村明
（一社）日本カバディ協会	河合陽児
（公社）日本チアリーディング協会	久保田友代
	下地隆
（公社）日本オリエンテーリング協会	高村卓
	信原靖
（公社）日本パワーリフティング協会	宮本英尚
	物江毅
（一社）日本フライングディスク協会	師岡文男
環境省	上田康治
（公財）東京 2020 組織委員会	本橋淳
	忰田学
（公財）日本オリンピック委員会事務局	阿部幹雄
	黒川仁美
	木村岳史
	尾畑雄志
	冨吉貴浩

4 スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について

Issues regarding awareness and inplementation activities

（1）各競技団体の活動

（公財）日本陸上競技連盟…… 60
（公財）日本水泳連盟…… 61
（公財）日本サッカー協会…… 63
（公財）全日本スキー連盟…… 64
（公財）日本テニス協会…… 66
（公社）日本ボート協会…… 67
（公社）日本ホッケー協会…… 67
（公財）日本バレーボール協会…… 68
（公財）日本体操協会…… 70
（公財）日本バスケットボール協会…… 71
（公財）日本スケート連盟…… 72
（公財）日本アイスホッケー連盟…… 73
（公財）日本レスリング協会…… 74
（公財）日本セーリング連盟…… 75
（公社）日本ウエイトリフティング協会… 76
（公財）日本ハンドボール協会…… 77
（公財）日本自転車競技連盟…… 78
（公財）日本ソフトテニス連盟…… 79
（公財）日本卓球協会…… 80
（公財）全日本軟式野球連盟…… 81
（公財）日本相撲連盟…… 82
（公社）日本馬術連盟…… 83
（公社）日本フェンシング協会…… 84
（公財）全日本柔道連盟…… 85
（公財）日本ソフトボール協会…… 86
（公財）日本バドミントン協会…… 87
（公財）全日本弓道連盟…… 88
（公社）日本ライフル射撃協会…… 88
（一財）全日本剣道連盟…… 89
（公社）日本近代五種協会…… 90
（公財）日本ラグビーフットボール協会… 91
（公社）日本山岳協会…… 92
（公社）日本カヌー連盟…… 93
（公財）全日本空手道連盟…… 93
（公社）全日本銃剣道連盟…… 94
（公財）全日本ボウリング協会…… 95
（一財）全日本野球協会…… 96
（公財）日本カーリング協会…… 97
（公社）日本トライアスロン連合…… 98
（公財）日本ゴルフ協会…… 99
（公社）日本スカッシュ協会……100
（公社）日本ボディビル・フィットネス連盟……101
（一社）全日本テコンドー協会……101
（公社）日本ダンススポーツ連盟……102
（一社）日本バイアスロン連盟……103
（一社）日本カバディ協会……104
（一社）日本セパタクロー協会……105
（特非）日本クリケット協会……105
（公社）日本アメリカンフットボール協会……106
（公社）日本チアリーディング協会……106
（公社）日本オリエンテーリング協会……107
（公社）日本パワーリフティング協会……108
（一社）日本フライングディスク協会……109

（2）スポーツ環境専門委員の活動

板橋一太委員…… 110
西山雄二委員…… 111
松岡修造委員…… 112

※（公財）＝公益財団法人、（公社）＝公益財団法人、（一財）＝一般財団法人、（一社）＝一般社団法人、（特非）＝特定非営利活動法人

(1) 各競技団体等の活動
Activities of the JOC affiliated NFs and organizations

（公財）日本陸上競技連盟

1．実施概要

世界規模で「地球環境保全」が叫ばれて久しいが、昨今の世界的な気候変動、異常気象はとどまるところを知らない状況となっている。スポーツ界においても環境問題は避けては通れない大きなテーマとなっている。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催が決定し、環境省からも 2020 年は温室効果ガスの削減目標年と生物多様性にかかわる愛知目標の目標年ということで、2014 年に「2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会を契機とした環境配慮の推進について」が発表された。その中でも関係省庁や関係団体が連携して、大会自体に環境への負荷軽減の取り組みを盛り込むだけでなく、同大会を契機として、内外に循環共生型社会の実現を働きかけていく必要があると定めている。

本連盟でも、2006 年に総務委員会に環境プロジェクトを設け、その後、「JAAF グリーンプロジェクト」を立ち上げ、環境省ともタイアップし「チームマイナス 6%」→「チャレンジ 25」と植樹活動、チャレンジ 25 メンバー募集活動などの地球温暖化防止の PR・啓発活動を主催大会会場等において積極的に展開してきた。

2．2014 年度事業活動

●啓発ポスターの活用（JOC ポスターの掲示）
●競技会プログラムでの「温暖化防止の PR」の掲載
●主催大会でのゴーヤの種配布による温暖化防止の啓発
● IT 化の推進によるプログラム、リザルト等の紙減量運動の展開
●主催マラソン大会における、関係車両のエコカー利用
●ゴミ分別の指導

3．具体的な活動実施内容とその成果

1）主催マラソン大会における環境への取り組み

①関係車両のエコカー利用

主催マラソン大会（横浜女子マラソン、福岡国際マラソン、大阪国際女子マラソン、東京マラソン、びわ湖毎日マラソン、名古屋ウィメンズマラソン）、主催駅伝大会（都道府県対抗女子駅伝、都道府県対抗男子駅伝）では先導車、大会車両としてハイブリッド車を中心としたエコカーの利用を推進している。また 2015 年度は東京マラソン（BMW）、都道府県対抗女子駅伝（三菱自動車）で電気自動車を使用した。びわ湖毎日マラソンでは燃料電池自動車（トヨタ自動車）を使用し、環境、選手への配慮をするとともに、温暖化防止の啓発にも貢献した。

②東京マラソン 2015 におけるチャリティ活動

●公益財団法人東京都農林水産振興財団への寄付（931 万 2,500 円）
花粉の少ない森づくり・スギ林の伐採と花粉の少ないスギの植栽。
東京マラソンの森（八王子）森づくりイベントの開催。

●公益財団法人山梨県緑化推進機構への寄付（724 万 8,000 円）
森林の整備・花木の植栽・登山道の整備・獣害対策・耕作放棄対策・明るい山村の創造。
整備した登山道で「多摩川源流トレイルラン」を開催。

③びわ湖毎日マラソン大会におけるキャンペーン活動

第 69 回びわ湖毎日マラソン大会では市民団体やボランティアグループ、協賛の住友電工の協力を得て、環境キャンペーンを実施した。具体的には下記の活動を行った。

●市民ヨシ刈り
琵琶湖岸のヨシの整備

●瀬田川グルっとウォーク
市民への健康・環境に対する意識の啓発

●「びわ湖環境ふれあいテント村」の実施
おおつ自転車マップの配布、MOTTAINAI キャンペーンの実施、エコキャンドル体験など

2）主催大会での環境に対する啓発

・セイコーゴールデングランプリ陸上 2014 にて、「ゴーヤの種」をサブイベント出場の子どもたちに配布した。
・第 45 回ジュニアオリンピック競技大会・第 98 回日本陸上競技選手権リレー競技大会において、啓発ポスターの啓示など環境啓発活動を行った。

4．全体的な成果と今後の課題

主催大会会場等にて実施してきた環境活動（・陸連独自の横断幕等の掲示、掲載・大会プログラム紙上での PR・植樹・種の配布等）の成果には手ごたえを感じている。今後はペーパーレス競技会の実現や、各種会議でのペーパーレス化など IT を利用した省エネルギー化を促進していきたい。本連盟の主催する 36 競技会が率先して行うことで、全国の約 4000 大会でも環境に配慮した競技会が行われるように、関係者一人ひとりの意識改革を図っていきたい。

5．JOC スポーツ環境専門部会員　風間明

主として屋外で行われる陸上競技にとって、大気汚染、温暖化や異常気象は、競技の存続に直結する問題であり、率先して対応するべき課題である。実際に時期はずれの台風や大雪により競技会を中止したり、ゲリラ豪雨により中断せざるを得ないような事例が年々目立ってきていると感じている。個々人ができることは小さなことであるが、それが積み重なって社会に影響を与えるように、今後も啓発活動を続けていきたい。

（公財）日本水泳連盟

1．実施概要

『水』を介したスポーツ競技団体として、地球を取り巻く環境整備を常に心がけるよう、積極的かつ持続可能な身近な活動を行い、また、水泳 3 団体と共催事業を実施するなどして、関係者が共通認識を持つことで活動の底上げと拡大・促進に努め、連携の輪を広げる。

2．平成 26 年度事業活動

●第 6 回エココンテスト実施（エコポスターデザインコンテスト）表彰
●エココンテスト作品の普及活動への積極的利用
●ペーパレス・マイボトル推進運動
●競技会等における継続的環境活動
　1）大会監督者会議での活動告知、環境啓発ページのプログラム掲載　等
　2）場内での来場者への、啓発ポスター・バナー掲示、チラシ配布、ゴミ分別等
●新制定の「水泳の日」（2015 年 8 月 14 日）イベント内でのブースによる展示と場内での参加型啓発イベント企画

3．具体的な活動実施内容とその成果

①第 6 回エココンテスト
　水泳 3 団体共催でエコポスターデザイン募集、応募総数 346 通からグランプリを決定し（財）日本水泳連盟主催「ジャパンオープン」(平成 26 年 6 月 5 日) 開始式にて表彰。
　入賞者は鈴木会長との記念写真撮影により激励、日本選手権観戦
②ゴミ分別
　例年通りの所轄自治体ルールに則した分別と、持ち帰りの奨励
③『紙削減プロジェクト』の継続実施・強化
　インターネットを利用した即時結果配信システムの充実により更なる紙による情報配信の削減
④環境バナー・オリジナルポスター・チラシの継続的配布
　監督者会議でのレクチャー、各大会終了時にバナーとともに役員集合写真を撮影。休憩時間を利用した場内ビジョンシステムでのアピールメッセージ露出

4．全体的な成果と今後の課題

　エココンテストは、水泳 3 団体で活動して 6 年目を迎え、全国規模で多くの愛好者が参加し、益々大きな活動となりつつあるが、来年度に向けてさらなる展開として新しく制定される『水泳の日』イベント（愛好者対象）への参加を試みることとし、来場を予想される水泳ファン層へ直接アピールを試みる参加イベント企画に入った。
　2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向け、直接「水」を利用する種目である事から、持続可能でより積極的に環境活動に参加出来るよう、身近な事から積み上げ、同時に将来のトップスイマーたちにもアピールしていきたい。

5．JOC スポーツ環境専門部会員　齋藤由紀

　スポーツ環境委員会が連盟内に発足して 10 年経つのを機に、『水泳の日』新イベントを企画する。これは、基本的活動内容とその理念は小さなことの積み重ねで日常の延長上にあるという連盟の基本スタンスがかなり浸透したことを受け、昨年課題とした一般観客参加型活動を新たに企画し、環境活動を膨らませ持続可能な活動の輪を関係者のみならず、特に若年層を含めた水泳愛好者にも広げる事を目指すものである。また ESD の一環として、より積極的に水泳を通じたプログラムも企画・具体化したい。

（公財）日本サッカー協会

1．実施概要

JFA の「理念」、および「国連グローバル・コンパクト」における環境 3 原則（2009 年 7 月に署名）、そして、環境省「チャレンジ 25 キャンペーン」（2010 年 1 月に登録）に基づき活動を継続。

2．平成 26 年度事業活動

●主催／後援競技会等におけるゴミ分別や公共交通機関利用の啓発
● JFA グリーンプロジェクトの推進
●旧環境プロジェクトを通じた各種啓発活動の推進
●国連グローバル・コンパクトの国内分科会活動参加（環境経営分科会）
●オフィス（JFA ハウス）における環境への配慮（クールビズの実施等）

3．具体的な活動実施内容とその成果

① JFA 事務局内での代表的な活動

前年からのペーパーレス活動を継続し、さらに理事会、常務理事会、事務局内管理職定例ミーティング等までその活動を拡大した。約 12 万枚（A4 サイズ）規模の紙の削減にあたり、約 163kg の CO_2 削減に相当するものとなった。また、その他指導者向け研修会、都道府県協会向け会議、各職員の日常の会議等でも活動は広がり、2015 年度においては、複合機の IC カード認証を導入し、さらにセキュリティと無駄紙利用の廃止を推進する予定である。

② JFA グリーンプロジェクト

前年同様、都道府県協会、サッカークラブ、自治体、学校、幼稚園・保育園を対象に芝生の苗の提供等を実施。今年度は、約 70 万株の芝生の苗を全国 32 箇所に提供し、合計 165,000㎡（サッカーピッチ 23 面分相当）を芝生化。

③社会貢献活動推進プロジェクト

環境活動のみにこだわらず、グラスルーツ活動推進、人権対応など幅広く見直すこととした。2015 年 2 月開催時の第 11 回「JOC スポーツと環境担当者会議」でのパネルディスカッションの機会をいただいた他、2015 年度実施開始予定とした AFC CSR プログラム（栄養改善キャンペーン）と連動した食育を通じた食料廃棄へのアドボカシー等、環境を意識したメッセージも発信予定である。

④地域／ J リーグ

名古屋グランパス	環境省、日本百貨店協会が主催の「スーパークールビズ 2014 キックオフ・イベント in 名古屋」に参加。グランパスくん、グランパコちゃんが地域の環境啓発に協力。
ギラヴァンツ北九州	クラブマスコット「ギラン」のモチーフになったズグロカモメが飛来する干潟の清掃活動「曽根干潟クリーン作戦」に参加。
ガンバ大阪	万博外周道路「ゴミ 0 ウォーク」と題して、毎年、ジュニア・ジュニアユースの選手・スタッフ約 50 名で、万博記念公園の外周道路を中心にゴミ拾いを実施。
セレッソ大阪	2012 年度から大阪ガス、ヤンマーと行う「CO2 ゼロチャレンジ」活動が評価され、環境省「第 3 回カーボン・オフセット大賞 経済産業大臣賞」を受賞。

大宮アルディージャ	2004年度から「大宮クリーン大作戦」を大宮区役所と合同で実施。ファン・サポーター、パートナー企業、クラブスタッフに加え、塚本泰史クラブアンバサダーも参加（310名）。
川崎フロンターレ	川崎市環境局、中原区役所、公園緑地協会、富士通とタッグを組み、進める「Carbon Challenge 等々力」を継続、環境体験でイベント「第4回CC等々力エコ暮らしこフェア」を実施。
カマタマーレ讃岐	「第9回 高松エアポートクリーン大作戦」と題して、地域住民の方々、空港関係者、近隣企業、ボランティア、福家勇輝選手他5名が清掃活動に参加。
横浜F・マリノス	WWF（世界自然保護基金）が2007年より実施している世界最大級の環境キャンペーン「アースアワー」に賛同、プロサッカークラブとしては日本初となる親善大使に就任。選手、マリノスケ、トリコロールマーメイズが公式サイトやイベントで活躍。

4．全体的な成果と今後の課題

● JFA

例年通りの活動を継続。さらに事務局発としてペーパーレス化を推進中。

● Jリーグ

各クラブの取組が継続的に続いている。一部クラブについては活動定着に合わせ、参加者の増加等取組が根付いていることが成果として出ている。

5．JOCスポーツ環境専門部会員　玉利聡一

JFA、Jリーグ等全国的に継続して活動を展開している。JFAでは、事務局拡大に合わせた業務効率化、コスト削減、先進技術の導入、環境負荷への配慮といった複合的な観点から取り組みを実施中。前年改廃を行った委員会活動については、事務局職員を中心に「社会貢献活動推進プロジェクト」として、環境活動に加え、その他社会貢献活動を強化する方向で方針策定を実施した。

（公財）全日本スキー連盟

1．実施概要

本連盟は冬季スポーツ競技団体として、地球温暖化による雪不足を切実な問題として捉え、「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開し10年目を迎えている。このキャンペーンでは、「自然に対する感謝を表す活動」、「雪を通じた感動体験の共有」、「親子の絆を深める機会の提供」、「健康や楽しみを得るための機会の提供」という四つのキーワードを掲げ、「スキー選手」を通して環境保全に対する啓発活動を行っている。

2．平成26年度事業活動

①Fun to Shareキャンペーン参加による低酸素社会への啓発活動

②2015 FIS フリースタイルワールドカップ　秋田たざわ湖大会における環境省の環境保全に対する啓発活動への協力

③「I LOVE SNOW」One's Handsキッズフェスタ2014 in 岩手の開催

3．具体的な活動実施内容とその成果

①Fun to Shareキャンペーン参加による低酸素社会への啓発活動

Fun to Share宣言『スノースポーツを通して自然の大切さを伝えることで、低炭素社会へ。』を行い、環境保全に対する啓発活動を行った。

②2015 FIS フリースタイルワールドカップ　秋田たざわ湖大会における環境省の環境保全に対する啓発活動への協力

2015 FIS フリースタイルワールドカップ　秋田たざわ湖大会において、環境省が大会協賛する際に現地組織委員会との調整を行うと共に、大会期間中、選手を起用しての環境保全に対する啓発活動への協力（環境省Ｗｅｂ素材提供等）を行った。

③「I LOVE SNOW」One's Handsキッズフェスタ2014 in 岩手の開催

スキーヤーをゲストに迎え、東日本大震災で被災した岩手県沿岸地域（釜石、陸前高田、大船渡）の子どもたちを対象とした雪上イベントである「I LOVE SNOW」One's Hands キッズフェスタ 2015 in 岩手を開催した。参加した子供たちがイベントを通してスキーを楽しむことで、復興に向け元気を取り戻すと同時にスノースポーツの素晴らしさや雪の大切さを実感してもらう機会を提供した。また、今回は、スペシャルゲストとして、水泳／背泳ぎのシドニーオリンピック銀メダリスト、中村真衣さんを招き、参加した子供たちと楽しい時間を過ごしてもらった。

＜成果＞

これらの活動により、雪や自然を守ることの大切さ、継続して実践することが環境保全につながることをアピールできた。ワールドカップにおいて、環境省の環境保全に対する啓発活動に協力できたことや他競技のオリンピアンと連携ができたことは、大きなアピールとなった。

4．全体的な成果と今後の課題

「I LOVE SNOW」キャンペーンを展開し 10 年目を迎え、本キャンペーンの主旨や活動が定着し、環境保全に対する啓発活動ができてきている。小さな活動ではあるが、継続することに大きな意味を感じている。引き続き、上記活動を通して啓発活動を行いたい。

5．JOC スポーツ環境専門部会員　谷 雅雄

今年度は、日本国内において大きな噴火災害が発生し、多くの犠牲者が出た。また、噴火地域にあるスキー場で開催を予定していたスキー競技会を中止せざるを得なかった。人類の力ではいかんともしがたい状況を目の当たりにした。このままでは、地球環境全般が人類の力ではいかんともしがたい状況になってしまう。世界中の人がこれらの現象に危機を感じ、環境保全に努めなければならない状況の中、本連盟は冬季スポーツ競技団体として、「雪」をキーワードに地球温暖化防止や環境保全に関するメッセージを発信し、自らも継続して活動を行っていきたいと考えている。

（公財）日本テニス協会

1．実施概要

本協会では、テニス界における環境保全、啓発、実践活動の３つの柱を掲げている。そのツールとして、週刊少年マガジンに連載中のテニス漫画『Baby Steps』に登場する主人公をモデルにした広報用のポスターを活用し、「ほんのちょっとのエコ活動」をスローガンに日々の生活の中でも環境意識を持ってもらえるよう活動に取り組んでいる。

2．平成 26 年度事業活動

●日本テニス協会主催大会をはじめ、カンファレンス、大会等で環境バナーを掲示
●テニス界における環境保全と整備を目的とした活動（3R 推進）
●子どものマナーアップにつながる継続的なキャンペーンとして「ごみゼロ運動」を実施
●日本で行われる国際大会での啓発活動

3．具体的な活動実施内容とその成果

①「テニスの日」イベントでの啓発活動
毎年９月 23 日に全国で展開されているテニス普及イベントにおいて、「ほんのちょっとのエコ活動」をスローガンに啓発活動を実施した。

②テニス指導者、選手、観客の方々への環境啓発活動
日本テニス協会主催大会をはじめ、カンファレンス等で環境ポスターを掲示して啓発活動を行った。

③グローバル・スポーツ・アライアンス（GSA）との協同事業
「テニスの日」有明メイン会場では、中古テニスボールの回収（1300 個）と不要になったラケットの回収（35 本）を行った。テニスボールのリユース活動として、使い古したボールを全国の学校機関に提供している。ボールは、教室内の防音対策用に机と椅子に取り付けられる。また、ラケットは、GSA と国連環境計画（UNEP）によるサポートのもとケニア・ナイロビで毎年開催されている貧困地域の子どもたちを対象とした環境教育プログラム『GSA ドリームキャンプ（Nature & Sport Training Camps)』で活用するために会場となる現地スポーツクラブに寄贈された。＊GSA ホームページ：http://www.gsa.or.jp

4．全体的な成果と今後の課題

地域・都道府県テニス協会には環境担当者がおり、各地で様々な取り組みの実践がなされている。たとえば大会時には、松岡修造氏の環境啓発ポスターや Baby Steps のポスターを掲示して環境意識の向上を図っている。このポスター張り出しの啓発プロジェクトは、ジュニア、コーチ／指導者、テニス愛好家に向けて、共通の価値観の形成に寄与することができる実践例となっている。特にジュニアへの教育活動の一環として、募集要綱、大会パンフ、会場などで絶えず目にする機会があるとよいと考えている。

今後も日本テニス協会主催大会をはじめ、講習会などで環境バナーやスポーツと環境のシンボル旗「エコフラッグ」、環境ポスターを掲出し、環境保全調査及び啓発・実践活動に取り組んでいく。

（公社）日本ボート協会

1．実施概要

ボート競技は基本的に自然の中で行われる競技であり、自然と一体化した競技であると言える。

全国の水域のほとんどは自然に囲まれており、水質の汚染だけでなく、豪雨や渇水などの異常気象も含めた環境の変化は競技そのものにも大きく影響する。

このことは、競技関係者が環境活動の重要性を強く認識する背景となるものであり、「地球温暖化」に象徴される環境破壊は、人々に環境保全の重要性を再認識させる大きな契機となった。

競技関係者のみならず、水域を取り巻く多くの人たちにも環境活動の重要性をアピールしながらこの活動の推進に取組むこととした。

2．平成 26 年度事業活動

●大会時、諸会議時での環境啓発ポスターの掲示
●大会プログラムへの環境啓発 PR の掲載
●競技会場でのゴミ分別回収等の環境活動　他

3．具体的な活動実施内容とその成果

①ポスター等による啓発活動
・本会主催大会にて環境啓発ポスターを掲示するなど、啓発活動を行った。
・大会プログラムへの環境啓発ポスター（縮小）1 ページ全面掲載による、啓発活動を行った。
②実践活動
・セーフティアドバイザー講習会での環境活動に関する啓発活動（開催場所：戸田市、盛岡市）。

4．全体的な成果と今後の課題

環境活動の重要性に対する認識は高まりつつある。

今後は、協会としての取組み優先順位をさらに引き上げて、より具体的な活動を拡大し積極的に環境保全に努めていきたい。

（公社）日本ホッケー協会

1．実施概要

当協会は主管協会・連盟とともに、環境活動の重要性の理解を促し、啓発・実践活動を行った。今後も全国の方々に広めていけるように、より多くの啓発・実践活動に取り組む。

2．平成 26 年度事業活動

①大会時の環境啓発ポスター、横断幕（バナー）の掲示
②競技会等における環境活動

③研修会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示

3．具体的な活動実施内容とその成果

①大会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示

当協会主催大会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。

②競技会等における環境活動

当協会主催大会において、ゴミ箱の設置、清掃活動を行った。

③研修会時の環境啓発ポスター、横断幕の掲示

当協会の各種研修会にて環境啓発ポスター、横断幕の掲示を行い、啓発活動を行った。

4．全体的な成果と今後の課題

ポスター、横断幕の掲示などの啓発活動を実践してきた事が実り、選手・開催地等の関係者に環境活動の啓発意義が徐々に理解されてきた。今後は啓発活動に加えて、スポーツと環境保全の関連性をより理解して頂き、実践活動を一人ひとりが行えるように促していきたい。

（公財）日本バレーボール協会

1．実施概要

本会では、バレーボールを介して環境保全や意識の啓発を推進するべく、従来から実施してきた大会会場での啓発活動やゴミの分別回収等を継続するとともに、本会独自の取り組みとして「バレーボールバンク」事業を展開してきた。

今後も、加盟団体やバレーボーラー、バレーボールファンの皆様と積極的に連携し、環境活動に取り組みたい。

2．平成 26 年度事業活動

①大会における環境啓発活動

②大会におけるゴミの分別

③事務局における取り組み

④バレーボールバンク事業

3．具体的な活動実施内容とその成果

①大会における環境啓発活動

・環境バナー、環境ポスターを会場内に掲出

・平成 26 年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会において音力発電ブースを設置し環境啓発活動を実施

・大会プログラムにおける環境啓発

②大会におけるゴミの分別

・全ての大会会場においてゴミ分別を実施

③事務局における取り組み

・メール、プロジェクターの活用によるペーパーレス化の推進

・クールビズ、ウォームビズの実施

・事務所内に環境啓発ポスターを掲示

④バレーボールバンク事業

バレーボールバンク事業は、廃棄せざるを得なくなったボールの回収・再利用を主な目的とした、日本バレーボール協会の社会貢献プロジェクトであり、2010 年に設立され、4 年が経過した。国内の学校やクラブ、個人バレーボーラーから回収したボールの総数は、2015 年 3 月末現在で 9,377 個となった。それらの回収されたボールのほとんどが、国際貢献・国際交流を目的に、海外のバレーボール協会、国際協力機構（JICA）や国内の NPO 団体を通じて、海外へ寄贈されている。

＜平成 26 年度寄贈実績＞

・モンゴル　　：1,131 個 (バレーボール協会等経由)

・カメルーン　：1,000 個（バレーボール連盟経由）

・フィリピン　：1,000 個（バレーボール協会経由）

・エジプト　　：　40 個

・パラオ　　：　45 個

・ラオス　　：　10 個

・ミクロネシア：　5 個

4．全体的な成果と今後の課題

本会の独自の取り組みである、バレーボールバンク事業を更に発展させていくため、広報活動を強化し、他の NF にもこの活動への参加を呼びかけていきたい。

また、バレーボールバンク活動の最大課題である輸送料負担およびボールの管理費を軽減するべく、助成金の活用やバレーボールバンク事業の活動主旨に賛同する企業ならびに団体を募る等、取り組みを強化したい。

5．JOC スポーツ環境専門部会員　大塚慶二郎

日本バレーボール協会では、「バレーボールバンク」事業を 2010 年から展開し、5 年目を迎える。今後もこの事業が益々拡大していくよう広報活動に重点を置き、国内各地で開催される各種バレーボール大会を利用し、チーム関係者・バレーボールファンに使用済みボール・用具等の回収協力を呼びかけながら、この活動を世界規模に発展させていきたいと考えている。

（公財）日本体操協会

1．実施概要

日本体操協会では、これまで継続して実施してきた環境保全活動を引き続き実施していく。選手を活用した啓発活動を再開する。

2．平成 26 年度事業活動

●環境啓発横断幕（バナー）の設置
●炭酸マグネシウム対策
●ゴミ分別回収

3．具体的な活動実施内容とその成果

①環境啓発横断幕の設置

これまで同様に、国内で実施されてきた競技会とイベントの会場に、環境啓発に関する横断幕を設置した。この活動は、すでに各加盟団体においても横断幕を独自に作り、それぞれの事業における横断幕設置として慣例化されている。

②炭酸マグネシウム対策

炭酸マグネシウム対策は、ビニールシートの設置、大会主催者の準備する炭酸マグネシウム以外の利用禁止、競技前後の清掃活動など、従来の方法を継続実施している。

③ゴミ分別回収

ゴミの分別回収ボックスを会場に設置し、継続的な分別意識を啓発した。

④常務理事会でのペーパーレス化

常務理事会において、会議資料のペーパーレス化を図り紙資源の節約に努めた。

4．全体的な成果と今後の課題

環境啓発横断幕設置の慣例化については、継続性が重要な本活動にとって意義あることである。また、会議におけるペーパーレス化は、導入当初に戸惑いもあったが、役員に対しての環境意識啓発につながる実践として慣れつつある。なお、現役選手による活動展開を予定していたが、実践できなかった。さらに、これまでの懸案事項であった、環境に特化した組織設置はかなわず、体制について継続して審議していく必要がある。

（公財）日本バスケットボール協会

1．実施概要

日本バスケットボール協会 <JBA> は、スローガンである【次世代を担う子どもたちが、ずっとバスケットボールを楽しめるように！】を常に念頭に置き、スポーツ活動が地球温暖化と無縁ではないことを自覚し、バスケットボールファミリーが共有できるような環境関連のメッセージ発信を使命と考え、積極的に取り組んでいる。

2．平成 26 年度事業活動

①『環境啓発ポスター』及び『環境 PR 横断幕（バナー）』の掲示
②『環境取組みメッセージ』広告の掲載
③大会会場における取組の推進とゴミ分別活動の徹底
④協会内部における環境活動強化

3．具体的な活動実施内容とその成果

①『環境啓発ポスター』及び『環境 PR 横断幕』の掲示
・各年代別、カテゴリー別の大会及び、タレント発掘合宿、日本代表強化合宿で徹 底。
②『環境取組みメッセージ』広告の掲載
・日本協会主催大会公式プログラムに、環境ページを掲載し拡く訴求。
③大会会場における取組の推進とゴミ分別活動の徹底
・子どもにも解るようなゴミ分別及び、大会スタッフの巡回によるゴミ回収を実施。
④協会内部における環境活動強化
・クールビズ（夏季期間）、ウォームビズ（冬季期間）の実施。
・会議資料の電子化及び、不要電気削減徹底を実施。

4．全体的な成果と今後の課題

平成 26 年度は、例年通り実施している環境活動の取組み (横断幕、ポスターの掲出、プログラムへの啓発広告) を重点的に実施した。平成 27 年度は JOC スポーツ環境専門部会員と協力しながら、新しい活動を検討し、選手・バスケットボールファンが常に自然に環境を意識できるような取り組みを考案し実践していきたい。

5．JOC スポーツ環境専門部会員　原田裕花

日本バスケットボール協会は、『次世代を担う子どもたちが、ずっとバスケットボールを楽しめるように！』のスローガンの下、横断幕、ポスターの掲示、プログラムへの啓発広告掲載に加えて、日本代表選手、ファン等共に環境保全活動を積極的に推進してきた。元日本代表としてバスケットボールクリニックやイベントに参加することがある。私たちの発言や行動には、大きな影響力がある。スポーツ環境専門部会の一員としてだけでなく、元日本代表のパワーを生かして、環境問題・環境保全のメッセージを伝え、『出来ることから』行動していきたいと思っている。

（公財）日本スケート連盟

1．啓発対象競技会

【フィギュア】

国内競技会	全日本ノービス選手権	26 年 10 月	ポスター	
	全日本ジュニア選手権	26 年 11 月	ポスター	バナー
	全日本選手権	26 年 12 月	ポスター	バナー
	全日本シンクロ選手権	27 年 2 月	バナー	
国際競技会	ジュニアグランプリ愛知大会	26 年 9 月	ポスター	バナー
	グランプリ NHK トロフィー	26 年 11 月	ポスター	バナー

【スピード】

国内大会	全日本選手権	26 年 12 月	ポスター	バナー
	全日本スプリント選手権	26 年 12 月	ポスター	バナー
国際大会	ワールドカップ帯広大会	26 年 11 月	ポスター	バナー

【ショート】

国内大会	全日本選手権	26 年 12 月	ポスター	バナー
国際大会	世界ジュニア選手権	27 年 2 月	ポスター	バナー

2．フィギュア審判セミナー

審判員セミナー	東セミナー	26 年 9 月	フォーラムエイト	220 名	ポスター
	西セミナー	26 年 9 月	大阪府立体育館	213 名	ポスター

スポーツと環境保全セッションにて啓発スピーチ

3．フィギュア新人発掘合宿

野辺山　26 年 7 月　ポスター

A・B コース開校式でスポーツと環境とのかかわりについて（ゴミの分別他）

レクチャー

4．実践活動

●競技会におけるゴミ分別の徹底

●ペーパーレスの推進

競技会結果等を HP 掲載閲覧に振り替え記録紙の使用量削減

フィギュア競技会における公式練習 TO 用予定要素表を削減

●シールタンブラーを推奨し紙コップ・ペットボトルの使用削減に努めた

（公財）日本アイスホッケー連盟

1．実施概要

日本アイスホッケー連盟では、全国大会開催期間中にバナー掲示及びエコ活動ブースなどを設置し大会参加選手及び関係者に積極的に推進を図った。各都道府県連盟及び施設のある地方の行政機関と連携しながら、各地方大会においても環境保全の重要性をアピールし、今後さまざまな環境活動に取り組んでいきたい。

2．平成 26 年度事業活動

●全国大会開催時において啓発ポスター及びバナー等の掲示
●公認アイスホッケー指導員講習会でのポスター掲示による指導者への啓発活動
●ゴミ分別回収、ゴミ持ち帰り運動の推進

3．具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示

全国大会時に環境啓発ポスター、バナー掲示、エコ運動ブース設置、エコ活動実施等を行い、啓発活動を実施した。

エコ活動内容は、大会開催時に地域ボランティア（主婦及び観光協会職員）によるおもてなし活動を通して、選手や観客等にゴミの分別や再生容器の活用をアピールし、エコ活動に参加してもらった。

②指導者講習会でのポスター掲示

指導者に対してスポーツにおける環境問題の提起により、選手に意識付けができるよう啓発活動を行った。

③ドレッシングルーム（控え室）でのゴミの持ち帰り等、率先してエコ活動を推進した。

4．全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示、エコ運動ブース設置等、啓発活動を行った成果が、選手をはじめ多くの観客や関係者に周知され、徹底されるようになってきた。

今後は、より環境改善効果につながる活動を積極的に推進し環境保全に対する啓発活動を行っていきたい。また、エコリンク（省エネ型）スケートリンクの積極的な導入を関係機関へ働き掛けていきたい。

（公財）日本レスリング協会

1．実施概要

平成 26 年度の取り組みは、啓発活動が中心であった。主に大会時における啓発活動がメインで、その他、指導者講習会の中の講義の一つとして、世界の環境問題、JOC や他競技団体、そして当協会の取り組みについて事例紹介を行った。また、小学生の高学年を対象とした環境についてのアンケート調査を通して継続して行った。

2．平成 26 年度事業活動

「来たときよりキレイに」を合言葉に、会場内での JOC ポスターの掲示、大会パンフレットへの掲載、館内放送による、選手、大会関係者、観客に対して環境保全を実践するように呼びかけ放送などを定期的に行った。

また、今年度から新たに環境ポスターを、縦 2,800 ×横 1,800 に拡大したバナーを 2 枚作成し、大会会場に掲示してアピールを行った。通常のポスターサイズより 3 倍大きく、インパクトもあり、並んで記念写真を撮る風景も見られた。

しかし、分別処理されていない大会も依然として存在し、ゴミとして処分されている。来場者のモラルの問題でもあり、どう改善していくか、これが重要課題である。

3．具体的な活動実施内容とその成果

●指導者講習会の中に「レスリング競技のマナーとモラル」の講義を実施

環境問題の他、受講者が身をもって理解できるよう、国体会場の選手控室、練習会場などを写真に収め、利用状況をスライドで見せた。綺麗に利用している県もあれば、ペットボトルや弁当の空箱が散乱している県もあり、その状況を指導者として、どうあらねばならないのかを考えてもらった。また、当該県の受講者に、その感想や今後どうしていくか、コメントをもらった。その他、筆記試験の中に、環境問題についての設問、指導者として選手に対してどのように教育していくかを記載する項目を設けた。

本講習を 3 年間継続して行ってきた結果、やはり言葉だけではなく、写真を見せての説明は、非常に説得力があり、国体時における施設の利用状況の改善が見られてきており、好結果となった。

●子どもたちへのアンケート実施

環境問題について「全国少年少女選抜選手権大会」に出場する 4 年～ 6 年生の選手を対象に 10 年近く行っている。

大会参加申込書の中に「地球温暖化、という言葉の意味を知ってますか？」「物を大切にする 3R 運動を知ってますか？」「ごみを捨てるとき、分別して捨てるよう心がけていますか？」など、設問をいれ、環境問題について保護者と選手が一緒に考え、話し合って記載するよう指導している。

その結果は、無回答者も含めると 10％程度が理解していない状況であった。スポーツ環境委員会として、理解度を高めるべく、子どもたちの成長を観ながら、これからも大会を通じて指導、教育していかなければならないと思う。

4．全体的な成果と今後の課題

平成 26 年度 2 月の「第 11 回 JOC スポーツと環境担当者会議」に、当協会の傘下団体である社会人連盟、高体連、少年少女連盟、格闘競技連盟などの 5 名の委員に出席してもらった。その結果は、JOC がどんな活動をしているのか、改めて再認識し、それぞれの団体で来年度どのように活動していくか、動機づけする良い機会となった。

5．JOC スポーツ環境専門部会員　鎌賀秀夫

温暖化の影響は海面上昇、風や水害の発生、干ばつなど、直接的、間接的に我々に猛威を振るう。温暖化対策は今後、ほぼ永続的に取り組むべきことで、自分たち一人ひとりが考えて行動していかなければならない。

緑の大地、青い空、澄んだ空気と清らかな水、今ある大切な自然を未来の子どもたちに渡せるよう、自分ができることから活動するよう、スポーツ環境委員会では継続して取り組んでいこうと思う。

（公財）日本セーリング連盟

1．実施概要

海、湖で行うセーリング競技は直接環境からの影響が跳ね返ってくるスポーツであり、常に、また積極的に環境保全への取り組みを推進していく義務があると考えている。平成 26 年度も「残したいのはきれいな海」をスローガンに全国で環境保全活動を推進してきた。

2．平成 26 年度事業活動

①35の全日本選手権において環境キャンペーンを実施、支援
②2014環境コンテストを実施
③Used Sailの活用
④アイドリングストップステッカーの配布による環境保全啓発活動

3．具体的な活動実施内容とその成果

①35の全日本選手権において環境キャンペーンを実施、支援
- 環境フラッグ、横断幕（バナー）等の掲示により選手はもとより、大会運営関係者、観客も含め環境保全への意識の向上を促進
- レースの帆走指示書にレース中に海にゴミを捨てた場合のペナルティ、失格条項等を記載、厳しく対処
- 競技参加者、運営関係者、観覧者等延べ約4700名に広くキャンペーンを浸透

②2014環境コンテストを実施
- 2013年より「残したいのはきれいな海」をスローガンに環境コンテストを開催。
- 自分たちがいま環境保全、啓発活動のために何をすべきかを独自に考えてもらい、良い案には補助金を支給し、その実現を後押しした
- 幼児向け「きれいな海」のイメージを描くアートクラフト教室の実現、小樽港での海に親しみ環

境啓蒙を行うための1か月間の体験型イベント、大学生によるビーチクリーン活動を実施

③Used Sailの活用

・廃棄予定のヨットの帆からトリプルエコバッグを作るワークショップを国体で企画（台風直撃により中止）

・環境啓発活動の一環として物を大切する意識の向上も図る

④アイドリングストップステッカーの配布による環境保全啓蒙活動

・大きな大会、イベント、講話等の機会を利用しステッカーを配布、CO2削減のためアイドリングストップを呼びかけた

4．全体的な成果と今後の課題

環境キャンペーンも徐々に選手、及び運営関係者には浸透してきたが、より簡便で分かりやすいものにしていきたい。また環境コンテストの募集を通じて、自らが環境のために何ができるか、何をするべきか考えてもらう1つのきっかけとなるよう全国展開をし、働きかけていきたいと思う。

（公社）日本ウエイトリフティング協会

1．実施概要

日本ウエイトリフティング協会は、スポーツ活動における環境問題を改善するために、事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全啓発ポスター、バナーの掲示により大会関係者及び観客に向けて環境保全へ向けての意義啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

2．平成 26 年度事業活動

●競技会での環境啓発活動

●競技会等における環境活動

3．具体的な活動実施内容とその成果

①競技会等における環境啓発ポスター、バナーの掲示

前年度より継続して、各競技会や催事等において環境意義啓発のポスター、バナーを会場内に設置した。

②競技会等におけるペーパーレス化

全日本選手権大会や全日本ジュニア選手権大会においては大会要項を協会ホームページにアップし、ウェブからのダウンロードによる配信を行った。

大会リザルト等については、公式記録員から各都道府県事務局への配信を行い、ペーパーレス化に向けての実践を図っている。

③競技会等における環境活動

当協会においては、より環境負荷の少ない競技会運営を目指し、審判・監督に協力を呼びかけながら、継続的に活動を行っている。

大会の運営にあたっては、できるだけ廃棄物を出さないことはもちろん、飲み物の容器・食器につ

いても再利用や原材料としての再生利用を考慮している。金沢市で毎年開催される全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会においては、選手・役員の弁当に紙と経木でできた容器の使用を継続している。大阪府羽曳野コロセアムで開催する学生連盟主催の全日本学生新人大会・全日本大学対抗選手権大会（2 部）では、競技役員の昼食に会場内食堂の通常の食器を使用して、廃棄物をできるだけ出さないようにしている。

国民体育大会・全国高校総体・社会人選手権大会・レディースカップ全日本女子選抜大会などでは、開催自治体の協力によるゴミの分別収集も定着した。

全日本学生連盟では、清掃班を編成して競技会場トイレを巡回し、清掃活動を行うだけでなく、ゴミの減量化・分別・持ち帰りを呼びかけるなど、環境への配慮を促している。

また、競技会自体の運営については、炭酸マグネシウム対策として、粉の粉塵化を最小限に抑えるため上部へ 2 カ所の取り出し口のあるものを活用するとともに、滑りにくいプラットフォームを使用することによって靴底の滑り止めの松ヤニを使用することなく競技会を実施し、競技会場の床や競技者の靴底の汚れを防止している。

4．全体的な成果と今後の課題

環境保全啓発ポスター、バナー掲示などの活動を通して、環境保全の重要性をアピールした。今後も、会場地元等と協力のもと、環境保全の活動を実践するとともに、主催者・参加者の意識向上に向け、今後もさまざまな取り組みを展開していきたい。

（公財）日本ハンドボール協会

1．実施概要

全世界的な環境問題を改善していくためには、我々一人ひとりの自覚が不可欠である。そこで、スポーツ団体に取り組み可能な環境活動として、多くの方々が集まる大会等での啓発が効果的であると考え、会場へのバナー・ポスター掲示、プログラムへのポスター掲載等を行った。今後も、各都道府県協会、各連盟とも積極的に連携し、個人レベルから環境問題への意識が更に高まるように取り組みたい。

2．平成 26 年度事業活動

●全国大会開催時の会場に環境バナー、ポスターを掲示
●大会プログラムへの環境ポスター掲載
●「Fun to Share」宣言・推進

3．具体的な活動実施内容とその成果

①大会における環境啓発活動
・環境バナー、環境ポスターを会場内に掲出し広報した
・環境ポスターを大会プログラムに印刷するようにした
② Fun to Share の宣言・推進

・「ハンドボールで、低酸素社会へ」と宣言
・事務局で製作する名刺には Fun to Share のロゴを印刷した
③事務局におけるクリーン購入・エネルギー節約
・事務用品の利用にあたり、エコ商品の購入に努めた
・資料配付にあたりメール添付を多用し、ペーパーレス化に努めた
・夏季はクールビズとした

4．全体的な成果と今後の課題

環境バナー、ポスターの大会や集会会場への掲出により環境問題への啓発活動を行って来たが、必ずしも十分に意識浸透したとは言えない。これからは、より具体的な例を挙げて啓発活動を行うことが必要と考え、他の NF の取組を参考に、その方法を検討していきたい。

（公財）日本自転車競技連盟

1．実施概要

自転車競技、とくにロードレースは元来自然の中を走るスポーツである。また、有害物質を排出しない、健康的で環境にやさしい乗り物として自転車は広く国民に利用されている。

環境にやさしいスポーツ・自転車競技として今後さらなる発展を目指し、積極的な環境保全活動を行う。

2．平成 26 年度事業活動

①ゼッケン用安全ピン配布の中止
②環境啓発ポスター、バナーの掲示
③紙消費量の削減
④ロードレース中におけるゴミ廃棄の禁止徹底

3．具体的な活動実施内容とその成果

●ゼッケン用安全ピンの選手持参を徹底
主要大会において、ゼッケンを止める安全ピンを選手持参とし、新たな配布を行わない。
●環境啓発ポスター、バナーの掲示
前年度に引き続き、大会会場に環境啓発ポスター、バナー掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。
●紙消費量の削減
大会におけるコミュニケの配布を原則として掲示に変更。事務連絡における郵送の削減およびメールの活用。コピーの際は集約コピーとし、紙消費量を削減。
●ロードレース中におけるゴミ廃棄の禁止徹底
レース中に摂取した補給飲食料の包装紙等をむやみに廃棄することが無いように、廃棄区間を設定、各チームによる回収の徹底。

4．全体的な成果と今後の課題

前年度に引き続き、大会等イベント開催時における環境活動を重点的に行った。

進歩があったのは 2 点、安全ピンの選手持参が以前より徹底された点、紙消費量の削減が更に進んだ点である。

安全ピンの持参については、選手側により定着し、ハイレベルな大会ほどその認識は浸透していることが感じられた。

また、紙消費量の削減については、大会要項や申込書がメール・HP からの発信へ完全移行が達成された。現状、申込者は印刷や郵送が必要となっているが、その点もデータのみによる手続きの簡素化を目指す。

本連盟の環境活動はまだまだ基礎的な取り組みが中心となっているのが現状である。活発な環境活動を目指し新たな取り組みや内容の充実を図っていきたい。

（公財）日本ソフトテニス連盟

1．実施概要

日本ソフトテニス連盟環境部会は、平成 23 年度に環境・教育プロジェクトに変更し、公益財団法人移行とともに平成 24 年度からは環境・教育プロジェクトとし、特別委員会とした。

特別委員会設置の目的は、「ソフトテニス長期基本計画 2012」の主要な取り組み事項として、公益財団法人としての高い社会的信用を維持し、公益目的の事業を行うために、ソフトテニスを通じて環境と教育に取り組む。ソフトテニスを通じて環境保全を図っていくとともに、自己責任及びフェアプレーの精神を身につけ、マナーを重んじる教育を推進し、青少年の健全育成を図ることとした。

環境対策について、傘下 47 都道府県支部と日本学生連盟に、本連盟独自で作成した環境とマナーの横断幕（バナー）「来たときよりも美しく！ありがとう　あなたの笑顔と　そのマナー」と既に配布済みの「この星にスポーツを」の横断幕を各区支部の施設に常設し、大会や会議での啓発活動としても掲出するとともにゴミの分別等エコ意識の高揚を継続している。

26 年度には、後記の全国大会会場で上記横断幕の掲出の他、環境ポスター掲示、機関誌、大会プログラムに広告（「きたときよりもキレイに！」～スポーツの心、環境と未来へ～）を傘下支部へ呼びかけて刷り込み、分別ゴミ箱の設置、ゴミの持ち帰り、マイボトルによる紙コップ削減のリデュース活動等々を継続実施し、スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進するための物を大切にする生活習慣の徹底を推進した。

さらに、日本連盟主催大会、各支部大会での役員、選手、保護者、応援者のマナーの実態調査を行った。

また、「教育」の視点に立って青少年の健全育成の推進、スポーツマンとしての倫理教育を推進するために、日体協の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンとの連動、及び暴力行為根絶に取り組むため、全国指導者研修会議（小中高の指導者を各県から召集し 26 年 1 月実施）の主要テーマとして、各層で意見交換を行い今後の対応策を検討した。

27 年度は、環境・教育プロジェクトを中心に、引き続き前記の活動を各支部と連携を図り、26 年度に作成した日本ソフトテニス連盟独自の環境とマナーの横断幕を活用し、同じく 26 年度に実施した役員、選手、保護者、応援者のマナーの実態調査を踏まえ、推進していく予定である。

主な大会名	開催日	会　場	主管団体
全日本シングルス選手権大会	5/17 ～ 18	愛知県一宮市	愛知県ソフトテニス連盟
全日本実業団選手権大会	7/25 ～ 27	和歌山県白浜町	和歌山県ソフトテニス連盟
全日本小学生選手権大会	7/31 ～ 8/3	大分県大分市	大分県ソフトテニス連盟
全日本高等学校選手権大会	7/27 ～ 8/2	千葉県白子町	千葉県ソフテテニス連盟
全国中学校大会	8/19 ～ 21	香川県高松市	香川県ソフトテニス連盟
全日本社会人選手権大会	9/6 ～ 7	京都府福知山市	京都府ソフトテニス連盟
JOC 杯全日本ジュニア選手権大会	9/13 ～ 14	広島県広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本シニア選手権大会	9/12 ～ 14	徳島県徳島市	徳島県ソフトテニス連盟
全日本選手権大会	10/24 ～ 26	秋田県大館市	秋田県ソフトテニス連盟
東日本選手権大会	7/19 ～ 20	青森県青森市他	青森県ソフトテニス連盟
西日本選手権大会	7/19 ～ 20	香川県高松市	香川県ソフトテニス連盟
国民体育大会	10/13 ～ 16	長崎県佐世保市	長崎県ソフトテニス連盟
日本実業団リーグ	10/31 ～ 11/2	京都府福知山市	京都府ソフトテニス連盟
全日本クラブ選手権大会	11/1 ～ 2	千葉県白子町	千葉県ソフトテニス連盟
ジュニアジャパンカップ	11/14 ～ 17	宮崎県宮崎市	宮崎県ソフトテニス連盟
日本リーグ	12/11 ～ 14	広島県広島市	広島県ソフトテニス連盟
全日本インドア選手権大会	27・2/1	大阪府大阪市	大阪府ソフトテニス連盟

（公財）日本卓球協会

1．実施概要

日本卓球協会として、環境保全及び改善活動と温暖化防止等環境活動を通じ地球の環境を現状以下にしないよう、かつ改善に向け、その重要性を卓球界に向け発信。卓球事業を通じ、本会に所属する全会員へ環境保全の意識高揚を図り、実践活動に取り組む事とする。

2．平成 26 年度事業活動

●大会時環境啓発ポスター・パネル掲示
●大会時環境活動
●環境保全に関するアナウンス

3．具体的な活動実施内容とその成果

天皇杯・皇后杯全日本卓球選手権（一般・ジュニアの部）
→ 平成 27 年 1 月（東京体育館）→「Fun to Share」パネル展示
「ウオームビズ関連」パネル 6 枚展示
高校 → 平成 26 年 8 月インターハイ（山梨県小瀬スポーツ公園体育館）
会場内ポスター掲示（来た時よりもきれいに！）
平成 27 年 3 月全国高校選抜大会（香川高松市総合体育館）
会場内ポスター掲示（来た時よりきれいに！）
大学 → 平成 26 年 7 月全日本大学総合選手権団体の部（墨田区体育館）
会場内数か所にポスター掲示（スポーツでつなぐあした）

レディース → 平成 26 年 7 月全国レディース卓球大会（ひたちなか市）
横断幕掲示・ゴミ箱（分別用）を 10 か所設置

4．全体的な成果と今後の課題

上記各カテゴリーの全国大会開催会場の選手及び観客の行き来する場所に環境啓発ポスター等を掲示すると共に会場内ゴミ問題を含め環境保全についてアナウンスし、会場内選手・観客に環境保全の啓発活動を実施し理解を得た。

今後はよりインパクトある実践活動に取り組み環境保全・改善をアピールする。

5．JOC スポーツ環境専門部会員　植松克之

地球温暖化が加速、地球の生態系の変化が顕著になった昨今、今後の地球の環境保全について、世界各地で環境問題・環境保全にかかわる国際環境会議が開催されている。

日本卓球協会も「温暖化防止」をスローガンとして、日本卓球協会傘下の全国都道府県支部協会をはじめとして、実業団、日学連、高体連、クラブチーム等の会員への積極的な啓発活動を行っている。

“ 来たときよりもキレイに　資源を有効に活用しよう ”

具体的な取り組みとしては、公益財団法人日本卓球協会環境委員会の活動実践例の通り天皇杯・皇后杯平成 26 年度全日本卓球選手権大会(一般・　ジュニアの部)はパネル展示。平成 26 年度インターハイ（高校)、平成 26 年度インカレ（大学総合選手権団体の部）はポスター掲示。平成 26 年度全国レディース大会は横断幕掲示とゴミ箱の設置を実施し、競技者および観客に環境保全の在り方等の理解と協力を求めた。

2020 年にはオリンピック・パラリンピック競技大会が日本（東京）で開催される。この大会は環境保全・持続可能性に対して模範的な対策が取られることになる。

今後の取り組みについては、環境省地球環境局の指導を仰ぎながら、JOC スポーツ環境専門部会の指導方針を取り入れ、全国都道府県市町村の行政の指導・協力の下［温暖化防止］をスローガンとして、地球の、人類の、永遠のテーマである環境問題・環境保全について、役員・会員の皆様と共に考え、取り組んで行かなければならない。

（公財）全日本軟式野球連盟

1．実施概要

全日本軟式野球連盟はスポーツ振興に寄与する目的から、平成 17 年度に環境担当委員会を設置し事務所内及び競技会での環境への取り組みを実施し、環境保全啓発ポスター、チラシを作成、競技会場で掲出・配布し当連盟関係者・大会参加者及び観戦者に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

平成 19 年にはじめた各支部より使用済軟式野球用具を集め、野球用具の入手困難な国や地域へ寄贈する活動も 7 年目を迎えた。

平成 24 年度から、一部の事務連絡等の文書配布において、ペーパーレス化を図り、加盟団体支部（47 支部）に電子メールで配信を実施している。

2．平成 26 年度事業活動

●競技会等での環境啓発活動と環境活動（中古用具の海外寄贈）

3．具体的な活動実施内容とその成果

【競技会等での環境啓発活動】

連盟主催大会及び講習会にて JOC 環境啓発ポスター、JOC 環境啓発バナーの掲出、全軟連環境啓発ポスターの掲出、全軟連環境チラシの配布を行った。

また、競技会場においては、ゴミの分別・ゴミ持ち帰りの呼び掛けなど、選手や観戦者に対して環境啓発活動を行った。

【環境活動】

日本ではゴミとなる使用済み野球用具が海外の国や地域によっては、まだ使用でき、野球の普及にもつながるという観点から、国際協力機構（JICA）の「世界の笑顔のために」プログラムに参加する形でグラブ、バット、ボール、キャッチャー用具、ヘルメット、ユニフォームなどを寄贈している。本年度の寄贈国は、スリランカ、フィリピン、モルディブ、フィジー、アルゼンチン、ブラジル、ペルー他、合計 14 ヵ国である。

その他、他団体や個人で海外の野球を支援している方々を通じ、使用済み野球用具の寄贈を行った。

4．全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスター、バナーの掲出、環境パンフレットの配布やゴミ分別・持ち帰りの呼び掛けにより、全国大会においては参加者の環境への意識向上につながってきた。今後は、各都道府県大会においても積極的な環境啓発活動を実施されるよう、加盟団体支部へも呼び掛けていきたい。

屋外スポーツである軟式野球は、地球温暖化等による異常気象や大気汚染の進行が競技に与える影響を理解した上で、改めて環境保全に対する取り組みを積極的に行っていきたい。

（公財）日本相撲連盟

1．実施概要

相撲大会会場は、国技館や各県の県立武道館特設土俵など屋内の場合と靖国神社相撲場や堺市大浜公園相撲場など屋外の場合に分かれている。

本連盟として、環境活動の重要性を認識し、それぞれの大会では、一般のゴミの分別の徹底と持ち込んだゴミは、持ち帰るという活動を今後も継続的に実施していく。

2．会場別対策

●屋内の大会でゴミが放置されている例はほとんど見当たらない。

●屋外においても持ち帰りを指導しているため、ゴミについての問題はない。

3．相撲競技に特異な注意点

●屋内相撲場では、特に砂の扱いに注意が必要である。

小中学生の大会では、少年選手たちが砂を付けたまま観覧席に入ることがある。

砂は足などのほか、まわしにも付いているため、国技館の枡席などにはまわしを付けたまま入ることを禁止している。砂を取るための清掃費は、数十万円かかる場合がある。

監督会議で注意をするほか、大会当日の放送や見回りを繰り返しており、現在ではほとんど問題がなくなってきている。

4．平成 26 年度の具体的な取り組みと今後の取り組み

国体競技（長崎県平戸市）や全日本選手権（東京都・国技館）の会場において、『来たときよりもキレイに！』のポスターを掲示し、選手、監督、役員などの関係者全員に、ゴミの分別と持ち帰りの徹底を促した。

これからは今までの取り組みを継続するとともに、スポーツと環境が大きなかかわりを持つことを多くの方に理解してもらえるように、大会会場等にポスターや横断幕等を掲示して環境保全に努めていきたい。

（公社）日本馬術連盟

1．実施概要

子どもたちと一緒に取り組む「環境とスポーツのあり方」をスローガンに、継続的活動を積極的に行った。

2．平成 26 年度事業活動

●馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示

●ジュニア競技大会時に子どもたちに対し環境活動の啓発

●連盟機関誌「馬術情報」に、定期的に「スポーツの心、環境と未来へ」の JOC スポーツ環境専門部会ポスターを掲載。同様に全日本大会プログラムへも掲載し、環境への啓発活動を実施

3．具体的な活動実績内容とその成果

〈馬術競技大会時に環境啓発ポスター、バナーの掲示〉

日本馬術連盟主催大会において、環境啓発ポスター及びバナーの掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動に努めた。また、ゴミの分別収集を徹底した。

〈ジュニア競技大会においても子どもたちに対し、環境活動の啓発〉

ジュニア選手に対し、競技大会前に環境パンフレットの配布を行い、大会役員から環境活動について説明を行った

大会名（開催場所）	参加選手数
第 31 回全日本ジュニア馬場馬術大会（御殿場市馬術・スポーツセンター）	92 名
第 35 回全日本ジュニア総合馬術大会（日本中央競馬会馬事公苑）	11 名
第 38 回全日本ジュニア障害馬術大会（御殿場市馬術・スポーツセンター）	193 名

4．全体的な成果と今後の課題

平成 26 年度は、引き続きジュニア選手たちを中心に啓発活動を行った。この活動を積極的に続けることにより、啓発から実践につながるものと考える。今後も馬術競技大会を通じて、多くの方に環境に対する啓発活動を続けていきたい。

（公社）日本フェンシング協会

1．実施概要

競技者、指導者等に対して環境保全の啓発運動を図り、環境活動に関する理解を深めた。今後は全国で積極的かつ継続的な活動を目標に取組む。

2．平成 26 年度事業活動

●大会時環境啓発ポスター、バナーを掲示

●競技会における環境活動（安全、整理整頓、ゴミ収集等）

3．具体的な活動実施内容とその成果

①高円宮牌フェンシングワールドカップ 2014（平成 26 年 5 月 3 日～ 5 月 4 日）にて環境ポスター、バナーを掲示して啓発を図るとともに、選手・観客とも特にゴミや使用後のペットボトルの資源回収を呼びかけ、ゴミ収集への協力を喚起した。

② JOC ジュニアオリンピックカップ・フェンシング選手権大会（平成 27 年 1 月 8 日～ 11 日）において環境ポスターを掲示して啓発に努めた。年齢が若い選手が対象であり、会場内で『周辺を清掃する。』ようアナウンスして注意喚起を図った。

③その他の大会（第 67 回全日本選手権大会 / 平成 26 年 12 月 18 日～ 21 日）、（第 69 回国民体育大会 / 平成 26 年 10 月 13 日～ 16 日）および日本フェンシング協会主催大会において、環境ポスター掲示を奨励した。

④破損した装備品・用具の回収を一元化して再資源化を図っている。用具取扱業者の協力により、鋼鉄製の競技用剣の破損処分を集中して実施を推進した。

4．全体的な成果と今後の課題

ポスター・バナー等の掲示については、少数の大会にて実施しているが、地方大会の主催団体・主管団体と協力して啓発活動を拡げていく努力が必要である。また、参加選手・コーチについて、団体（学校・クラブ）によってゴミの取扱い、用具の整理整頓、後片付け等にばらつきがあることから、各所属との連繋について方策を検討していく。

（公財）全日本柔道連盟

1．実施概要

全日本柔道連盟では、前年度に引き続き、事務局が中心となって、環境保全にかかわる啓発・実践活動に取り組んだ。

2．平成 26 年度事業活動

●大会時の環境啓発ポスター、バナー掲示
●大会プログラムへの掲載
●大会・イベント時の会場内においてのゴミ分別の徹底

3．具体的な活動実施内容とその成果

当連盟主催の大会・イベントにおいて、横断幕・ポスターを会場内に掲示し、選手や当連盟役員とも協力して、スポーツと環境保全活動の啓発に努めた。練習会場や観覧席においては、担当の係員を配置し、選手や観客による自発的なゴミ分別を徹底した。

4．全体的な成果と今後の課題

全国レベルの大会だけでなく、都道府県柔道連盟・協会においても、多くの都道府県において、大会時の観客や保護者に対するゴミ持ち帰りの呼び掛け、ゴミ分別の徹底、参加者全員による大会終了後の会場内清掃等、会場美化運動、あるいは社会奉仕として地元地域の清掃活動を実施している。

また、本連盟においては、2014 年 4 月に「柔道 MIND プロジェクト」を発足させ、柔道の本質である礼節／品格のある柔道人を育成することを目的として活動している。嘉納治五郎師範の遺訓である「精力善用」「自他共栄」という柔道の根本原理を、「人と自然との共存」というテーマにおいて応用実践することで、今後も環境保全に努めていきたいと考えている。

5．JOC スポーツ環境専門部会員　山口 香

全日本柔道連盟では今年度から新たに「柔道 MIND プロジェクト」を発足させた。これは講道館柔道の創始者である嘉納治五郎先生の精神、柔道の心に立ち返ろうというもの。MIND は同時に 4 つの単語の頭の文字をつなげたものであり、M は Manners（マナー）を表している。大会会場をきれいに使用すること、ゴミの分別、また、未来の地球を考えて環境に留意することも、マナーの一つであると考えている。

各大会のパンフレットや挨拶でこのプロジェクトの目指すところが紹介され、広い意味での環境への取り組みへとつながっていくことが期待される。私自身としては、専門部会や担当者会議などで、他の連盟の取り組みを聞くことで多くの学びと刺激を得ることができた。今後は少しでも自らの取り組みに生かしていきたいと思う。

（公財）日本ソフトボール協会

1．実施概要

屋外競技であるソフトボールが、地球温暖化等による天候不順や、大気汚染によって実施できなくなる事を危惧し、JOC 環境委員会のスローガンである「この星にスポーツを」、また日本ソフトボール協会の環境スローガンである「ホームラン　入ったスタンド　ゴミはなし！」を、大会毎にバナー掲示するなど、継続的活動を積極的に展開した。さらに、昨年度より各大会のプログラムに、環境に関する標語もしくはメッセージを入れ、より積極的な活動を進めた。また、本協会主催のソフトボール講習会、ソフトボールフォーラムにおいて、環境啓発を行った。

2．平成 26 年度事業活動

●大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
●各大会のプログラムに環境標語もしくはメッセージを入れる
●講習会等でのオリンピアンを中心とする講師による環境啓発

3．具体的な活動実施内容とその成果

本協会主催大会にて、環境啓発ポスター、バナー掲示を行い、啓発活動を行った。また、本協会が主催する各大会のプログラムに環境標語もしくはメッセージを入れ、啓発活動を行った。さらに、本協会が全国 9 地区で行うソフトボールフォーラムにおいて、講師を務める指導者（主にオリンピアン）に、講習の際、環境問題の啓発のためのソフトボール版「5 分間スピーチ原稿」（別添）を作成配布し、環境啓発を講演の内容に織り込んだ。

ソフトボールと環境についての５分レクチャー原稿
（5 分のレクチャーの機会がある場合は次の話をお願いします）

1　ソフトボールと環境についての理解
（1）　ソフトボールを愛する私たちも皆、地球人
①　スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係がないと思われるかもしれませんがそれは幻想です。
②　ソフトボールをするためには、「きれいな空気」、「試合や練習の後に飲むおいしい水」、「プレーをする汚染されていないグランド」が必要です。また、人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に、環境保全を実行する義務があります。
③　ソフトボール協会では、みんなで環境保全するため、全国から環境標語を募集し、最優秀作に当時山梨県の中学生の佐野満希さんの
「ホームラン　入ったスタンド　ゴミはなし！」
が選ばれ、その標語の横断幕を作り全国の大会でフェンスに掲示しています。
④　ソフトボールがオリンピック種目に入るためには、環境対策が重要な要素の一つ。
IOC（国際オリンピック委員会）は、オリンピック運動は「スポーツ」「文化」「環境」を三本の柱とすることを定めていて、種目採用の基準にその種目がどのくらい環境対策に配慮しているかが、選定の大きな要素になっています。
（2）　私たちの宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります。
（3）　Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、身の回りのできることを実行する）
①　環境保全を推進するにあたり大切なことは、まず、地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、また、その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
②　そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単なことです。
2　協力依頼
（1）　まず、環境でどのような問題があるかを理解しましょう。
地球規模で温暖化が進み、それが原因で気候が大きく変動し、農業・漁業・多くの産業が大きな打撃を受けています。
（2）　高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています。
（3）　私たちがソフトボールをやるうえで実行できること
①　ソフトボール会場へは、できる限り公共の交通機関か自転車、徒歩で行く。
②　全てのゴミ(食べ残し、ボトル、ビニール袋等)は、設置されているゴミ箱に分別して捨てるか、家に持ち帰る。リサイクルするもの・廃棄するものに分別する。
③　クラブ、またはチームとして、環境デー、地域の清掃、植樹などの環境活動に参加する。参加が難しければ、そのような活動を率先して推進する。
あるインターハイの会場で、試合後、参加したチームがきれいに会場清掃しただけでなく、皆さんが使用したトイレまできれいに清掃して行ってくれた例もあります。
④　使い古した用具は放置せず、適切な処理をする。(分別して市の施設で処理など)
（4）私たちが社会生活の中でできること
①　エネルギー資源を節減するために３R（Reduce,Reuse,Recycle）の実行
a　削減（Reduce）：まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。（例：電機や紙の削減）
b　再使用（Reuse）：同じものをできるだけ多い回数使うように工夫することです。（例：サイズの問題で着ることの出来なくなったウェアーを使える人に回す）
c　リサイクル（Recycle）：使えなくなったものを上手に分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。（例：ペットボトル→繊維）
②　温暖化の源である二酸化炭素を減らすため炭酸同化作用（二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用）をする樹木を増やす手伝いをしましょう。

＊　環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行しましょう。

ソフトボールをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進することが大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進して社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

＊ソフトボールの講習会などでは、網掛け部分を重点に、お話をしてください。
２～３分で対応できると思います。

4．全体的な成果と今後の課題

ポスター、バナーの掲示や、ソフトボールフォーラムにおける講演などの啓発活動を行ってきた成果が実り、選手をはじめ多くの関係者及び観客に環境啓発の知識や、理解を得ることができた。

来年度以降も引き続きより多くの方々の環境に対する理解を求めて、より積極的に環境保全に努めていきたい。

（公財）日本バドミントン協会

1．実施概要

一スポーツ団体として環境活動の重要性を認識して、環境委員会を中心に新しいことはできないものの地道に「出来ることから始める」をスローガンに登録会員全員に向けて、環境保全の意識を高めることを中心に地道ながら継続的な活動を実施した。そこから本会だけの活動に止まらず、より多くの人々に発信していけるような活動を目標に取り組む。

2．平成 26 年度事業活動

①大会時環境啓発ポスターの掲示
②大会の要項に環境啓発項目の記載他、大会時の環境活動
③環境保全として、大会時、合宿時にゴミの分別活動実施

3．具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスターの掲示

本会評議員会、日本リーグ全国 16 カ所他、主催 20 大会において、環境啓発ポスター、パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。

②大会の要項に環境啓発項目の記載他、大会時の環境活動

本会主催 20 大会及び日本リーグの要項に以下の三つの事項を必ず記載し、環境活動の重要性を認識させている。

●ゴミの分別収集に協力してください
●部屋から出るときにはエアコン、テレビ、ライトのスイッチを消してください
●マイ歯ブラシを持参して大会に参加してください

また、大会開催にあたり、本会の案内、大会要項の申し込み方法、連絡方法などについては電子メールを活用して、紙の削減を行い、より環境保全の意識を高めることを徹底した。

③環境保全として、大会時、合宿時にゴミの分別活動実施

大会時における役員、参加選手へのゴミの分別を徹底させている。

本会強化合宿のナショナルチームからジュニアナショナルチームまでの選手に対しては味の素ナショナルトレーニングセンターの練習における年間のドリンク類の使用量の多さに注目し、キャップと本体の分別、ゴミの分別を徹底し、環境活動の重要性を認識させている。

4．全体的な成果と今後の課題

本会では環境委員会を正式に平成 18 年 4 月 1 日より立ち上げ、主に大会時においてのポスター掲示、パンフレット配布など地味な活動を中心に行ってきた。選手をはじめ、加盟団体の関係者、登録会員には環境啓発の知識、理解を得られたと認識している。今後は継続的に現在の活動を続けるとともにより環境にやさしい、具体的な実践活動を目指して、スポーツと環境のかかわりを多くの方に理解していただくように活動していきたい。

（公財）全日本弓道連盟

1．実施概要

スポーツ団体として環境活動参加の重要性を認識し、行事参加者各位へ啓発活動を行った。

2．平成 25 年度事業活動

①主催行事における環境啓発活動

②主催行事における環境活動

3．具体的な活動実施内容とその成果

①主催行事における環境啓発

本連盟主催大会にて環境啓発ポスターを掲示し啓発活動を行った。

本連盟主催講習会において主催者挨拶の中で環境に関する内容を話した。

②主催行事における環境活動

ゴミの分別を徹底し、資源の再利用に努めた。

照明、空調の調整をこまめに行い、CO_2 削減について取り組んだ。

大会速報を掲示のみにとどめ、紙の使用を削減した。

4．全体的な成果と今後の課題

ポスターの掲示など啓発活動により、参加者に環境保全を促すことができた。26 年度は国内最高位の大会と国際的な講習会での啓発活動により日本のみならず、世界各国の指導者層に環境問題への意識を高めてもらうことが出来た。地元での活動にも期待できる。

これからも個々の意識を高め、実践活動につなげていくことが必要だと考えている。

（公社）日本ライフル射撃協会

1．実施概要

日本ライフル射撃協会は、環境保全に関する活動の重要性を認識し、総務委員会を中心に環境保全を目的とする取組みと会員の環境意識の向上を図る活動を行っている。

2．平成 26 年度事業活動

①競技会、会議等での環境ポスター掲示

②射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施

③競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と適切な処理作業

④環境保全に関する内容を講習会等で実施

3．具体的な活動実施内容とその成果

①競技会、会議等での環境ポスター掲示

全国加盟団体や関係団体に環境ポスターを配布するとともに全国競技会で環境ポスターを掲示し、会員への啓発に努めた。

②射撃場施設でのゴミの分別収集の徹底とゴミ持ち帰り運動の実施

射撃場施設でのゴミ分別収集を徹底するとともにゴミを持ち帰ることによる施設から発生するゴミの減量化に努めた。

施設駐車場でのアイドリング禁止や施設内照明電力等の省エネを呼び掛け、施設利用者全員の協力で活動を展開した。

③競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と適切な処理作業

競技に使用する鉛弾の回収について、各射撃場において適切な処理を行った。

4．全体的な成果と今後の課題

競技会での環境に関する啓発を多くの機会をとらえて行うことにより、会員の意識の向上に成果が見られた。今後、競技会場や都道府県事務局等への環境ポスターの掲示をはじめ、機関誌や協会ウェブサイト上への環境に関する記事掲載、講習会及び研修会での環境教育のカリキュラムの導入等を引き続き実施する。

ゴミの分別収集の徹底とゴミの減量化はかなり進んでいると思われる。特に、使用銃弾（鉛弾）の回収と適正な処理は全国で適切に処理されている。

施設利用時の場内清掃の励行（クリーン運動）やゴミのポイ捨て禁止の徹底、ゴミの持ち帰り、場内駐車場での静かな運転とアイドリングの禁止、射撃場施設への緑化と花の栽培の推進及び施設管理上の省エネの実践、グリーン購入について、会員の理解と協力を得るなかで拡大する。

今後も地道な活動ではあるが、具体的な行動指針を示しつつ、身の周りのできることから実施する。

（一財）全日本剣道連盟

1．実施概要

全国の剣道愛好家から中古剣道具をいただき、剣道具の入手が困難な海外の剣道連盟や団体への寄贈を継続的に実施することを通して、身近なところから「地球規模の環境保全意識」を啓発・実践することに力を注いだ。

2．平成 26 年度事業活動

①中古剣道具の海外への寄贈を継続

②環境保全啓発ポスターの活用

③大会等でのゴミの分別回収等の実践

3．具体的な活動実施内容とその成果

①中古剣道具の海外への寄贈を継続

平成 26 年度も全国から寄せられた中古剣道具を補修し、フィンランドをはじめとする 9 か国地域に寄贈した。

②環境保全啓発ポスターの活用

全国剣道大会等の開催時、また職場においてもポスターを掲示して環境保全意識の高揚に努めた。

③大会等でのゴミの分別回収等の実践

全国剣道大会等でのゴミの分別回収(弁当箱・ペットボトルの専用回収)、事務所内のリサイクルボックスの利用を促進した。

4．全体的な成果と今後の課題

中古剣道具の補修・活用により剣道の国際的普及の一翼を担うことができた。国内においては、更なる「剣道と環境保全」意識の高揚と活動内容の検討を進めていきたいと考えている。

（公社）日本近代五種協会

1．実施概要

当協会は練習会・記録会・大会を実施するにあたり、可能な限り環境保全と負荷の低減をはかり、参加者に対しても協力要請と啓発活動を行った。

いずれの会場においてもバナー・ポスター掲示、ゴミ箱の設置を続ける事で役員、選手が環境問題に関心を持ち更に意識が高まるように取り組んでいく。

2．平成 26 年度事業活動

●大会時の環境啓発ポスター、バナーの掲示

●大会会場内においてのゴミ分別の徹底

●競技終了後 BB 弾の回収と作業

3．具体的な活動実施内容とその成果

①大会時の環境ポスター等よる啓発活動

県で行われる近代 3 種講習・大会及び中央で行う近代 3 種日本選手権大会・ジュニア JOC カップ・近代五種日本選手権大会では、環境啓発ポスターの掲示を行い、啓発に努めた。

②競技会等における環境活動

当協会主催の大会においては、分別収集用ゴミ箱を設置し競技会場周辺の美化に努めるよう呼びかけた。

4．全体的な成果と今後の課題

大会会場にポスター、バナーの掲示、ゴミ箱を設置するなどの啓発活動を行った結果、役員、選手、観客等に意識が高まりつつある。

今後も、協会が先頭にたち、より具体的な活動を行い、役員、選手、観客が環境問題に理解を深めるよう積極的に環境保全と啓発に努めていきたい。

（公財）日本ラグビーフットボール協会

1．実施概要

日本ラグビーフットボール協会は、総務委員会に環境部門を設置して 8 年目を迎え、環境部門委員によりスポーツにおける環境活動への取り組み事例の研究及び検討を行い、『社会貢献活動の 1 つと位置付け、ラグビーを通じて環境保全に関する啓発・実践活動の推進を図る』ことをテーマとして下記の事業を実施した。

2．平成 26 年度事業活動

●日本協会『環境保全活動推進宣言』に基づいた推進活動の展開
●地球温暖化防止のための『Fun to Share キャンペーン』（環境省主管）
加盟メンバーとして環境保全活動への協力
●協会内各委員会との連携・協力体制により環境 PR 活動推進を図る
●日本代表チーム、トップリーグとのコラボレーションによる相乗効果を図る
● 2015 年 2 月 19 日開催の JOC 環境担当者会議に参加し他団体の取り組み事例を研究
● 2016 年リオデジャネイロオリンピック（男･女 7 人制ラグビー公式競技に）2019 年ラグビーワールドカップ（日本開催）、2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けての環境 PR の発信

3．具体的な活動実施内容とその成果

①広報活動（環境啓発 PR）
広報委員会との連携によりホームページ、機関紙、大会プログラム、メンバー表等への掲出により関係者、ファンへの環境保全運動を推進した。
・「FOR ALL, FOR EARTH」の日本協会環境タイライン活用
・「Fun to Share キャンペーン」の露出 PR
②試合（競技場）を観客・ファンへの環境啓発活動のチャンスと捉えての PR 推進、場内アナウンスにより、ゴミ分別回収協力の呼び掛け
③秩父宮ラグビー場での「エコキャップ運動」を展開
ペットボトルキャップを回収し、資源の再利用を促進することで CO_2 排出量の削減、キャップの再資源化で得る売却益をもって発展途上国の子どもたちにワクチンを届ける活動を行った。また、キャップを回収した総数、それを焼却した際に発生する CO_2 の量、提供できるワクチン数は定期的にホームページ等で報告している。
④トップリーグ参加チームと日本協会による「TRY for GREEN プロジェクト」を展開
トライ数に応じた寄附により、網走市の植林ならびに森林保全活動「トップリーグの森」への支援を行う（2 月 2 日ジャパンラグビートップリーグ年間表彰式にて北海道網走市水谷市長へ網走市の植林活動ならびに森林保全活動への寄付金を寄託）。
⑤省エネルギー、エコ商品利用、試合観戦時の公共交通機関利用を推奨。

FOR ALL, FOR EARTH.

（公社）日本山岳協会

1．実施概要

当協会における環境保全に関する活動は、登山者がフィールドとしている山岳地域での自然環境保護活動を主体とし、自然保護委員会を組織してスポーツ環境活動に取り組んでいる。

2．平成 26 年度事業活動

●独自制度である「自然保護指導員制度」（現在 1,500 名を超える登録数）の普及
●自然保護委員総会（各都道府県に委員を 1 名配置）の開催
●環境省や日本を代表する山岳団体などと連携しての山岳自然保護活動
●山岳地域におけるゴミ持ち帰りやトイレマナーの向上などを推進
●各地における清掃登山や登山道の補修などを実践
●環境省自然公園指導員を推薦し、自然公園内の適正利用や安全指導の推進
など年間を通して活動している。

3．具体的な活動実施内容とその成果

平成26年度の特記すべき活動としては、「山と自然の聖地を訪ねて」を合言葉に、山岳自然を通して、山岳自然保護の集い全国集会（第 38 回自然保護委員総会）を平成 26 年 11 月 22 日～ 24 日に広島市で開催し、全国から 90 名の委員が集った。今回は UAAA（アジア山岳連盟）の創立 20 周年記念総会の一連の行事の一つとしての開催となり、アジア諸国からのゲストを迎え、山岳を取り巻く環境について、情報交流とともに認識を新たにする集会となった。

当協会では独自の制度として、「自然保護指導員制度」を運営している。この制度は、登山をとおして、日本の素晴らしい山岳自然を後世に引き継いでいくよう、全国各地の加盟団体から 1,500 名の登録を受けて、正しい登山者マナーを広く呼び掛け、自然環境の保護に向けた活動を推進している。また、この指導員制度をさらに拡大展開を進めるべく、全国に情報発信をしている。

◆登山者マナー

1）自然を大切にする
　この恵み多い自然を、末永く後世に伝えるため、自然と友達のように接し大切にする。
2）水資源を大切に
　水は山からの恵みであり、あらゆる生命の源であるから、水源を汚さない。
3）テークイン・テークアウト
　山に持ち込んだものは必ず持ち帰る。山にはゴミを残さない。
4）トイレマナーを守る
　登山口で用を済ませて、携帯トイレの使用を習慣付ける。山岳トイレでは利用ルールを守る。
5）ローインパクトを心がける
　野生動物への配慮（餌やり、ペット同伴など）、移入植物の侵入への配慮（靴の泥に混入）。

（公社）日本カヌー連盟

1．実施概要

本連盟では、「環境対策委員会」において従来より「クリーンリバー・クリーンウォーター活動」を推進し、JOC スポーツ環境委員会提供ポスター及び横断幕（バナー）を国内主要競技大会期間中に掲示することで環境保全に対する啓発活動を行ってきた。

「クリーンリバー・クリーンウォーター活動」は 1981 年より各種大会において利用する河川、湖等において競技会開催期間中の水上及び周辺施設内の清掃を行うことを主にして継続的に活動している。

2．平成 26 年度事業活動

①大会時環境啓発ポスター、横断幕の掲示

②競技会等における環境活動

3．具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスター、横断幕の掲示

本会主催大会にて環境啓発ポスター、横断幕掲示を行い、啓発活動を行った。

②競技会等における環境活動

分別収集用のゴミ箱を設置し、競技会場周辺の自然環境を美しく保つよう呼びかけた。

競技会終了後は、選手も加わって撤収、清掃活動を行った。

4．全体的な成果と今後の課題

自然環境下で行うスポーツであることから、環境保全に関しては選手・役員ともに関心が高く、競技会後の撤収・清掃活動等はトップレベルの選手が率先して行っている。若手選手や子どもたちにも良い影響を与えており、今後は観客を含め、より多くの方に環境に対する意識を高めてもらえるよう積極的な活動を行っていきたい。

（公財）全日本空手道連盟

1．実施概要

昨年度に引き続き、日本空手道会館内の節電や、その他会館内外で環境保全に関する取り組みを行った。

2．平成 26 年度事業活動

①徹底した節電

②大会や講習会等におけるゴミ分別収集徹底の呼びかけ

3．具体的な活動実施内容とその成果

①日中は廊下の電灯を一部消した。また、エレベーター、エアコンのスイッチの近くに掲示物を貼り、日本空手道会館を利用するすべての方に節電への意識付けを行った。冷暖房の使用を控えたり、設定温度を控えめにしたほか、階段で移動を行う姿が多く見られた。また、職員は日常の業務においても、夏は窓を開け放ちエアコンの使用を控え、冬は暖房の温度を控えめに設定し、上着を着たりひざかけを使用するなど、節電に努めた。

②大会会場や日本空手道会館を利用するすべての団体に対し、ゴミの分別を呼び掛けた。

4．全体的な成果と今後の課題

当連盟では継続して徹底した節電を行っている。本館を使用する団体の中には、エレベーターの使用を控えることはもちろん、真夏にもかかわらず冷房を使用せず窓の換気のみで対応するという、協力的な団体も見られた。今後も節電に対する取り組みを継続していく。

また、掲示物を利用した呼び掛けは効果があり、講習会参加者は自発的にゴミの分別を行う姿が見られるようになった。

（公社）全日本銃剣道連盟

1．実施概要

環境保全活動の重要性を認識し、当連盟主催の各種大会・講習会において、参加者に対し積極的な啓発活動を行った。

2．平成 26 年度事業活動

●大会会場に環境啓発ポスターを掲示
●プリントを配布して、大会参加者に対するゴミ分別の徹底
●照明、空調等の調整による節電

3．具体的な活動実施内容とその成果

①大会会場に環境啓発ポスターを掲示し、選手や関係者に対し啓発活動を行った。

②事務室や道場の電気、空調をこまめに管理し、使用していない電化製品のプラグは抜く等、節電に努めた。

4．全体的な成果と今後の課題

環境保全の重要性を幅広く PR することができ、選手や関係者の意識も向上してきている。今後もこの活動を継続して行い、環境保全に貢献できるよう努めていきたい。

（公財）全日本ボウリング協会

1．実施概要

スポーツと環境保全への啓発活動は「普及・広報部会」が担当した。「施設を大事にすることが、自分の最高のプレーを引き出す」というテーマを継続し、具体策としての大会における活動は「競技委員会」の協力のもと実施した。

2．平成 26 年度事業活動

●協会の大会、行事における環境啓発ポスター掲示（平成 26 年度理事会、評議員会、協会主催各大会、審判員資格試験等）

●協会主催の各大会、行事での環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導

●成績公開の効率化と記録用紙使用量削減（データ活用によるスコアシート使用削減、最終成績一覧表のデータによる提供、大会成績の web 公開）

3．具体的な活動実施内容とその成果

①協会主催の各大会、行事での環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導

協会主催大会や、理事会・評議員会などの会場に環境啓発ポスターを掲示し、一部の大会ではプログラム冊子に環境啓発の広告を掲載した。また全ての協会主催大会の「監督会議」や「選手ミーティング」では、環境保護とルール、マナーの遵守について注意喚起を行い、大会中は場内アナウンス等により、選手、役員、観客など、大会にかかわるすべての人がマナーを意識し守るよう促すことを目標とし実施した。

②成績公開の効率化と記録用紙使用量削減

「web サイトでの成績公開」と「データ活用によるスコアシート使用削減」を前年度に引き続いて推進した。大会の最終成績一覧表は、データによる提供（メール送付対応）が標準として定着した。成績公開用の web サイトは参加全選手／チームの成績を公開することにより、問い合わせや確認の手間を減らせたことでスタッフと選手の双方にとってより便利なツールとなった。

4．全体的な成果と今後の課題

環境保全のためのルール・マナーについては、競技に不慣れなジュニア選手や、指導者・審判員養成の場面で指導に力を入れることが先々の徹底につながると考えている。また大会運営側（主管する都道府県連盟）が主体的に「後片付け推進タイム」を設け、選手による場内のゴミ集め・忘れ物確認・競技エリアの現状復帰を指導するなど、協会からの働きかけに呼応した活動が見られ、活動意図の浸透を実感することもできた。

成績公開に関しては、昨年度段階的に始めた各種手段が定着して、選手側の「結果を素早く、スムーズに知りたい」というニーズに応えること及び記録スタッフの負担軽減やコストの削減といった課題は解決に向けて着実に前進している。「web 上に自分の成績が載るのは抵抗がある」という意見については、事例が増えるにつれて理解度が増し、抵抗感も薄れてきている。今後も運営側と選手側の相互に良い効果をもたらすように活動を続けていきたいと思う。

（一財）全日本野球協会

1．実施概要

日本野球界全体が環境活動の重要性を認識し、「～愛する自然と野球のため～アオダモ植樹キャンペーン 2014」をスローガンに北海道において植栽環境保全に貢献しながら、バット材として世界一と言われているアオダモの“バットの森”を育てる取組みを展開している。

2．平成 26 年度事業活動

●植林活動
●木製バットリサイクル活動
●募金活動

3．具体的な活動実施内容とその成果

①植林活動

・日　程：平成 26 年 7 月 19 日（土）10:00 ～ 11:30
　場　所：苫小牧国有林　1357 林班い 2 小班
　植樹数：200 本（鹿対策との同時並行作業）
　参加者：田代将太郎（埼玉西武ライオンズ）、北海道栄高校野球部員、北海道厚真高校野球部員、苫小牧スポーツ少年団野球部、北光ファイターズ、豊川スポーツ少年団、糸川西スポーツ少年団、リトルライオンズスポーツ少年団、地元ボランティア、林野庁北海道森林管理局、北海道庁及びアオダモ資源育成の会関係者　以上　140 名

・日　程：平成 26 年 8 月 4 日（土）10:00 ～ 11:30
　場　所：栗山町　栗の樹ファーム
　植樹数：100 本
　参加者：地元ボランティア、栗山中学校野球部員、角田リトルタイガース、栗山ロッキーズ、継立ロビンズ及びアオダモ資源育成の会関係者　以上　130 名

・日　程：平成 26 年 9 月 28 日（土）10:00 ～ 11:30
　場　所：由仁町道有林　119 林班 2 小班
　参加者：北海道教育大学岩見沢校野球部員、北星学園大学附属高校野球部員、角田リトルタイガース、継立ロビンズ地元ボランティア、林野庁北海道森林管理局、北海道庁及びアオダモ資源育成の会関係者　以上　194 名

②募金活動

ミニバット「BAT FOREVER」募金の実施。本会の主旨を広く一般に理解していただくとともに、全野球人のこの運動への参画を願い、募金商品としてミニバットを製作した。破損バットをリサイクルしたこのミニバット 2 本を購入することで 1 本のアオダモの苗木を植える事ができる。

4．全体的な成果と今後の課題

野球界はスポーツと環境が大きなかかわりを持つことを以前から考え啓発し、実践してきた。すで

に「NPO 法人アオダモ育成の会」が出来て 10 年以上経過している。今後も変わることなく環境保全に努めていきたい。

（公社）日本カーリング協会

1．実施概要

全国のカーリング専用ホールへポスターの展示を行うとともに、主要大会では選手・運営スタッフ共同で環境保全活動に対する意識の向上に積極的に努めることを確認した。

2．平成 26 年度事業活動

●専用施設へのポスター掲示

どうぎんカーリングスタジアム（北海道）
軽井沢アイスパーク（長野県）
カーリングホール御代田（長野県）
青森市スポーツ会館（青森県）
アドヴィックス常呂カーリングホール（北海道）
妹背牛町カーリングホール（北海道）
北海道立サンピラーパークカーリング場（北海道）

3．具体的な活動実施内容とその成果

26 年度に自国開催された国際大会、パシフィックアジア選手権、世界女子選手権や日本カーリング協会主催の主要大会においてポスターの掲示を行った。大会参加者、スタッフを含めゴミの分別回収の徹底をし、環境への意識の向上を図った。

≪実施大会≫

・全農 2014 パシフィックアジアカーリング選手権大会　日本代表決定戦
　2014 年 9 月 10 日（水）～ 15 日（土）　長野県軽井沢町：軽井沢アイスパーク
・パシフィック・アジア・カーリング選手権
　2014 年 11 月 8 日（土）～ 15 日（土）　長野県軽井沢町：軽井沢アイスパーク
・第 5 回全日本大学カーリング選手権大会
　2014 年 11 月 22 日（土）～ 24 日（日）　北海道：妹背牛町カーリングホール
・第 23 回ジュニアオリンピックカップ　日本ジュニアカーリング選手権大会
　2014 年 12 月 2 日（火）～ 7 日（日）　北海道：妹背牛町カーリングホール
・第 32 回全農日本カーリング選手権大会（男女）
　2015 年 2 月 8 日（日）～ 15 日（日）　北見市：アドヴィックス常呂カーリングホール
・第 10 回全国高等学校カーリング選手権大会
　2015 年 2 月 19 日（木）～ 22 日（日）　青森県青森市：青森市スポーツ会館
・第 8 回日本ミックスダブルスカーリング選手権大会
　2015 年 2 月 25 日（水）～ 3 月 1 日（日）　長野県軽井沢町：軽井沢アイスパーク

・第 12 回日本シニアカーリング選手権大会
2015 年 3 月 5 日（水）～ 8 日（日） 青森県青森市：青森市スポーツ会館
・JA 全農世界女子カーリング選手権札幌大会 2015
2015 年 3 月 14 日（土）～ 22 日（日） 札幌市：月寒体育館
・第 11 回日本車椅子カーリング選手権大会
2015 年 3 月 27 日（金）～ 29 日（日） 長野県軽井沢町：軽井沢アイスパーク

4．全体的な成果と今後の課題

協会としての本格的な環境保全への取り組みをスタートすべく、環境委員会の設置が決定し 27 年度からその活動をスタートする。

（公社）日本トライアスロン連合

1．実施概要

①「グリーントライアスロン」※をスローガンとする環境保全活動の継続実施
②カーボンオフセットの取組（横浜シーサイドトライアスロン大会）

※「グリーントライアスロン」とは、国際トライアスロン連合（ITU）と日本トライアスロン連合（JTU）が共同で取り組む、「トライアスロン」を通じて行う環境活動。主にスタッフ・選手・スポンサー・来場者を対象とし、①リデュース（減らす）、②リユース（再利用）、③リサイクル（再資源化）の 3 つをテーマとして環境保全活動を大会主催者と連携して実施。

2．平成 26 年度事業活動

①グリーントライアスロン in 横浜〔2014 年 4 月 19 日（土）山下公園〕
②第 5 回横浜シーサイドトライアスロン大会〔2014 年 9 月 28 日（日）横浜八景島周辺〕

3．具体的な活動実施内容とその成果

①グリーントライアスロン in 横浜〔2014 年 4 月 19 日（土）山下公園〕
大会開催 1 カ月前（大会開催：5 月 17 日・18 日）にスタッフ・スポンサー・一般来場者の協力のもと、スイム会場となる山下公園前面海域の海底清掃や会場内清掃、海中実況中継、スイムコース試泳などを実施し、海の環境への市民の啓発活動を行った。
②第 5 回横浜シーサイドトライアスロン大会〔2014 年 9 月 28 日（日）横浜八景島周辺〕
横浜市との協働による地球温暖化対策横浜ブルーカーボン事業」でカーボンオフセットの社会実験にチャレンジ。大会運営や参加者の会場までの移動により生じる CO_2 排出量を金額に換算し、寄附金などでオフセット（埋め合わせ）する取り組みを行った。

4．全体的な成果と今後の課題

①数年間に渡る継続した「グリーントライアスロン」のフレーズとマーク使用の効果により、各会場で周知活動ができたとともに、一般への拡がりが見られはじめている。
②大会開催時に常に実施する環境活動として全国に浸透させる。
③ホームページによる事業周知と全国加盟団体への啓発ツール提供を検討。

5．その他

トライアスロン大会を通じた水質 PR の事例紹介：

手賀沼トライアスロン大会の例

平成 18 年（2006 年）、手賀沼の水質改善※1 を記念しトライアスロン大会を開催した結果、トライアスロン競技が水質改善の実証となり、手賀沼のイメージそして地域住民の意識改革へとつながった。

以後大会は平成 26 年（2014 年）までに 9 回に渡り開催され、現在では沼にゴミが投棄されることも減り、毎年大会開催時には地域ボランティアによる積極的なゴミ拾い活動の参画等、地域の環境保全活動へと発展した。

※1 過去手賀沼は、27 年間連続で全国の湖沼ワースト 1 を記録。

〔平成 26 年度 大会概要〕

大会名　：　第 9 回手賀沼トライアスロン大会

開催日　：　2014 年（平成 26）年 8 月 24 日（日）

開催場所：　千葉県柏市箕輪新田・手賀沼および手賀沼自然ふれあい緑道

種　目　：　スタンダード（スイム 1.5km ／バイク 40km ／ラン 10km）個人、リレー

参加人数：　個人：385 名、リレー 52 チーム（一人 1 種目を 3 名でリレーする）

大会役員、ボランティア約 300 名、観客 300 名程度。

（公財）日本ゴルフ協会

1．実施概要

スポーツ団体として、環境に配慮した活動を行った。

2．平成 26 年度事業活動

●環境啓発ポスターの掲示

●大会会場における環境活動

3．具体的な活動実施内容とその成果

●事務所内に環境啓発ポスターの掲示

●トーナメント会場において、環境配慮を目的に、日本オープン、日本女子オープン、日本シニアオープン会場のギャラリー飲食場所を中心に、分別用ゴミ箱を設置

4．全体的な成果と今後の課題

●事務所内におけるペーパーレス化の意識付け

●トーナメント会場では、今後、環境に配慮した食器 (リサイクル食器等) の使用や食材の地産地消に取り組みたい

（公社）日本スカッシュ協会

1．実施概要

平成 26 年度は前年のキャンペーンを継続して行った。コートを保有するクラブ利用時の心構えなど、全てのライフスタイルに環境意識を取り込むように促し、生活の基本となるよう取り組んだ。

また、全国の地区支部への浸透を深める為に会議等でも説明を行った。

2．平成 26 年度事業活動

●大会開催時に会場に応じたエコキャンペーンの実施（マイカップ・靴袋リユース）
●大会会場に JOC 制作の環境啓発ポスターを掲示
●大会表彰式において環境啓発のスピーチを入れる
●協会公式サイトで啓発

3．具体的な活動実施内容とその成果

＜大会開催時の実施状況＞

当協会主催の全ての大会で JOC 啓発ポスターを掲示。当協会エコキャンペーンは 5 年目に入るため周知されているが、さらなる啓発を行った。全国の支部への浸透が少しずつではあるが実施されてきたが十分ではなかったので、今年度もさらに支部長に協力を依頼した。

＜エコキャンペーンの具体的内容＞

JOC の啓発ポスターを各大会会場に掲示。

ジュニア大会ではドリンクはマイボトル、マイカップを利用するように給水タンクを用意する。この活動は何年も継続してきているため、すでに定着している。

各大会スタッフは持参のマグカップやマイボトルでドリンクゴミを減らす努力を行った。

4．全体的な成果と今後の課題

6 年目となるエコキャンペーンは、ジュニア大会では意識が定着し、子どもたちが率先してキャンペーンへ参加している。大人を対象とした大会でもスタッフを中心にエコ意識の向上が見られている。この意識が選手や観客に波及し、より広がって行く事を期待したい。

当協会主催の全ての大会では上記のように実施しているので、全国の支部でも少しずつ浸透してきたので、全国の全ての支部に再度協力依頼を行った上で、JOC の環境啓発ポスターのデータを送付して 4 月以降の各支部大会にて協会同様にさまざまな環境エコ活動の実施をお願いし、写真を送っていただくようにした。

その結果スカッシュコートのあるスポーツクラブや会場になっているスカッシュクラブでも年間を通じてポスターを掲示してエコ活動に協力的になってきている。大会での実施だけでなく今後年間を通じた取り組みを全国に広げていきたい。

（公社）日本ボディビル・フィットネス連盟

1．実施概要

役員が中心となり全国の公認クラブ、選手、大会観客、関係者等の方々に環境問題の啓発活動を進め、環境保全意識の浸透と高揚を図っている。

2．平成 26 年度事業活動

●事業局での書類を電子化
●協議会等における環境美化活動
●大会プログラムへ啓発資料の掲載
●大会会場での広報活動

3．具体的な活動実施内容とその成果

①書類の電子ファイル化によりペーパーレス化を図っている
②ボディビル全日本選手権大会をはじめ各ブロック大会、地方大会等年間約 50 回開催される大会会場におけるゴミの分別化
③大会プログラムへ啓発資料の掲載
④環境標語横断幕（バナー）の設置による広報
⑤ポスター掲示等の広報活動

4．全体的な成果と今後の課題

・ポスター、バナーの掲示、プログラムへの掲載など啓発活動を行った結果、役員、選手、観客等に徐々に環境問題意識が高まってきた。
・「出来ることからやる」「STOP ！　地球温暖化」をスローガンに役員一丸となり環境問題と積極的に取り組む。

（一社）全日本テコンドー協会

1．実施概要

全日本テコンドー協会では、環境にやさしい大会運営と、選手によりよい環境で競技を続けることのできる環境作りの二つを軸として、環境委員並びに各指導者の意識改革を推進し、国内・国外大会、各都道府県でのオープン大会開催時においても、各委員による啓発活動および指導実施を行い、環境問題への取り組みの拡大を目標とする。

2．平成 26 年度事業活動

●大会時に環境啓発パンフレットの配布
●会長挨拶文での環境啓発文挿入

●大会時にゴミの分別回収および持ち帰り運動の推進
●事務局内での裏紙使用・ペーパーレス化推進
●各都道府県大会時の環境啓発活動
●大会終了後の巡回による清掃確認

3．具体的な活動実施内容とその成果

各都道府県選手権大会、全日本選手権大会、選考会、オープン大会等においてゴミの分別回収、会場内環境ポスターの掲示、啓発活動を実施した。その結果、ゴミの量も減り、ゴミの持ち帰りも徹底されてきた。

4．全体的な成果と今後の課題

当協会では、「環境にやさしい大会運営」をテーマに環境問題を考えてきたが、環境問題のパンフレットの配布などの啓発活動の結果、より環境にやさしい大会運営につなげて行くことができた。今後の課題としては、積み重ねた経験を活かし主要国内大会同様に、当協会加盟団体等への環境問題の意識を高め、さらに環境活動への啓発を継続し、共同体制への確立を目指していく。

（公社）日本ダンススポーツ連盟

1．実施概要

2014 年 1 月から 12 月までに当連盟（JDSF）が公認して開催されたダンススポーツ競技会は 302 回で、これらの大会ではゴミの分別・持ち帰りを啓発するとともに、実践を促した。また、主な主催競技会で環境横断幕（バナー）やポスターを掲示したほか、指導員講師養成講習会における講義で JOC が推進する環境問題について喚起した。

2．平成 26 年度事業活動

● JDSF 及び加盟団体主催の競技会での環境横断幕の掲出
● JDSF 事務所会議室への環境啓発ポスター掲示
●競技会等における環境活動
●事務所における環境活動
●指導員研修会における環境活動の啓発

3．具体的な活動実施内容とその成果

〈大会時環境啓発横断幕等の掲示〉

JDSF 主催の競技会においては、従来の三笠宮杯及び東京オープン競技会に加え、北海道、仙台、静岡、大阪、大分で開催されたダンススポーツグランプリ及び長崎で開催された全国都道府県対抗ダンススポーツ大会のほか、加盟団体主催の競技会において、JDSF ロゴマークをも配した JOC 環境横断幕を掲出し、環境保全の必要性と運動の意義について訴えた。

〈事務所会議室への環境啓発ポスターの掲示〉

来客があった場合等に JOC の環境保全活動について説明し、理解を求めた。

〈指導員講師養成講習会等における啓発〉

JDSF には、全国に約 4,000 人のダンススポーツ指導員がいるが、これら指導員に対する研修会で講義を行う講師養成のための講習会において、「スポーツと環境」と題する講義を行い、全国の指導員に対して環境保全について啓発活動を進めるよう促した。

4．全体的な成果と今後の課題

大会時のゴミ分別は、引き続き多くの会場で実践しており、主催者及び会員の環境保全に対する意識向上が実感された。引き続き JDSF 及び加盟団体の各イベントにおいて、JOC ポスターの貼り出しや環境横断幕の掲示などを行い、環境保全の重要性を訴えていきたい。特に今後は、全国各地で開催する指導員研修会においても啓発していきたい。

また、事務所や大会開催時での紙使用及びコピー数の削減の必要性をこれまで以上に訴えていきたい。

（一社）日本バイアスロン連盟

1．実施概要

日本バイアスロン連盟は環境活動の重要性を認識し、継続的活動を積極的に展開した。

2．平成 26 年度事業活動

①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示

②競技会等における環境活動と清掃活動

3．具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示

本会主催大会にて環境啓発ポスター、バナー掲示、環境パンフレットの配布を行い、啓発活動を行った。

②競技会等における環境活動と清掃活動

札幌市等の自治体が行った小・中学生を対象としたバイアスロン体験講習会や北海道上川郡東川町、札幌市、虻田郡倶知安町、富山県南砺市で開催したミニバイアスロン競技大会などのイベントを通じて、その中で、参加者に環境とスポーツとのかかわりや、環境保全・啓発活動の重要性を訴えるとともに周辺地域の清掃活動を実施した。また、東日本選手権競技大会・日本選手権大会・西日本選手権大会等の競技会においては、大会前後に参加者と一緒になって会場周辺地域の清掃活動を行った。

4．全体的な成果と今後の課題

競技会場内へのポスター、バナーの掲示など啓発活動を行ってきた成果が徐々に実り、選手をはじめ多くの関係者に環境啓発の知識や、理解を得ることができた。

今後も、競技者、啓発活動から実践活動へ意識を変え、より具体的な活動を行っていく。スポーツと環境が大きなかかわりを持つことを一人でも多くの方に理解してもらえるようこれからも積極的に環境保全に努めていきたい。

（一社）日本カバディ協会

1．実施概要

日本カバディ協会では、平成 19 年 4 月に環境委員会を設置以来、引き続いてスポーツ団体が取り組み可能な環境保全の啓発、実践活動を行っている。これから、より積極的な活動を全国に展開できるよう、地方支部を含め組織を強化していく。

2．平成 26 年度事業活動

●国内大会（全日本選手権大会、東日本大会、西日本大会、インドア大会）での環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布
●競技会等における環境活動
●事務所における環境活動

3．具体的な活動実施内容とその成果

＜大会での環境啓発ポスター、バナーの掲示、パンフレットの配布＞

当協会が主催した大会（全日本選手権大会、東日本大会、西日本大会、インドア大会）にて環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布を行った。

＜競技会等における環境活動＞

ゴミの分別、持ち帰りの徹底、冷暖房の電源には触れない等の環境保護の呼びかけを行い、大会プログラムに注意事項を記載した。また、式典でのアナウンスも併せて行った。

＜事務所における環境活動＞

ペーパーレス化推進の為、文書データは郵送や FAX による送受信を避け、E メールによる連絡事項のやり取りを極力行った。コピー、FAX 用紙の両面使用を徹底し、ゴミの削減、資源節約に努めた。また、事務所を出るときは電源を抜くなどのエネルギー、コスト削減も心がけている。

4．全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスター、バナー掲示、パンフレットの配布など長い間続けてきた啓発活動により、選手や関係者に環境啓発への理解を得ることができた。また、大会の会場では、自主的にごみの分別を行う選手が多く見られた。

カバディは、ほとんど道具を必要としないエコなスポーツといえる。そのようなスポーツだからこそ、今後環境問題への意識付けをより一層行い、積極的に環境保全に貢献していきたい。また、地方支部に呼びかけ、全国規模で展開していけるよう、より一層の環境保全に努めていきたい。

（一社）日本セパタクロー協会

1．実施概要

日本代表選手やチームを通じて、環境保全のメッセージを伝えたり、競技会場にスポーツと環境に関するポスターを掲示するなど環境啓発活動を推進する。またチャレンジ 25 キャンペーンのチャレンジャー登録団体として、キャンペーンが推奨する 6 つのチャレンジと 25 のアクションを参考に、地球温暖化防止策を念頭において事務局の運営を遂行する。

2．平成 26 年度事業活動

●大会時環境啓発ポスター掲示
●選手及び来場者への環境活動の呼びかけ
●ゴミの削減など

3．具体的な活動実施内容とその成果

①第 21 回全日本セパタクローオープン大会にて環境ポスターの掲示と大会環境の声かけ等。
②第 2 回福島セパタクローオープン大会にて環境ポスター掲示、パンフレットへの記載、ゴミの分別コーナーを設置し会場関係者への環境への取り組み啓発

4．全体的な成果と今後の課題

環境啓発活動を更に強化し選手や関係者に知識や環境への理解を促す。各大会主催者と連携をとり環境に配慮する大会運営及び、積極的な環境保全に対する取り組みを行っていくように推進すること。

（特非）日本クリケット協会

1．実施概要

日本クリケット協会では、環境保全活動の重要性を認識し、スポーツ団体としてできることを考え、取り組みを図った。今後も大会関係者やクラブ関係者にとどまらず、より多くの人に環境保全の啓発を促進し、環境保全意識の向上を図っていきたい。

2．平成 26 年度事業活動

①各種大会やイベントなどにおける啓発活動及び省資源活動の実施
②事務局における環境啓発ポスターの掲示及び省エネ・省資源活動の実施

3．具体的な活動実施内容とその成果

①各種大会やイベントなどにおける啓発活動及び省資源活動の実施
会場において、ゴミの分別や持ち帰りを呼びかけた。また、ドリンクサーバーを用意し、水分補給の際のゴミをなるべく出さない工夫をした。

②事務局における環境啓発ポスターの掲示及び省エネ・省資源活動の実施

事務局の入り口に環境啓発ポスターを掲示した。また、無駄な照明の消灯、会議等でのペーパーレス化、ゴミの分別やリサイクル、クールビズ及び空調の温度管理を実施した。

4．全体的な成果と今後の課題

啓発活動の成果として、選手や関係者の意識向上が見られた。また、事務局における省エネ・省資源活動により、節電及びゴミの減少につながった。今後もこうした活動を継続し、スポーツを通じた環境保全に努めていきたい。

（公社）日本アメリカンフットボール協会

1．実施概要

選手自らがスタジアムの所在する地域環境活動に貢献することで、スポーツ団体、大学スポーツとの、より親密なコミュニケーションを図ることを目的とする。

『街をキレイに！』をスローガンに地域美化推進活動を実施。

2．平成 26 年度事業活動

「全日本大学選手権　パナソニック杯　第 69 回　甲子園ボウル」当日に周辺駅の清掃活動を実施した。

3．具体的な活動実施内容

●活動内容　『パナソニック杯　第 69 回毎日甲子園ボウル』
「地域美化推進活動 “Clean Up Action”」

●実施日時　平成 26 年 12 月 14 日（日）午前 8：00 ～午前 11：30

●実施場所　選手権会場「阪神甲子園球場」周辺 8 駅

●参加者　関西学生アメリカンフットボール連盟所属加盟 53 大学全ての学生
約 2,000 名

●活動主管　関西学生アメリカンフットボール連盟

●活動内容　駅周辺道路のゴミ拾いを含めた、清掃活動

（公社）日本チアリーディング協会

1．実施概要

日本チアリーディング協会は、地球環境問題の重要性を認識し、スポーツ活動における環境保全に関する啓発と実践活動を推進する。

2．平成 26 年度事業活動

①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
②大会プログラムにポスターを印刷・配布
③大会会場における分別回収の促進
④省エネ・省資源活動の実施

3．具体的な活動実施内容とその成果

①大会時環境啓発ポスター、バナーの掲示
・本協会主催大会において環境啓発ポスター及びバナーを掲示した
②大会プログラムにポスターを印刷・配布
・本協会主催大会プログラムにポスターを印刷・配布し、啓発活動を行った
③大会会場における分別回収の促進
・本協会主催の大会において会場内のダストボックスの分別を徹底し、ビニール袋使用による回収を実施した
④省エネ・省資源活動の実施
・大会会場や控室の照明、空調温度を調整し省エネを実施した
・大会会場の整理・清掃を行い、競技環境の整備を促進した
・加盟団体等との各種事務手続きを電子化し、ペーパーレス、省資源を実施した

4．全体的な成果と今後の課題

環境啓発ポスターを掲示するともに大会プログラムにポスターを印刷・配布し啓発活動を行ったことにより、選手をはじめ関係者に環境啓発に対する理解を得ることができ、スポーツと環境問題に対する認識が向上した。

今後も、競技者をはじめ関係者・関係団体への啓発活動を推進するとともに、計画的な活動を実践し積極的に環境保全に努める。

（公社）日本オリエンテーリング協会

1．実施概要

当協会が主催する大会及び公認する大会において、ポスター等の掲示を行い、環境に対する取組を啓発する。オリエンテーリングは野外での活動がメインであり、継続して会場を使わせていただくことが大切であることを改めて考えてもらう。

2．平成 26 年度事業活動

以下の大会で環境啓発活動を実施。

①第 19 回京大・京女オリエンテーリング大会
開催日　：平成 27 年 3 月 21 日（土）
会　場　：滋賀県日野町「グリム冒険の森」

活動内容：ポスター掲示

②パークオリエンテーリングツアー in 関西 2014 滋賀大会

開催日　：平成 27 年 3 月 22 日（日）

会　場　：滋賀県守山市「びわこ地球市民の森」

活動内容：ポスター掲示

③第 41 回全日本オリエンテーリング大会

開催日　：平成 27 年 3 月 29 日（日）

会　場　：福島県二本松市「城山総合体育館」

活動内容：プログラムに掲載及びポスター掲示

3．具体的な活動実施内容とその成果

いずれの会場においてもポスター掲示を行い、環境についての啓発を行った。また、第 41 回全日本大会においては参加者用のプログラムにポスターを掲載し、より多くの方に配布、WEB 等で見ていただくことにより、一層の啓発ができたものと考える。

（公社）日本パワーリフティング協会

1．実施概要

パワーリフティングを一般社会に紹介しつつ、一般トレーニーの大会参加を促し、数あるスポーツの中でも生涯スポーツの最たるものである旨をアピールする。

ディスエイブル連盟との連携を強化し、健常者・障がい者との交流を図り、パラリンピック出場資格獲得者の増加を目指す。

大会会場として公共体育館・公会堂等をお借りする場合が多々あるが、競技中及び終了後の会場・施設の復元及び清掃・ゴミの持ち帰り・エコキャップ事業推進を徹底する。

2．平成 26 年度事業活動

全日本・ブロック・都道府県大会に於いて環境啓発ポスターを掲示した。

当該大会に於いて出場者のゴミ持ち帰りを開催要項に記載し、上記大会会場において大会事務局から大会使用器具撤収時に会場復元を呼びかけ、大会関係者（開催者・出場者）全員が参加協力して現状を回復した。

3．具体的な活動実施内容とその成果

①全日本パワーリフティング選手権大会及びその他大会での、ゴミの分別収集を徹底。

②健常者・障がい者の交流大会を日本各地で数回実施し、お互いの相互理解を深めた。

③東京都春季ベンチプレス大会会場としてお借りした小学校の生徒たちに、体験コーナーにて、実際にベンチプレスの手ほどき等をパラリンピック出場者が実施した。

4．全体的な成果と今後の課題

・全日本規模の大会出場者数の増加
・施設提供者との良好な関係維持
・障がい者がスポーツにいそしめる環境作りを日本パラパワーリフティング連盟と連携して構築していく

（一社）日本フライングディスク協会

1．実施概要

日本フライングディスク協会は、砂浜を使用して競技する『ビーチアルティメット』中心に環境活動に取り組み、競技者、関係者に対し環境保全意識の啓発活動を実施してきた。平成 27 年度からは、協会内に環境委員会を設置し、今まで以上に環境活動を推進する。

2．平成 26 年度事業活動

●大会会場でのエコフラッグの掲示
●大会参加者による会場周辺清掃活動
●ゴミの分別廃棄の徹底、及びゴミ持ち帰り推奨

3．具体的な活動実施内容とその成果

〈ビーチアルティメットフレンドシップ湘南2014　第15回 EBASHI－CUP〉
主管：神奈川県フライングディスク協会
・参加者全員（約750名）によるビーチクリーン（砂浜清掃）
・チームエントリー条件の一項目として「参加者全員で、ビーチクリーン活動を積極的に行うこと」を明記
・正しく分別出来るよう、分別表を明示
・毎年継続して実施しており、参加者に浸透している

4．全体的な成果と今後の課題

神奈川県藤沢市の鵠沼海岸で開催された競技会にて大学生から 40 歳代までの競技者（約 750 名）全員が同じ時間帯に清掃を実施。環境保全への意識の醸成につながった。

今後は大会会場での活動だけでなく、日常生活の行動に良い影響が与えられるよう、工夫して活動を推進していきたい。

(2) JOCスポーツ環境専門部会員の活動
Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission

板橋一太　部会員

「持続可能性」の追求
＝オリンピックアジェンダ 2020 を読み解く＝

IOC は昨年末の臨時総会（モナコ）で「オリンピックアジェンダ 2020」を採択した。日本にとって当面最も大きな関心事となっている実施競技・種目のようにオリンピック憲章の改定を伴うものもあるが 40 項目にのぼる改革案が満場一致で決定された。その 4 項目目に「オリンピック競技のすべての側面に『持続可能性』を含めよう」というのがあり、5 項目目では「オリンピックムーブメントの日々の展開に『持続可能性』を含めよう」とされている。

「持続可能性」というのは原語は “sustainability” であり日本語に直すといささか落ち着きが悪いが、いまでは普通に使われるようになり、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の部局名にもあると聞く。要は、私たちが生きる地球の資源は有限だから使いうがままに野放図に消費していったのでは人類はいずれ生存できなくなる、使い方を調整しながらいつまでも…永遠に…生きていけるよう、この社会が持続できるようにその可能性を模索しようということである。環境問題に起源を発する言葉でありかつては「環境」（“environment”）と合わせて使われることが多かったが今では環境問題に限らず社会活動のさまざまな側面について警告的に使われる機会が多くなっている。

さて、上記 5 項目目の提案にはスポーツと環境の問題にかかわって IOC が「イベントの開催や物・サービスの購入に際して持続可能性に配慮すること」、「旅行が環境に及ぼす影響を減らしカーボンオフセットを行うこと」、「事務所設備の維持管理について最適基準を適用すること」などなじみの深い語句が並ぶが、特に私が注目するのは、その後に続く、「IOC はオリンピックムーブメントの『ステークホルダーズ』がその組織の管理運営において持続可能性を統合して行えるように指導助言するというくだりである。「ステークホルダーズ」というのは「利害関係者」という意味であるが、「必要な提案をおこなうこと」、「用具、実践例、評価手段を提供すること」、「ステークホルダーズ間で情報交換が行われる仕組みを構築すること」、「オリンピックソリダイティのような既存の経路を通じて持続可能性の活動の開始と実施を支援すること」が列挙されている。

これまで、私たちはスポーツと環境の問題にかかわって 3R 活動…ゴミの削減（リデュース）、再使用（リユーズ）、再生（リサイクル）…など自ら行えることに取り組んできたところであるが、「オリンピックアジェンダ 2020」は、その活動がステークホルダーズ…「利害関係者」にまで拡大されるような努力を求めている。地球と社会の存続は一部の人間で太刀打ちできることではない。全ての関係者に協力を求めることの必要性を改めて感じた次第である。

西山 雄二　部会員

横浜シーサイドトライアスロン大会の参加選手によるカーボンオフセット

環境未来都市・横浜市は、臨海部を対象として、環境・エネルギーを切り口とした施策展開や産業振興に取り組んでいる。

この取組の一環として、平成 23 年度から海洋資源を活用した温暖化対策の検討を進めてきたが、平成 26 年度から、横浜市独自のカーボンオフセットを中心とした新たな脱温暖化プロジェクト「横浜ブルーカーボン」をスタートすることになった。

このプロジェクトでは、具体的な取り組みとして、ブルーカーボン等を活用したカーボンオフセット制度の導入を進めており、平成 26 年度に実施した社会実験では、横浜市漁業協同組合と株式会社横浜八景島の「ワカメの地産地消」等による CO_2 削減効果を活用し、横浜シーサイドトライアスロン大会の開催で排出された CO_2 オフセットを行っている。

【横浜ブルーカーボンとは】

海洋に生息する生き物によって吸収・補足される炭素を「ブルーカーボン」という。

「横浜ブルーカーボン」では、「ブルーカーボン」に加え、海洋におけるエネルギー等の利活用を「ブルーリソース」と名付け、これらを一体として脱温暖化に取り組み、さらに、海洋環境の魅力を向上させることで「親しみやすい海づくり」を目指している。

【横浜シーサイドトライアスロン大会でのブルーカーボンオフセットへの取組】

平成 26 年 9 月に開催した横浜シーサイドトライアスロン大会の大会運営や参加者、スタッフの会場までの移動により生じる CO_2 排出量を金額に換算し、オフセット（埋め合わせ）する取組である。

この大会では、参加費の他、オフセットするための寄附金 30 円（任意）を募った。

オフセット金額の寄附金 30 円は前年の大会で参加者が電車等で会場まで移動したことによる CO_2 排出量（一人あたりの往復分）が平均値で 2.9kg であったことから、この排出量を 1kg あたり 10 円として金額に換算し、1 人当たり 30 円となった。

「自然をたのしむトライアスリートは、地球環境にもやさしい」をスローガンにその趣旨説明を行ったうえで、環境寄附金付きエントリーをしていただいた結果、大会出場枠総数の 64.9％の方々の賛同を得られることができた。

【今後の展開】

平成 27 年 5 月に横浜市山下公園周辺で開催される世界最高峰のトライアスロンシリーズ大会である「2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会」でも、横浜シーサイドトライアスロン大会と同様に参加選手からの寄附によりカーボンオフセットを行う取組を予定している。

大会運営側だけでなく、出場する選手にも大会に参加することにより環境負荷が生じていることを認識してもらう必要がある。

今回の取り組みのように、オフセットに参加するアスリートを巻き込み、対象とする活動を拡大していき、ブルーカーボン・ブルーリソースの取組を推進し、環境、社会、経済の好循環を生み出していきたいと考えている。

松岡 修造　部会員

日本テニス協会における啓発活動

「修造チャレンジトップジュニアキャンプ」開催時に、会場内におけるポスターの掲示や横断幕の提示、ゴミの分別など啓発活動を積極的に行った。

●修造チャレンジトップジュニアキャンプ開催概要

日程	対象	会場
2014 年 6 月 10 日（火）～ 13 日（金）	松岡修造と JTA ナショナルチームに選抜された 14 歳以下の男子ジュニア選手 16 名	クラブヴェルデ
2014 年 9 月 7 日（日）～ 12 日（金）	松岡修造と JTA ナショナルチームに選抜された 12 歳以下の男子ジュニア選手 15 名、13 歳～ 17 歳の男子ジュニア選手 15 名	荏原湘南スポーツセンター
2015 年 3 月 3 日（火）～ 6 日（金）	松岡修造と JTA ナショナルチームに選抜された 14 歳以下の男子ジュニア選手 17 名	味の素ナショナルトレーニングセンター

(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について

Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs

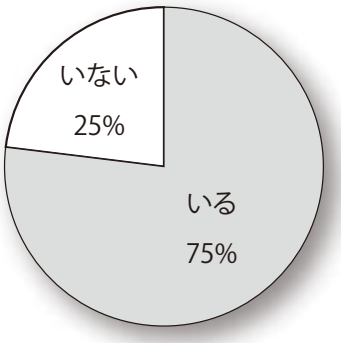
平成26年度JOC加盟団体を対象に11年前から、「スポーツと環境」に関するアンケートを実施。活動の現状や浸透状況を把握しつつ、今後の指針づくりにも役立てている。

その約7割以上の団体で「スポーツ環境委員会」あるいは「環境保全プロジェクト」が設けられていると回答を得た。

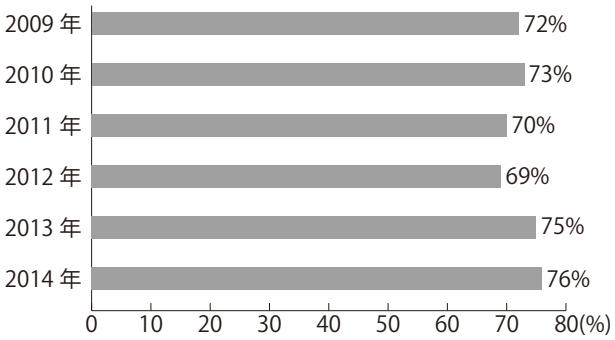
●環境委員・環境保全プロジェクトについて

スポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクトを設置していますか

(n=62)



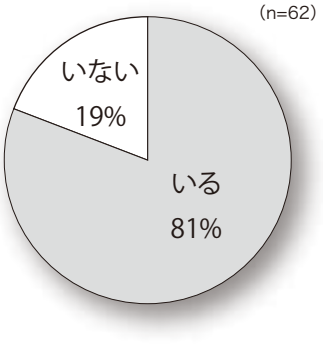
スポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクトを設置していますか



●日常活動の取組みについて

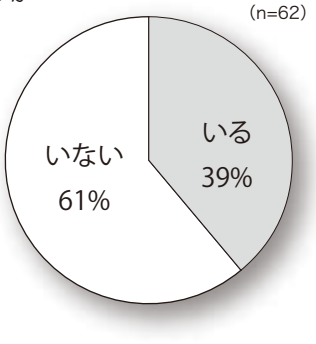
①啓発活動の一環として事務局に環境ポスターを掲示していますか

(n=62)



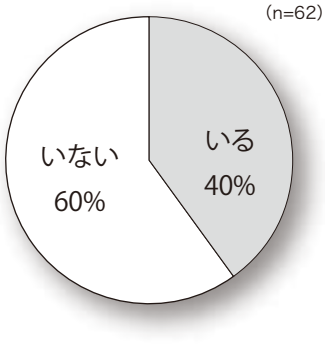
②機関誌等に環境保全に関する内容（環境ポスター等）を掲載していますか

(n=62)



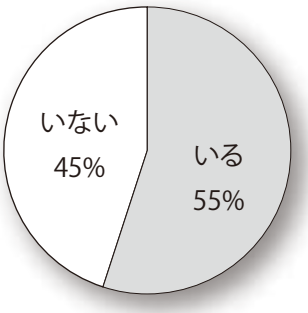
③影響力のあるトップ選手等に環境保全への啓発を依頼していますか

(n=62)



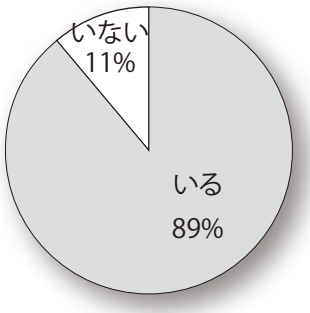
④都道府県協会や加盟団体と連携して環境保全の啓発活動をしていますか

（n=62）



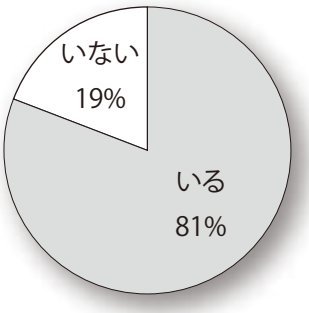
⑤事務局においてコピー用紙使用の削減の取組みをしていますか

（n=62）



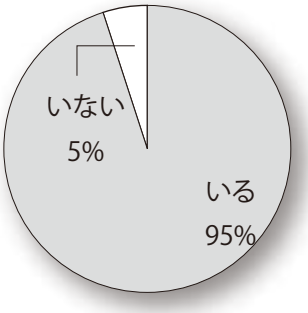
⑥事務局において環境に配慮した印刷の取組みをしていますか

（n=62）



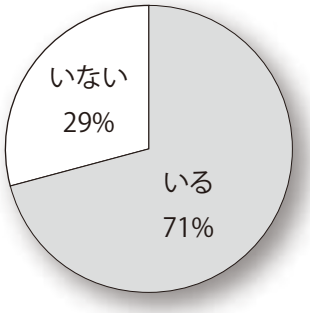
⑦事務局において電気使用量の削減の取組みをしていますか

（n=62）



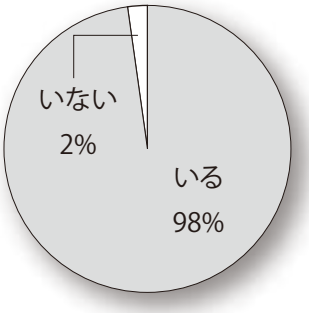
⑧事務局において環境に配慮した用品・用具の使用をしていますか

（n=62）



⑨事務局においてゴミの分別を実施していますか

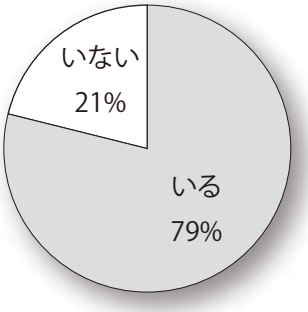
（n=62）



●主催イベント（大会等）の取組みについて

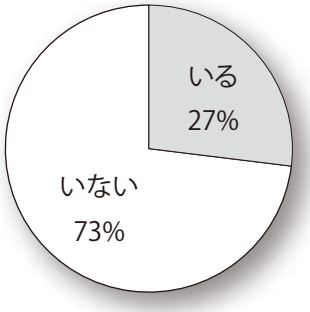
①イベント会場に環境ポスター・環境の横断幕を掲示していますか

（n=62）



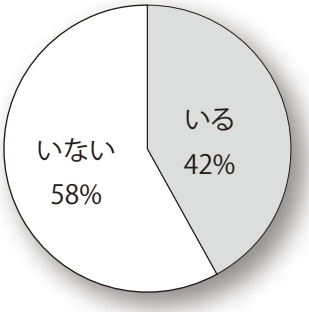
②イベント会場で環境保全に関する展示等をしていますか

（n=62）



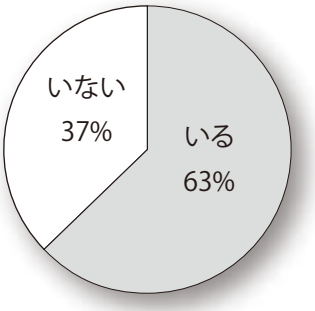
③パンフレットに環境に関する資料（環境ポスター等）を掲載をしていますか

（n=62）



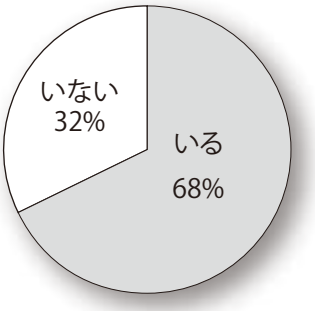
④参加者へのアナウンスの中で環境保全への協力を呼びかけていますか

（n=62）



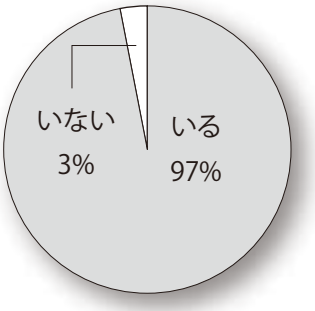
⑤競技・運営役員等に対し環境保全の重要性を認識してもらう取組みを行っていますか

（n=62）



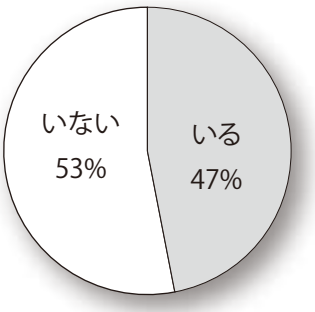
⑥イベント会場において、ゴミの分別を行っていますか

（n=62）



⑦競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮を何かしていますか

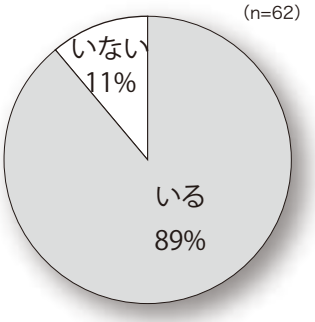
（n=62）



●ＪＯＣスポーツ環境専門部会活動報告書の活用について

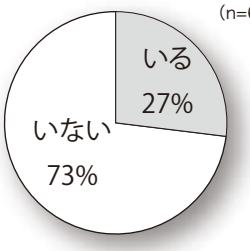
ＪＯＣスポーツ環境専門部会「活動報告書」を活用していますか

（n=62）



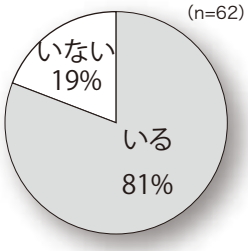
（ア）報告書の一部をコピーして関係者に配布している

（n=62）



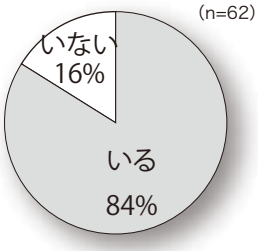
（イ）活動の参考として参照している

（n=62）



（ウ）いつでも閲覧できるように設置している

（n=62）



5 IOCスポーツと環境委員会について

IOC Sport annd Environment Commission

東京 2020 大会を契機に「持続可能性」の模範を世界に示そう！

いよいよ東京 2020 大会を迎える日本は環境のみならず多くの分野で世界に模範を示さねばならない時になりました。

現在、三つの E が世界の脅威と言われています。① Economy 世界経済、② Epidemic 流行病、そして③ Environment 環境です。

世界経済を見ると石油価格の下落も加わって大きな不安定要素を持っています。アフリカ・中東は統治能力を持つリーダー不足で混乱していますし、ロシア・中国共に将来にむけ不安要素が渦巻いています。欧州連合は特にギリシャの破綻状態をどのように対処するかで苦慮しています。アメリカは世界の警察官と言われて来ましたが、世界の安定に向けて軍隊派遣を控える事で逆に国際紛争に歯止めがかかりません。流行病については世界中を震え上がらせたエボラ出血熱を始めデング熱、マラリア、香港熱の流行、そして恐ろしいのが鳥インフルエンザです。この先ウィルスが人から人に伝染させるものになった時、多くの人口が失われる可能性が出てきています。そして環境です。地球温暖化に起因する気候変動が多くの現象を引き起こし将来が危惧されています。

このように全ての面で世界の状態は不安定ですが、そこで「日本！」の出番です。東京 2020 大会を迎える日本こそ世界の模範となるダイナミックでスムーズな大会を運営し感動・勇気・元気・夢を世界中の人たちと共有しつつ、大きな開催意義であるレガシーを 2020 年以降に引継ぎ、発展させる時なのです。

IOC は 2013 年 9 月のトーマス・バッハ会長就任以降、アジェンダ 2020 で 40 項目の改革案を実行に移しつつあります。40 項目のうちの 2 項目は「持続可能性」を促進するテーマであり、理論は兎も角実践に移す時に来ています。

東京 2020 大会のビジョン「スポーツには世界と未来を変える力がある」であり、そして「全ての人が自己ベストを目指し、一人ひとりが互いを認め合い、そして未来につなげよう」というコンセプトを謳っています。

これを環境・持続可能性に実践し世界の模範となるのです。大きな取り組みとして「大会運営を通じた環境価値の最大化」「スポーツの力を活かした持続可能な社会づくり」そして「大会を契機とした豊かな都市生活」を挙げています。

環境価値の最大化は、まず低炭素大会とするために二酸化炭素の排出を最小限に抑え、ありとあらゆる新しい技術を組み合わせて省エネルギー、環境負荷の少ない素材や機器の調達と利用、資源の循環による日本人が伝統的に持っている「もったいない」精神を活かさねばなりません。

またスポーツを通じて自然と調和しながら、いつまでも健康でいられる生活環境を作りつつ環境保全への意識の向上と行動を促して行かねばなりません。

日本は最新テクノロジーを日本の古来の伝統文化を融合して全ての人に配慮した安全で安心、そして持続可能な都市作りを促進して行く必要があります。

大会開催の半分の意義は 2020 年以降にどのように健全なレガシーを残し継承するかと言う事です。文化、教育、国際交流、ボランティアリズム、環境や新しく興るビジネスと並んで持続可能性を残す決意をしたいものです。

IOC スポーツと環境委員会委員

水野正人

(4) スポーツと環境についてのレクチャー原稿
Lecture draft on Sport and Environment

【プラス 1 分間スピーチ】

ご挨拶の中に１分間をプラスして、下記の『環境保全ポスター』の紹介と協力依頼をお願いします。

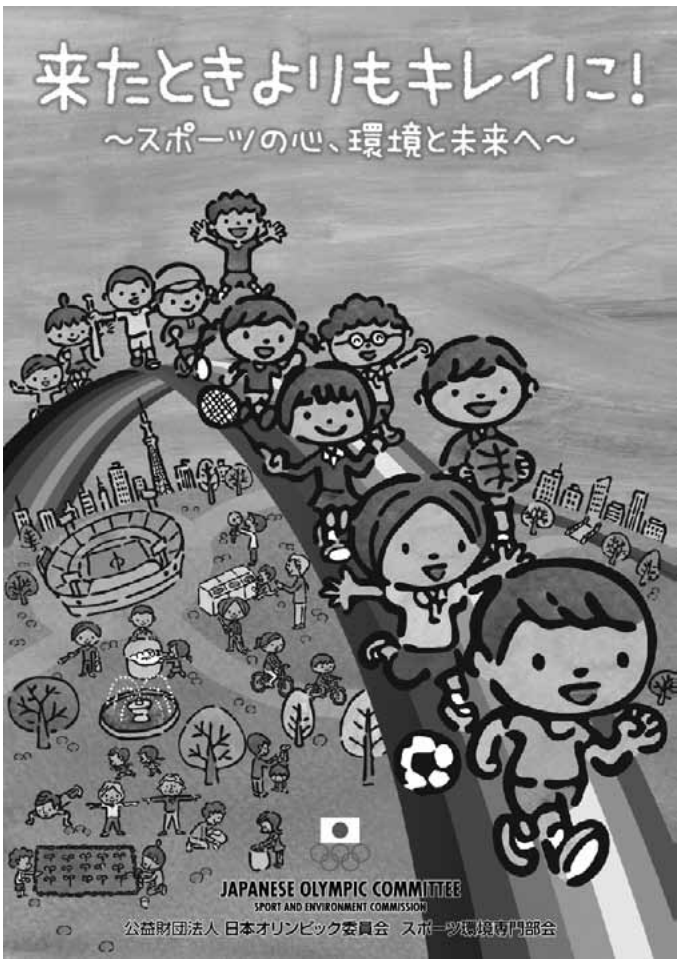
さて、最後に皆様はこのポスターをご存知でしょうか？

我々●●協会は、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）と連携して、異常気象や自然災害の原因となっている地球温暖化に危機感をもち、将来にわたってスポーツ（または競技名）を楽しめる環境を守るために、環境保全の啓発活動に取り組んでいます。

「来たときよりもキレイに！」というこのポスターのフレーズには、単純に「キレイにしましょう！」ということではなく、『スポーツの未来を考え、いまの環境を大切にしていこう！』という、スポーツを通じた持続可能な社会づくりへの大きなメッセージがこめられています。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会まであと●年、東京 2020 大会は、スポーツを通じて地球環境・地域環境の大切さを発信する大会でもあります。

皆様には、環境保全の大切さを理解し、エネルギー・資源の節減やゴミの分別など、できることから実行していただきたいと思います。そして、できれば我々スポーツ（または競技名）を愛するものが、模範的活動を推進し、社会の中で環境保全のリーダーとなることを願っています。



スポーツと環境について 15 分レクチャー原稿

15 分のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. 私たちは全員地球人です（宇宙船地球号の乗組員）

① 46 億年前に地球は形成されました。

② 300 万年前に人類が地上に出現しました。

③ 1 万年前に大家族制による農業革命が起こりました。

④ 20 世紀は人類の転換期（文明の急速発達）でした。

⑤便利な社会になった反面、大量の化石燃料を消費することによって温暖化が進み、気候が大きく変動し自然の破壊、環境の汚染が進んでいます。

⑥環境問題を列記してみましょう。

a. 地球温暖化　b. オゾン層破壊　c. 酸性雨　d. 野生生物種の減少　e. 森林の減少

f. 地球規模の砂漠化　g. 海洋汚染　h. 有害廃棄物の越境移動　i. 大気汚染

2. スポーツと環境についての理解

（1）スポーツを愛する私たちも皆、地球人

①スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかもしれませんがそれは幻想です。

②人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。

（2）私たちの宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります

①地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行くことは不可能なのです。

②ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。

③よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うための環境保全を実行する必要があります。

（3）Think globally, Act locally（地球規模で考え、身の回りのできることを実行する）

①環境保全を推進するにあたり大切なことはまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、またその原因がどこにあるかをしっかり知ることです。

②そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単なことです。スポーツと環境活動の経緯を見てみましょう

3. スポーツと環境活動の経緯を見てみましょう

1. 1972 年札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林。
2. 1976 年デンバーオリンピック大会開催返上（経済・環境問題）。
3. 1990 年まで •IOC は環境保全団体からの抵抗運動を受けていた。

4. 1990 年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた（スポーツ・文化・環境）。
5. 1992 年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名。
6. 1994 年 IOC100 周年パリ・コングレスでスポーツと環境分科会開催。
7. 1995 年 IOC にスポーツと環境委員会設置。
8. 1995 年第 1 回 IOC スポーツと環境世界会議をスイス・ローザンヌで開催。
9. 1997 年第 2 回 IOC スポーツと環境世界会議をクウェート・クウェート市で開催。
10. 1999 年第 3 回 IOC スポーツと環境世界会議（ブラジル・リオディジャネイロ）で Olympic•Movement's•Agenda•21（オリンピック運動の環境保全規約書）を採択、IOC で承認された。
11. 2001 年 4 月 JOC にスポーツ環境委員会設置、活動を開始。
12. 2001 年 11 月第 4 回 IOC スポーツと環境世界会議を長野で開催。
“Give•The•Planet• A •Sporting•Chance”Olympic•Movement's•Agenda•21 の実践。
13. 2003 年第 5 回 •IOC スポーツと環境世界会議をイタリア・トリノで開催。
スポーツ関係者（選手、役員、IOC、IF、NOC、NF、OCOG、地方政府、観客、放送、スポンサー、サプライヤー、建設業者など）が有機的に連繋を取り合い、環境に対してパートナーシップを組むことが決議された。
14. 2005 年第 6 回 IOC スポーツと環境世界会議をケニア・ナイロビで開催。
15. 2007 年第 7 回 IOC スポーツと環境世界会議を中国・北京で開催。
16. IOC ジャック・ロゲ会長が IOC のスポーツ界における環境保全活動を認められ国連環境計画から「地球のチャンピオン」として表彰を受けた。
17. IPCC（気候変動に関する国際パネル）の第 4 次報告と映画「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞。
18. IOC は UNEP が進める「10 億本の植樹キャンペーン」の支持を表明
19. 2009 年第 8 回 IOC スポーツと環境世界会議をカナダ・バンクーバーで開催
20. 2011 年第 9 回 IOC スポーツと環境世界会議をカタール・ドーハで開催
21. 2013 年第 10 回 IOC スポーツと環境世界会議をロシア・ソチで開催
22. 2014 年 9 月 IOC スポーツと環境委員会にて新しくモナコ・アルベール王子が委員長に就任
23. IOC は 2015 年アジェンダ 2020 改革に持続可能性を非常に重要視し、40 項目のうちの 2 項目を持続可能性を強調・協働することを明記した。

4. 協力依頼

（1）まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べてみましょう

（2）「持続可能な開発」と「持続可能性」

①『持続可能な開発』は 92 年リオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスを丁度いい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な社会の開発をしようというものです。

②『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ社会のどのような要素にもどこかで折り合いをつける必要があるのです。

（3）循環型社会の形成

①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。

②例えば、食品の生ゴミをある一定期間（約 25 日）酵素処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環していることになります。

③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。

④これを繰り返すことにより新しい資源の節減が図られるのです。

（4）ゼロ・エミッション

①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。

②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物を分別回収すれば、それらはまた資源となるのです。

③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。

④ゼロ・エミッションのキーワードは「混ぜればゴミ・分ければ資源」です。

（5）高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

①エネルギー資源を節減する為に 3R（Reduce、Reuse、Recycle）の実行。

a. 削減（Reduce）。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。（例：電気や紙の削減）

b. 再使用（Reuse）。同じ物をできるだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着ることができなくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。

c. リサイクル（Recycle）。使えなくなった物を上手く分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。（例：ペットボトル→繊維）

（6）夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減

a. 冬には暖かい下着を着用し、或いはもう一枚重ね着をすることで暖房の温度を少し下げることができます。（ウォーム・ビズ）

b. 夏はできるだけ涼しい服装をし、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げることができます。（クール・ビズ）

（7）温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用（二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用）をする樹木を増やす手伝いをしましょう

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください。

スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進することが大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進し社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

スポーツと環境について

1. 私たちは全員地球人です（宇宙地球号の乗組員）

2. スポーツと環境についての理解

（1）スポーツを愛する私たちも皆、地球人

（2）私たちの宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります

（3）Think globally, Act locally（地球規模で考え、身の回りのできることを実行する）

3. スポーツと環境活動の経緯を見てみましょう

4. 協力依頼

（1）まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べてみましょう

（2）「持続可能な開発」と「持続可能性」

（3）循環型社会の形成

（4）ゼロ・エミッション

（5）高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

（6）夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減

（7）温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用（二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用）をする樹木を増やす手伝いをしましょう

【参考：レクチャーのレジュメ（例）】

レクチャーのための参考資料　（第 11 回スポーツと環境担当者会議資料より抜粋）

スポーツと環境の関係

1. スポーツが環境に与える影響

○ 大規模なスポーツ施設の建設やスポーツ大会の運営による地球環境への影響
○ スポーツへの参加を通じた自然環境や地球環境への関心の高まり
○ 国際大会を通じた、多様な世界や人々との分かち合いの大切さの実感

2.　環境の変化がスポーツに与える影響

○ 大気汚染・水質汚濁等の公害問題の進行による屋外競技への影響
○ 地球温暖化の進行による冬季競技への影響
○ 地球環境問題の深刻化による世界各国の不安定化

取組の考え方

○ スポーツ施設を環境への負荷の少ないものに
・ 適正な規模、資材等を用いて、環境への負荷を最小限に
・ 自然の力と最高の技術を活用した快適さの追求

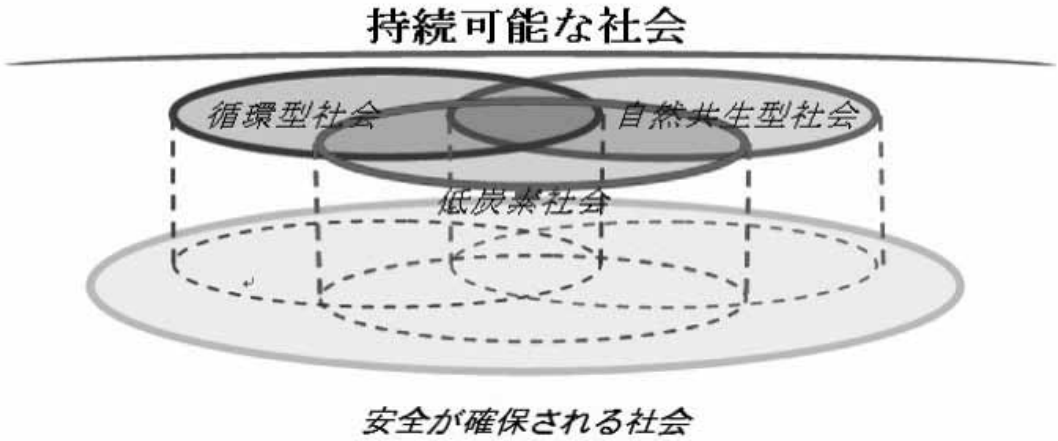
○ スポーツの大会を環境の負荷の少ないものに
・ ゴミを出さない　・・・・・　まずは、簡単なところから。 来た時よりも美しく。
・ 省エネ、リサイクル　・・・・・　大会主催者全員が真剣に取り組む。
・ カーボンオフセット　・・・・・　大会が環境に与える影響をトータルで把握する。

○ スポーツの機会を活用した環境教育・学習
・ 普及啓発活動における影響力
・ ESD（持続可能な開発のための教育）

持続可能な社会とは

○ 今日の社会が地球規模での環境問題である「地球温暖化の危機」、「資源の浪費による危機」、「生態系の危機」の三つの危機に直面しており、それぞれの危機から脱却し、人間社会の発展と繁栄を確保していくためには、「低炭素社会」、「循環型社会」、「自然共生社会」を構築することが、持続可能な社会を実現するために必要。
○ これら三つの社会は独立しているものではなく、相互に関係していることから、それらに向けた取組を統合的に展開していくことが不可欠。

（第4次環境基本計画【平成24年4月27日閣議決定】 より抜粋）



オリンピック・アジェンダ2020　20＋20の提言（抜粋）

「オリンピック・アジェンダ2020」は、2014年12月にモナコで行われた第127次IOC総会において採択された20＋20の改革案です。これら40の提言は、オリンピック・ムーブメントの未来に向けた戦略的な工程表を示しています。

提言4：オリンピック競技大会のすべての側面に持続可能性を導入する

IOCは持続可能性に関して、より一層積極的な姿勢を取り、指導的な役割を担う。また、持続可能性がオリンピック競技大会の開催計画の策定と、開催運営のすべての側面に取り入れられることを保証する。

提言5　オリンピック・ムーブメントの日常業務に持続可能性を導入する

IOCはIOCの日々の業務活動に持続可能性を取り入れる。

IOCは、オリンピック・ムーブメントの関係者に対して各自の組織内に、またその業務活動に持続可能性を導入させ、その援助を行う。

上記を実現するため、IOCはUNEPなどの関連する専門組織と協力する。

6 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組み

Activity for TOKYO 2020 Olympic/Paralympic Games

第 11 回スポーツと環境担当者会議資料より抜粋

『スポーツ界が目指す持続可能な社会づくり』東京2020の取組み

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
大会準備運営局 大会準備運営部 持続可能性担当課長
本橋 淳

TOKYO●2020

4. 大会開催基本計画(Games Foundation Plan)(案)の概要

➢大会開催基本計画の概要

○ 大会開催準備の枠組を提供する基本的な計画　　○ 本計画を出発点に、具体的実施内容を今後検討

➢記載内容

1章 大会ビジョン

◆大会ビジョン(オリンピック・パラリンピック共通)
「すべての人が自己ベストを目指し(全員が自己ベスト)」、「一人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)」、「そして、未来につなげよう(未来への継承)」 を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。
◆パラリンピックへの取組姿勢：パラリンピックムーブメントの発展に貢献し、活力のある共生社会を実現

2章 大会のクライアント

◆クライアントを8つのカテゴリーに分類
◆それぞれのニーズ・要望を十分に把握し、おもてなしの心を大切にして、各クライアントに焦点をあてた計画と運営を確実に実施

3章 会場・インフラ

◆最高の23舞台を用意するため、アスリートのベストパフォーマンス、アクセシビリティ等に配慮し、将来の有効活用を見据えて整備
◆競技会場の具体的な配置等については、現在、レガシー、都民・国民生活への影響、コスト増への対応等の観点からレビューを実施中

TOKYO●2020

TOKYO●2020

4章 大会を支える機能(ファンクショナルエリア)

◆IOC・IPCが提示する6つの分類の下に、大会運営に必要な52のファンクショナルエリア(FA)について、それぞれの機能を明確化
◆安全・安心で確実な大会運営と、アスリートが最高のパフォーマンスを発揮できる環境づくりを目指すとともに、日本や東京ならではのサービス提供の観点も重視し、各FAのミッション、主要目標、主要業務・役割を記載

＜6分類ごとのファンクショナルエリアの取組の例＞ ※ここに掲げたFAは一例として記載したものであり、多岐にわたる全ての機能FAと関係者が連携を保ち進めていく必要がある。

競技 (①大会プロダクトと経験)
○アスリートファーストを意識した最高水準の競技環境を創造する。
(スポーツプレゼンテーションプログラムの開発、スポーツ人材の育成など)

文化 (①大会プロダクトと経験)
○東京、日本、世界の文化から最高の要素を取り出し、多様なプログラムを展開する。
(日本の文化を世界に発信、多様な価値観の共有、文化の未来への継承など)

放送サービス (②クライアントサービス)
○最先端の放送・通信技術で、感動と日本の魅力を世界に配信できるよう調整する。
(国際放送センター(IBC)や会場の環境整備、輸送・宿泊等のサービス提供など)

人材管理 (②クライアントサービス)
○人材を効果的・効率的に確保・育成し、最高の経験を提供する大会を実現する。
(多様な人材の確保、研修、モチベーションの向上、ボランティアの確保・育成など)

エネルギー (③会場とインフラ)
○エネルギー需要に応じ、大会を通じて安定したエネルギー供給を実施する。
(必要な設備の検討・設置、不測事態への対応、国・事業者との協業など)

選手村マネジメント (③会場とインフラ)
○温かく迎え入れ、集中力を高められるよう、機能的な選手村を提供する。
(高水準の安全性・快適性・アクセシビリティの確保、多様な日本文化の体験など)

セキュリティ (④大会サービス)
○安全及びセキュリティを確保し、全ての関係者が実感できる安心を提供する。
(テロ・大規模災害等緊急事態等への対処、セキュリティボランティアの準備など)

ドーピングコントロール (④大会サービス)
○安心して正々堂々と戦える大会とするため、適切かつ効率的なプログラムを実施する。
(JADAとの連携、インテリジェンス及びドーピング調査プログラムの実施など)

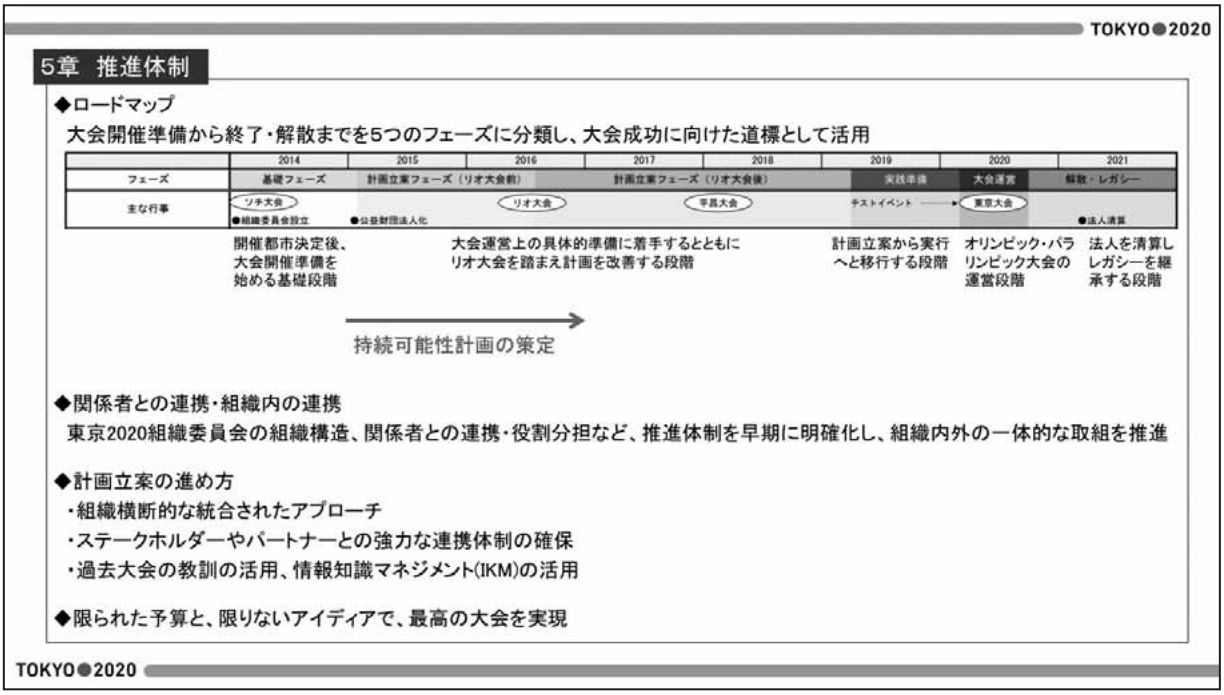
パラリンピックインテグレーション (⑤ガバナンス)
○思い出に残る素晴らしい体験を提供できるよう大会準備全般に関わる。
(パラリンピック競技大会の計画・管理・実行、アクセシビリティ・ガイドラインなど)

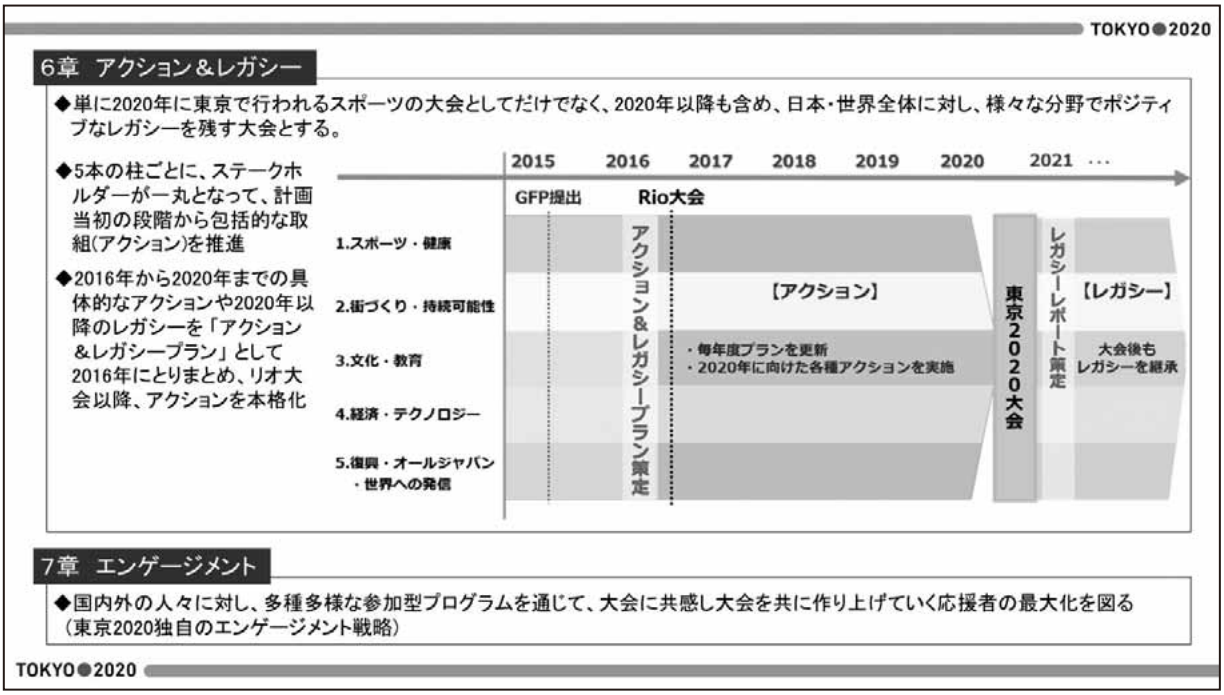
持続可能性 (⑤ガバナンス)
○環境に配慮し、持続可能なオリンピック・パラリンピック競技大会を運営する。
(大会運営への持続可能性プログラムの浸透と未来への継承、ISO20121の検討など)

ブランド保護 (⑥コマーシャルとエンゲージメント)
○エンブレム・マスコット等の知的財産を保護し、ブランド価値を向上させる。
(対象者別のブランド使用許諾基準、アンチ・アンブッシュマーケティングキャンペーンなど)

チケッティング (⑥コマーシャルとエンゲージメント)
○観客とアスリートが一体となった競技会場を創出し、チケット収益で健全な運営を支える。
(チケッティングプログラム、公式のチケット交換・未使用チケットの販売システムなど)

TOKYO●2020





東京2020大会開催基本計画（2015年2月）より抜粋

第4章 大会を支える機能（ファンクショナルエリア）

持続可能性（SUS）

1. ミッション（Mission）

持続可能なオリンピック・パラリンピック競技大会を計画、運営できるよう東京2020 組織委員会の活動をサポートし、東京都や他の主要な関係機関との連携の下、東京2020 持続可能性計画を推進する。さらには国内外の将来にプラスの効果をもたらすレガシーの目標達成を促進させるために東京2020 組織委員会各部門の取組をサポートする。

2. 主要目標（Key Objectives）

1 多様で広範囲に渡る東京2020 持続可能性計画について、早期から各FA 及び外部のステークホルダー・パートナーに共有し、大会運営や組織運営全体に盛り込むこと。

1 持続可能な大会を実施し、大会後に残された持続可能な実践と運用の仕組等を未来へと伝えることにより、オリンピック・パラリンピックの価値を強化すること。

1 東京2020 持続可能性計画を通して、レガシーを生み出すベストな環境を構築すること。

1 グリーンな大会の実施と環境にやさしい会場を確保することによって、持続可能な社会の重要性を日本に浸透させること。

1 ISO20121 の枠組を導入し、東京2020 組織委員会内のイベントマネジメントシステムを構築すること。

1 持続可能な生き方、働き方、楽しみ方について意識を高め、社会的な啓発を行うため東京2020 大会の計画や開催を活用すること。

3. 主要業務・役割（Key Tasks）

業務・役割	大会前	大会中	大会後	パラリンピックにおける相違点
主要なステークホルダーと協力しながら、東京 2020 持続可能性計画を含む持続可能性に関する計画について戦略的な策定を主導する。	✓			
オリンピック大会影響調査（パラリンピック関連項目を含む）を実施する。	✓	✓		
ISO20121 の認証を含め、持続可能性マネジメントシステムを調整し、構築する。	✓	✓		
東京 2020 組織委員会スタッフ及びボランティアを対象とした持続可能性に関する研修プログラムを策定・提供し、組織内部の情報源として各 FA をサポートする。	✓			
関係 FA と連携し、持続可能性の取組や日本の伝統・文化、最先端テクノロジーなどの活用を通じて、先進都市の発展に貢献する。	✓	✓		
東京 2020 組織委員会全体の持続可能性の取組に関する進捗を確認するために、モニタリング及び状況報告の仕組みを構築する。	✓			
持続可能性に係るコミュニケーションやエンゲージメント活動の一環として、持続可能性教育と持続可能性に対する意識啓発プログラムを策定する。	✓	✓		

第6章 アクション＆レガシー

6.1 アクション＆レガシープラン

東京2020大会は、単に2020年に東京で行われるスポーツの大会としてだけでなく、2020 年以降も含め、日本や世界全体に対し、スポーツ以外も含めた様々な分野でポジティブなレガシーを残す大会として成功させなければならない。そのためには、東京2020組織委員会のみならず、政府や東京都を含む地方公共団体、JOC・JPC 等のスポーツ団体、経済団体等のステークホルダーが、東京2020 大会の成功に向けて「オールジャパン」体制で様々なアクションに取り組んでいかなければならない。

東京2020 組織委員会は、多様なステークホルダーが連携して、レガシーを残すためのアクションを推進していくために、「スポーツ・健康」「街づくり・持続可能性」「文化・教育」「経済・テクノロジー」「復興・オールジャパン・世界への発信」の5本の柱ごとに、各ステークホルダーが一丸となって、計画当初の段階から包括的にアクションを進めていくこととした。

具体的には、これらの5本の柱ごとに「実務検討会議（Working Team）」と「専門委員会（Commission）」の2段階の会議を置く。

前者は、各ステークホルダーの実務担当者によって構成される会議であり、それぞれが具体的なアクションを提案する。後者は、主に専門家や有識者を中心として構成される会議で、ステークホルダーも参加し、実務検討会議で提案されたアクションに対して助言を加え、最終的には、2016 年から

2020 年までの具体的なアクションと2020 年以降のレガシーを「アクション＆レガシープラン」として2016 年中期にとりまとめる。

各ステークホルダーは、2016 年のリオ･デ・ジャネイロ大会以降、それぞれプランに基づきアクションを本格化する。東京2020 組織委員会は、以後、毎年3月に翌年度のアクションを中心にプランを更新し、アクションの成果や影響についても掲載していく。

アクションの成果であるレガシーについては、大会後のフォロー体制も含め、後に「レガシーレポート」としてとりまとめられる。

各ステークホルダーがレガシー＆アクションプランに基づき、それぞれのアクションを推進し、大会運営を成功させた暁には、東京大会のレガシーが様々な分野で継承されることになる。

6.2 プランに盛り込まれるレガシーとアクション

本項では、大会を成功させるためのアクションを、それを通じて実現、継承されるレガシーの方向性ごとに分類して例示した。

いずれもビジョン構築の過程で提案された東京大会によってつかみたい「Tomorrow」をベースとした現時点での例示であり、具体的な内容やどのステークホルダーが責任を持って実施していくのかについては、前項で述べた実務検討会議と専門委員会において、政府、東京都、JOC、JPC、経済団体等を交えて十分に論議し、アクション＆レガシープランにおいて明確化していく。

6.2.2 街づくり・持続可能性

（1）大会関連施設の有効活用

（アクションの例）

①周辺地域の街づくりとの連携や大会後の有効活用を想定した大会関連施設の整備

②仮設施設に用いられた資材、設備等の後利用の積極的な検討

（2）誰もが安全で快適に生活できる街づくりの推進

（アクションの例）

①アクセシビリティを重視した競技施設や選手村の整備

②交通機関や公共施設等のバリアフリー化の推進

③多言語対応の推進による外国人旅行者の言葉の壁の解消

④会場周辺等の道路、鉄道等の交通インフラや空港・港湾等の整備・充実

⑤会場周辺等における良好な景観、魅力ある公園、緑地や水辺等の保全・創出

⑥大会期間中の災害やテロ、サイバー攻撃等を想定した、官民一体となったセキュリティ体制の構築と治安基盤の強化

⑦センター・コア・エリア内、競技会場周辺、主要駅周辺の道路、緊急輸送道路等の無電柱化の推進

（3）大会を契機とした取組を通じた持続可能性の重要性の発信

（アクションの例）

①3R（Reduce, Reuse, Recycle）の徹底や、燃料電池車、再生可能エネルギーといった環境技術の活用など大会の準備や運営への持続可能性の反映

②大会での取組をモデルとした更なる省エネルギー化の推進

③路面温度の上昇を抑制する機能をもつ舗装の整備など、選手や観客への暑さ対策の推進

④水素などスマートエネルギーの導入に係る取組の推進

7 関連資料

References

(1) JOCスポーツ環境活動者一覧

Member of Sport and Environment Commission

JOCスポーツ環境専門部会

JOC Sport and Environment Commission

平成 27 年 3 月現在

役職名	氏　名	所属
部 会 長 Chairman	大塚　眞一郎 Shinichiro OTSUKA	公益社団法人　日本トライアスロン連合 Japan Triathlon Union
副部会長 Vice-Chairman	山口　香 Kaori YAMAGUCHI	筑波大学 University of Tsukuba
部 会 員 Member	板橋　一太 Ichita ITABASHI	一般財団法人 日本スポーツ仲裁機構 The Japan Sports Arbitration Agency
〃	岩崎　恭子 Kyoko IWASAKI	株式会社　スポーツビズ SPORTS BIZ CO,.LTD
〃	植松　克之 Katsuyuki UEMATSU	公益財団法人　日本卓球協会 Japan Table Tennis Association
〃	大塚　慶二郎 Keijiro OTSUKA	公益財団法人　日本バレーボール協会 Japan Volleyball Association
〃	風間　明 Akira KAZAMA	公益財団法人　日本陸上競技連盟 Japan Association of Athletics Federations
〃	鎌賀　秀夫 Hideo KAMAGA	公益財団法人　日本レスリング協会 Japan Wrestling Federation
〃	齋藤　由紀 Yuki SAITO	公益財団法人　日本水泳連盟 Japan Swimming Federation
〃	玉利　聡一 Toshikazu TAMARI	公益財団法人　日本サッカー協会 Japan Football Association
〃	西山　雄二 Yuji NISHIYAMA	横浜市市民局 Yokohama Civic Affairs Bureau
〃	原田　裕花 Yuka HARADA	株式会社　RIGHTS. RIGHTS. Inc.
〃	松岡　修造 Shuzo MATSUOKA	公益財団法人　日本テニス協会 Japan Tennis Association
〃	吉田　友佳 Yuka YOSHIDA	株式会社　クローバー Clover Inc.

本会加盟団体スポーツ環境担当者一覧

National Federation

平成26年度JOCスポーツ環境活動　加盟団体スポーツ環境担当者

平成 27 年 3 月現在

競技団体	委員会名／役職／氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
（公財）日本陸上競技連盟	総務委員会 委員長／石沢 隆夫	副委員長／橘川 眞佐志、安田 信昭、戸松 哲男 委　員／中村 要一、曽根 眞人、大西 清司、日隈 広至、奥 裕之、宮永 正俊、高村 佐太郎、上野 祐紀子、幸地 美由紀、脇田 千鶴、内田 直美	風間 明
（公財）日本水泳連盟	スポーツ環境委員会 委員長／齋藤 由紀	副委員長／－ 委　員／佐野 和夫、泉 正文、岩崎 恭子、伊藤 正明、山口 善久、草分 容子、長谷川 雪惠、有久 暢、丸笹 公一郎、林 正洋、守谷 雅之、江口 和美、原田 由梨、野原 亨、小川 知伸	小川 知伸
（公財）日本サッカー協会	社会貢献活動推進プロジェクト プロジェクトリーダー／ 玉利 聡一（管理部 部長代理）	副委員長／－ メンバー／中原 大、青地 俊彦、高埜 尚人、根本 敦史、吉久 直子、川瀬 みどり、吉田 恭子、北村 俊、今井 純子	玉利 聡一
（公財）全日本スキー連盟	スポーツ環境委員会 委員長／谷 雅雄	－	宮沢 賢一
（公財）日本テニス協会	スポーツ環境委員会 委員長／吉田 友佳	副委員長／秋山 英宏、千葉 素久、長塚 京子 委　員／松岡 修造、鍋谷 尚映、岩見 亮、大津 克哉、樗木 聖、長澤 真紀、千葉 輝夫	大石 英代
（公社）日本ボート協会	安全・環境委員会 委員長／竹内 浩	副委員長／－ 委　員／小沢 哲史（アドバイザー）、栗林 健太郎、赤津 杏奈（スタッフ）、興梠 裕一（スタッフ）、尾崎 英夫（スタッフ）	苅谷 裕子
（公社）日本ホッケー協会	総務委員会 環境部 委員長／瀧上 正志	副委員長／－ 委　員／－	安岡 裕美子
（一社）日本ボクシング連盟	環境委員会 委員長／山根 明	副委員長／吉森 照夫 委　員／山本 浩二、内海 祥子	内海 祥子
（公財）日本バレーボール協会	環境委員会 委員長／大塚 慶二郎	－	鍛冶 良則
（公財）日本体操協会	総務委員会 委員長／遠藤 幸一	－	八木沢 則子
（公財）日本バスケットボール協会	環境委員会 委員長／吉田 長寿	副委員長／庄司 義明 委　員／堀井 幹也	長谷川 洸世
（公財）日本スケート連盟	スポーツ環境委員会 委員長／鈴木 民生	副委員長／本間 康彦 委　員／佐々木 正隆、和田 正生、新田 俊彦、富樫 惣一、山崎 弘雄、加藤 真弓	森村 直樹
（公財）日本アイスホッケー連盟	環境委員会 委員長／上原 健治	副委員長／佐々木 史郎 委　員／高橋 昇士、中村 慎、木野内 毅、浜野 清司、黒津 昌風、芳野 俊	建部 彰弘
（公財）日本レスリング協会	スポーツ環境委員会 委員長／鎌賀 秀夫	副委員長／－ 委　員／木名瀬 重夫、真田 栄作、本田原 明、白井 正良、吉澤 昌、関 貴史	鎌賀 秀夫
（公財）日本セーリング連盟	環境委員会 委員長／永井 真美	副委員長／長嶋 匡之 委　員／青山 篤（アドバイザー）、菊地 透、三浦 多満枝、細川 敬一、芝田 崇行	鈴木 修
（一社）日本ウエイトリフティング協会	スポーツ環境委員会 委員長／守 昌宏	副委員長／加納 修 委　員／後藤 節哉、篠 弘明、多小田 一紀、小田 敏郎	守 昌宏
（公財）日本ハンドボール協会	環境委員会 委員長／大橋 則一	副委員長／兼子 真 委　員／家永 昌樹、羽田 裕一、村上 隆	兼子 真

競技団体	委員会名／役職／氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
（公財）日本自転車競技連盟	競技運営委員会　環境部会 委員長／松倉 信裕	副委員長／榎 正人 委　員／黒川 剛、飯田 太文、早坂 和弘	白崎 孝紀
（公財）日本ソフトテニス連盟	環境・教育プロジェクト 委員長／川島 登	副委員長／篠邉 保 委　員／柳下 秋久、安藤正美、林田 正信、 大川 京子、八木橋 勉、林 昭文、金岡 昭房、 林 研一	玉木 進
（公財）日本卓球協会	環境委員会 委員長／鈴木 一雄	副委員長／佐々木 賢二 委　員／宮本 勝典、五十嵐 久美子、坂部 忠彦、 佐藤 佐知典	渡邉 紗知子
（公財）全日本軟式野球連盟	環境担当委員会 委員長／中村 敏治	副委員長／西澤 茂芳、後藤 成弥、宗像 豊巳 委　員／－	清野 祐
（公財）日本相撲連盟	総務委員会 委員長／竹内 晋岸	副委員長／櫟原 利明 委　員／－	吉村 登
（公社）日本馬術連盟	JOC スポーツ環境委員会 委員長／－	副委員長／－ 委　員／長友 満則	田村 好伸
（公社）日本フェンシング協会	環境委員会 委員長／中田 玲子	副委員長／河原塚 淳 委　員／－	中田 玲子
（公財）全日本柔道連盟	－	－	－
（公財）日本ソフトボール協会	スポーツ環境委員会 委員長／竹島 正隆	副委員長／－ 委　員／笹田 嘉雄、三宅 豊	久下 知宏
（公財）日本バドミントン協会	環境委員会 委員長／能登 則男	副委員長／本多　修治 委　員／近岡 昭、池田 公子	本多 修治
（公財）全日本弓道連盟	－	－	清水 政範
（公社）日本ライフル射撃協会	総務委員会環境部会 委員長／松丸 喜一郎	副委員長／大野 明敏、谷津 義男 委　員／－	佐藤 陽介
（一財）全日本剣道連盟	医・科学委員会 委員長／松永 政美	副委員長／－ 委　員／朝日 茂樹、佐々木 健、高幣 民雄、 野見山 延、宮坂 信之、武藤 健一郎、森 伸雄	岩坂 守
（公社）日本近代五種協会	日本近代五種協会環境委員会 委員長／野上 等	副委員長／上瀧 守 委　員／－	野上 等
（公財）日本ラグビー フットボール協会	総務委員会環境部門 委員長／高野 敬一郎	副委員長／－ 委　員／児玉 隆一郎、岩上 教行、中嶋 一義、 片山 良太、小宮山 弘	橘 登紀子
（公社）日本山岳協会	自然保護委員会 委員長／石倉 昭一	副委員長／松隈 豊、徳永 邦光 委　員／岩崎 繁夫、小川 由樹、小原 美子、 小高 令子、小林 貞幸、斎藤 長作、手塚 福寿、 西山 常芳、濱田 伸、廣田 博、堀江 伸子、 紅葉 順一	松隈 豊
（公社）日本カヌー連盟	環境対策委員会 委員長／八鍬 美由紀	副委員長／大城 良介 委　員／－	岩上 禎宏
（公社）全日本アーチェリー連盟	未設置 委員長／島田 晴男（主担当）	副委員長／穂苅 美奈子 委　員／－	島田 晴男
（公財）全日本空手道連盟	環境委員会（仮称） ※ H27 年設置予定 委員長／有竹 隆佐	副委員長／日下 修次 委　員／喜島 智香子、三村 由紀、亀谷 誠康、 石田 航	石田 航
（公社）全日本銃剣道連盟	環境委員会 委員長／鈴木 健	副委員長／片山 幸太郎 委　員／竹添 静雄、住田 隆良、関 高、石井 実、 村井 敏夫、猪 友一、矢野 満、津田 昌泰、 井澤 継男、竹下 利一、上村 正、松本 栄一郎	平本 悌子
(一社）日本クレー射撃協会	環境問題対策協議会 座長／高橋 義博	副委員長／－ 委　員／上村 耕司、野口 省吾、見上 攻	大江 直之
（公財）全日本なぎなた連盟	－	－	－
（公財）全日本ボウリング協会	総務委員会　普及・広報部会 部会長／松下 秀雄	副委員長／－ 委　員／富山 幸美	宮内 久美子
（一社）日本ボブスレー・ リュージュ・スケルトン連盟	－	－	池田 芳正
（一財）全日本野球協会	総務委員会　スポーツ環境部会 部会長／野端 啓夫	－	柴田　穣

競技団体	委員会名／役職／氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
（特非）日本スポーツ芸術協会	―	―	相原 茂明
（公社）日本武術太極拳連盟	―	―	―
（公社）日本カーリング協会	環境委員会 委員長／小川 豊和	副委員長／― 委　員／北田 一浩、平間 初穂、楠井 悠平、 テリー・ジョンストン、宮越 武志	倉本 憲男
（公社）日本トライアスロン連合	事業広報チーム（環境部会） リーダー／水畑 宏之	コーリーダー／山本 光宏 委　員／西沢 潤、宮本 光広、宮本 宏志、 沼田 英之、新井 康史、横山 美紀子、松山 文人、 小沼 徹、清本 直、酒井 高志、朝岡 大輔、 篠田 雅司、徳桝 孝志、坂口 弥寿久、岩越 亮、 大村 信行、関口 秀之、リサ・ステッグマイヤー	中山 正夫
（公財）日本ゴルフ協会	―	―	―
（公社）日本スカッシュ協会	環境対策委員会 委員長／宮城島 眞知子	副委員長／梶田 幸子 委　員／日向 孝知、潮木 仁、大根田 芳浩	梶田 幸子
（公社）日本ビリヤード協会	―	―	東仙 明彦
（公社）日本ボディビル・ フィットネス連盟	環境委員会 委員長／元木 俊博	副委員長／― 委　員／高岡 光弘	小西 康道
（一社）全日本テコンドー協会	環境委員会 委員長／―	副委員長／川津　博、阿部 海将 委　員／斉藤 和広、山下 弘之、小池 隆仁、申 東準、 吉田 成、阿部 勝治、牧野 文彦	指方 幸子
（公社）日本ダンススポーツ連盟	環境委員会 委員長／嶋田 洋子	副委員長／― 委　員／岸尾 政弘、鴻巣 久枝、纐纈 和夫	岸尾 政弘
（一社）日本バイアスロン連盟	競技運営・環境委員会 委員長／二峰 良四男	副委員長／木村 豊悟、工藤 十九 委　員／関 敏博、関 貴之、滝澤 健、小野 健治、 井口 長治、宮崎 秀樹、柴田 主税	山村 明
（一社）日本カバディ協会	環境委員会 委員長／河合 陽児	副委員長／林 佳子 委　員／高野 一裕、新田 晃千、高岡 真由子、 金子 裕美	河合 陽児
（一社）日本セパタクロー協会	環境委員会 委員長／菅野 瑞穂	副委員長／寺本 進 委　員／赤石 量也、中塚 智之	菅野 瑞穂
（特非）日本クリケット協会	環境委員会 委員長／宮地 直樹	副委員長／窪田 真 委　員／小林 真帆、星野 桂子、宮地 直実	窪田 真
（公社）日本アメリカンフットボール 協会	―	―	―
（公社）日本チアリーディング協会	環境委員会 委員長／久保田 友代	―	下地 隆
（公社）日本オリエンテーリング協会	―	―	―
（公社）日本パワーリフティング協会	―	―	―
（公社）日本ペタンク・ブール連盟	―	―	―
（一社）日本フライングディスク協会	環境委員会 委員長／角田 信彦	―	梅原 貴正

(2) IOCスポーツと環境委員会
IOC Sport and Environment Commission

Chairman
The Sovereign Prince ALBERT II

Members
The Prince Feisal AL HUSSEIN
Andrés BOTERO PHILIPSBOURNE
Crown Prince Frederik of DENMARK
Tony ESTANGUET
Habu GUMEL
Barbara KENDALL
Rita SUBOWO
Shamil TARPISCHEV

Experts
Cheikh Saoud bin Abdulrahman AL-THANI
Camilo AMADO
Michel BARNIER
Ann DUFFY
Joseph FENDT
Vincent GAILLARD
Camilla HAUGSTEN
Johnson JASSON (IPC)
George KAZANTZOPOULOS
Andrej KRASNICKI
Habib MACKI
Masato MIZUNO
Myriam MOYO
Mamadou Diagna NDIYAE
Sunil SABHARWAL
Naysan SAHBA
Gideon SAM
Luzeng SONG
Michael VESPER
Efraim ZINGER
Tania BRAGA - Rio 2016 Representative
Dae-man KIM - PyeongChang 2018 Representative
Tomoe OTSUKA - Tokyo 2020 Representative

Director in charge
Director of International Cooperation and Development

2015年3月末現在

(3) OCA環境委員会
OCA Environment Committee

Chairman

Mr Kyung-Sun YU	Korea

Members

Mr Kutubuddin AHMED	Bangladesh
Mr Masato MIZUNO	Japan
Mr Salamat ERGESHOV	Kyrgyzstan
Mr Mohamed Mahid SHAREEF	Maldives
Mr Khin Maung LWIN	Myanmar
Mr Khaled Saleh Al-Dokheel	Saudi Arabia
Mr Dion Gomes	Sri Lanka
Ms Lai Pak Leng Perry	Macau
Dr Tiras Odisho Anwaya BINNO	Iraq
Dr Maher Khayata	Syria

2015年3月末現在

(4) IOCスポーツと環境委員会小史

IOC Sport and Environment Commission

1972年	札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
1976年	デンバーオリンピック冬季大会開催返上（経済・環境問題） 1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた 1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた（スポーツ・文化・環境）
1992年	バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加NOC署名
1994年	第12回オリンピック・コングレス（IOC創立100周年）でスポーツと環境分科会開催・パリ
1995年	IOCにスポーツと環境委員会設置　委員長 パル・シュミット 第１回IOCスポーツと環境世界会議開催・ローザンヌ
1996年	委員に就任　岡野俊一郎（1996-2001）、水野正人（1996-現在）
1997年	第２回IOCスポーツと環境世界会議開催・クウェート
1999年	第３回IOCスポーツと環境世界会議開催・リオデジャネイロ オリンピックムーブメントアジェンダ21採択
2001年	第４回IOCスポーツと環境世界会議開催・長野市 "GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE"
2002年	極東及び東アジア、第１回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京
2003年	第５回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ "PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT"
2004年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ハバナ
2005年	極東及び東アジア、第２回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ドバイ 第６回IOCスポーツと環境世界会議開催・ナイロビ "SPORT, PEACE AND ENVIRONMENT"
2006年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・クアラルンプール IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・キングストン
2007年	第７回IOCスポーツと環境世界会議開催・北京 "FROM PLAN TO ACTION"
2008年	IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー開催・インチョン IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・コロンビア
2009年	第８回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー "INNOVATION AND INSPIRATION：HARNESSING THE POWER OF SPORT FOR CHANGE" 2009IOCスポーツと環境賞制定 IOCスポーツと環境・地域セミナー・サモア
2010年	IOCスポーツと環境委員会
2011年	第９回IOCスポーツと環境世界会議・ドーハ "PLAYING FOR A GREENER FUTURE" 2011IOCスポーツと環境賞授賞式
2012年	IOCスポーツと環境委員会
2013年	第10回IOCスポーツと環境世界会議・ソチ 第3回IOCスポーツと環境賞授賞式
2014年	IOCスポーツと環境委員会

(5) JOCスポーツ環境専門部会小史

Brief history of the JOC sport and Environment Commission

平成13年度 (2001年)	JOCスポーツ環境委員会設置 委員長 水野正人、委員 石川徹男、櫻井孝次、佐野和夫、瀬尾洋、早田卓次、平松純子、松岡修造、森健兒 第4回IOCスポーツと環境世界会議主催・長野市 “GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE”
平成14年度 (2002年)	ファーストポスター、パンフレット作成 極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京　参加
平成15年度 (2003年)	セカンドポスター作成 平成14年度スポーツ環境委員会調査研究報告書作成 ７月にISO14001認証登録、IOC加盟202NOCの中で初めて 第５回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ 　佐野和夫スポーツ環境委員からJOCの活動を報告 　“PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT”
平成16年度 (2004年)	サードポスター作成 平成15年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第１回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 　（本会関係者、加盟団体、パートナー）
平成17年度 (2005年)	ジョイントポスター・パンフレット（第２版）作成 平成16年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 環境省の「チーム・マイナス６％」のメンバーとなる 第１回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・大阪市 第２回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第６回IOCスポーツと環境世界会議・ナイロビ 　佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告
平成18年度 (2006年)	イラストポスター・横（５th）作成 平成17年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 ISO14001認証を更新登録 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・クワラルンプール 　遠藤スポーツ環境専門委員からJOCの活動を報告 第２回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・長野市 第３回スポーツと環境担当者会議開催・国立オリンピック記念青少年総合センター
平成19年度 (2007年)	イラストポスター・縦（６th）作成 平成18年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第３回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・東京都 第４回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第７回IOCスポーツと環境世界会議・北京 　佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・インチョン 　鎌賀スポーツ環境専門委員・JOC及びNFの活動を報告
平成20年度 (2008年)	ポスター（７th）作成 平成19年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 IOCスポーツと環境競技別ガイドブック翻訳本作成・同マニュアル・CD-ROM 第４回JOCスポーツと環境・地域セミナー・広島市 第５回スポーツと環境担当者会議・ナショナルトレーニングセンター 第１回OCAコングレス・クウェート 　板橋一太スポーツ環境専門委員長からJOCの活動を報告 第８回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー 　板橋一太スポーツ環境専門委員長出席
平成21年度 (2009年)	ポスター（８th）作成 平成20年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第５回JOCスポーツと環境・地域セミナー・福岡市 第６回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成22年度 (2010年)	ポスター（９th）作成 平成21年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第６回JOCスポーツと環境・地域セミナー・横浜市 第７回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成23年度 (2011年)	ポスター（10th）作成 平成22年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第７回JOCスポーツと環境・地域セミナー・神戸市 第８回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成24年度 (2012年)	ポスター (11th)作成 平成23年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第8回JOCスポーツと環境・地球セミナー・札幌市 第9回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成25年度 (2013年)	ポスター（12th）作成 平成24年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第9回JOCスポーツと環境・地域セミナー・熊本市 第10回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成26年度 (2014年)	平成25年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第10回JOCスポーツと環境・地域セミナー・秋田市 第11回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成27年度 (2015年)	ポスター (13th)作成 平成26年度スポーツ環境専門部会報告書作成 第11回JOCスポーツと環境・地球セミナー・帯広市（予定） 第12回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター (予定)

（6）IOCオリンピック・アジェンダ2020　20＋20の提言（抜粋）
IOC OLYMPIC AGENDA 2020

提言4：オリンピック競技大会のすべての側面に持続可能性を導入する

IOCは持続可能性に関して、より一層積極的な姿勢を取り、指導的な役割を担う。また、持続可能性がオリンピック競技大会の開催計画の策定と、開催運営のすべての側面に取り入れられることを保証する。

1. 持続可能性に関する戦略を前進させ、オリンピック競技大会の潜在的な開催都市と実際の大会開催都市を統合する。さらに、各都市のプロジェクトのあらゆる段階で、経済、社会、環境の各領域を包含する持続可能性の施策を設ける。

2. 組織運営全体で統合的な持続可能性の統治を最善なものとするため、新たに選定した大会組織委員会を支援する。

3. IOCはNOCとUMVO（World Union of Olympic City＝オリンピック開催都市連合）などの外部の組織の支援を受け、オリンピック競技大会の遺産を確実に監視する。

提言5　オリンピック・ムーブメントの日常業務に持続可能性を導入する

IOCは持続可能性の原則を導入する。

1. IOCはIOCの日々の業務活動に持続可能性を取り入れる。
   - IOCは物品やサービスの調達、およびイベントの組織運営（大小の会議など）で持続可能性を取り入れる。
   - IOCは移動による二酸化炭素排出量への影響を減少させる。
   - IOCはローザンヌの本部統合に際し、可能な限り最善の持続可能性の基準を適用する。

2. IOCは以下の方法により、オリンピック・ムーブメントの関係者に対して各自の組織内に、またその業務活動に持続可能性を導入させ、その援助を行う。
   - 勧告を推し進める。
   - 成功事例やスコアカードなどのツールを提供する。
   - オリンピック関係者間で情報交換するための仕組みを確実に提供する。
   - 取り組みの実施を支援するため、オリンピック・ソリダリティーなど既存の手段を活用する。

3. 上記を実現するため、IOCはUNEPなどの関連する専門組織と協力する。

平成26年度　JOC スポーツ環境専門部会　活動報告書

発　行　日：平成27年6月19日
編集・発行：公益財団法人日本オリンピック委員会　スポーツ環境専門部会
〒150-8050　渋谷区神南1-1-1　岸記念体育会館内
U　R　L：http://www.joc.or.jp/eco/
印　　刷：広研印刷株式会社

問い合わせ：公益財団法人日本オリンピック委員会　事業部
TEL：03-3481-2238　FAX：03-3481-2292

公益財団法人 日本オリンピック委員会